



2020年上期の業種別部会長シンポジウム

**SIMPÓSIO DOS PRESIDENTES DOS
DEPARTAMENTOS SETORIAIS**

CÂMARA DE COMÉRCIO E INDÚSTRIA JAPONESA DO BRASIL

HomePage: www.camaradojapao.org.br / E-mail: secretaria@camaradojapao.org.br

前半司会

讃井 慎一 総務委員長

APRESENTADOR

**Presidente da Comissão
de Coordenação Geral**

Shinichi Sanui

挨拶

村田 俊典 会頭

Palavras do Presidente da Câmara:

Toshifumi Murata

金融 部会

東 邦彦 部会長

Departamento Financeiro

Presidente: Kunihiro Higashi

「2019年の回顧と2020年の展望」 『ビジネス環境改善に期待、 いま為すべきこと』

2020年3月5日(木)

1. ブラジル経済動向

2. 銀行業界動向

3. 保険業界動向



1. ブラジル経済動向



Brazil - 2019 in Review 2020 Outlook

2019年の回顧

2018年に続き、経済成長は鈍化。但し、各種改革では重要な成果を上げる。

ブラジル国内

- 年金改革
- 健全な経済政策

ブラジル国外

- アルゼンチン危機
- 米中通商問題

2020年の展望

ブラジル国外要因により、逆風が吹く中、ブラジル経済は好転。

ブラジル国内

- 税制改革、省庁再編
- 歴史的低水準の政策金利

ブラジル国外

- コロナウイルス
- 米国大統領選挙

主要マクロ経済指標の推移と予測

		2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020 予想
GDP 成長率		1.9%	3.0%	0.5%	-3.6%	-3.3%	1.3%	1.3%	1.2%*	2.3%*
名目 GDP	(BRL bi)	4,815	5,332	5,779	5,996	6,269	6,583	6,889	7,293**	7,826**
	(USD bi)	2,464	2,468	2,455	1,796	1,800	2,063	1,885	1,849* *	1,865**
貿易収支 (USD bi)		18.9	2.3	-4.2	19.5	47.6	67.0	58.0	46.7	36.4*
小売売上動向指数		8.4%	4.3%	2.2%	-4.4%	-6.3%	2.1%	2.3%	1.9%	2.8%***
基礎的財政収支 (BRL bi)		105	91	-33	-111	-156	-111	-108	-62	-92**
株価/Bovespa (pts)		60,95	51,51	50,01	43,35	60,23	76,40	87,89	115,65	N/A
政策金利/Selic		7.25%	10.00%	11.75%	14.25%	13.75%	7.00%	6.50%	4.50%	4.25%*
インフレ率/IPCA		5.84%	5.91%	6.41%	10.67%	6.29%	2.95%	3.75%	4.31%	3.25%*
為替レート (BRL/USD)		2.05	2.36	2.66	3.96	3.26	3.31	3.88	4.02	4.10*

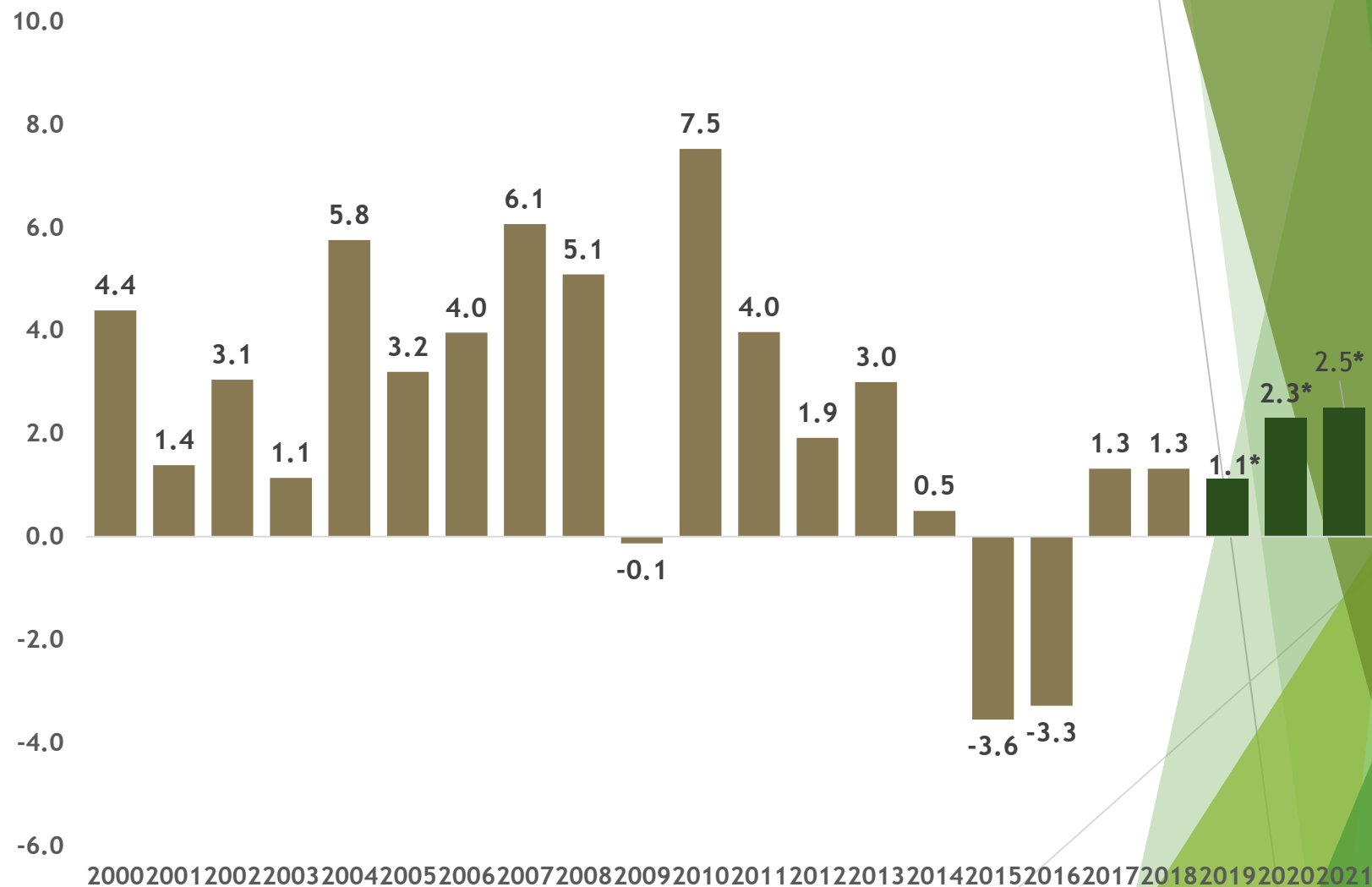
Source: BCB, IBGE, MCM Consultores, Tendências Consultoria

* BCB Focus

** MCM Consultores

*** Tendências Consultoria

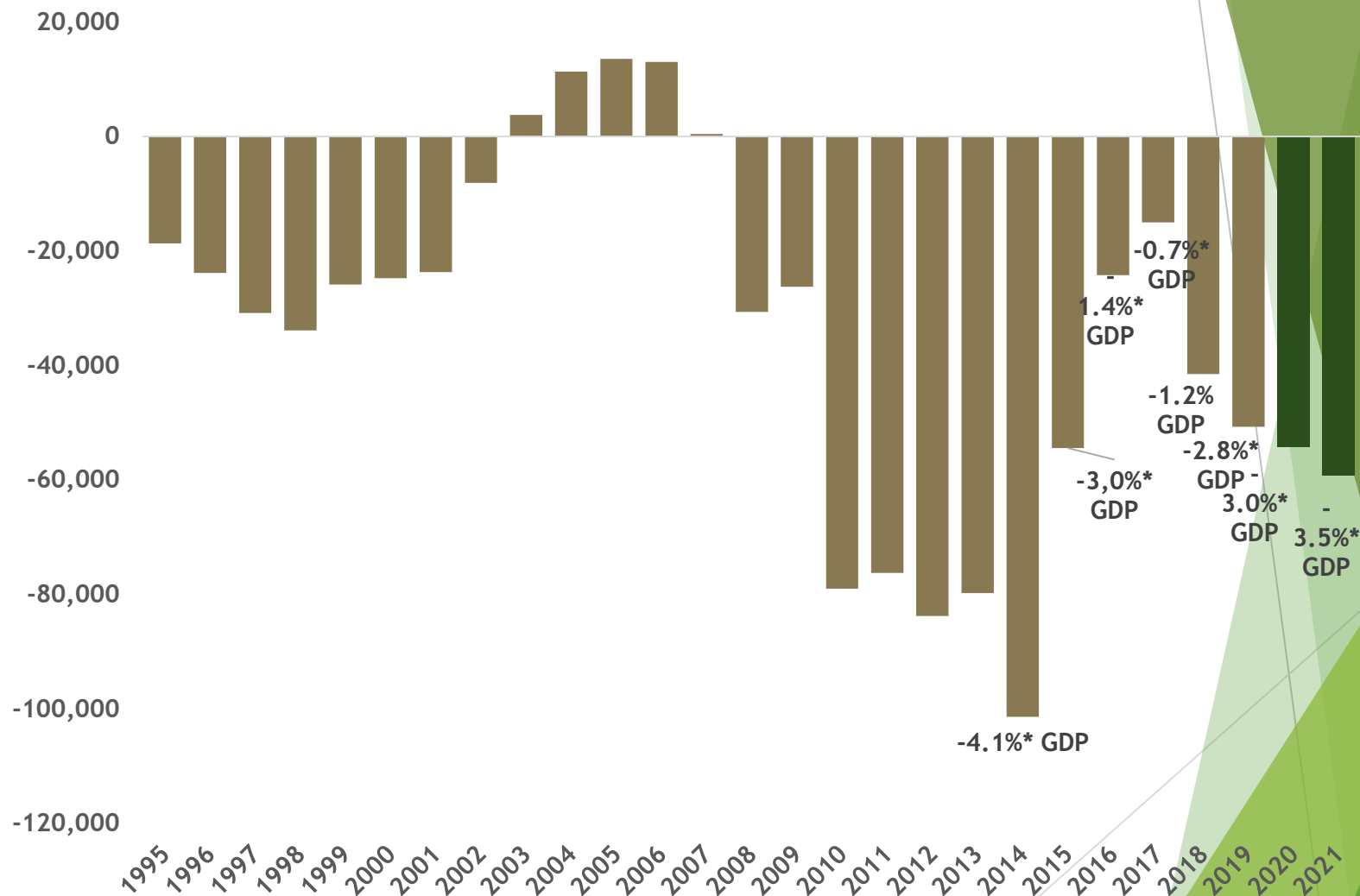
GDP 成長率 (%)



Source: IBGE

*BCB Focus Survey

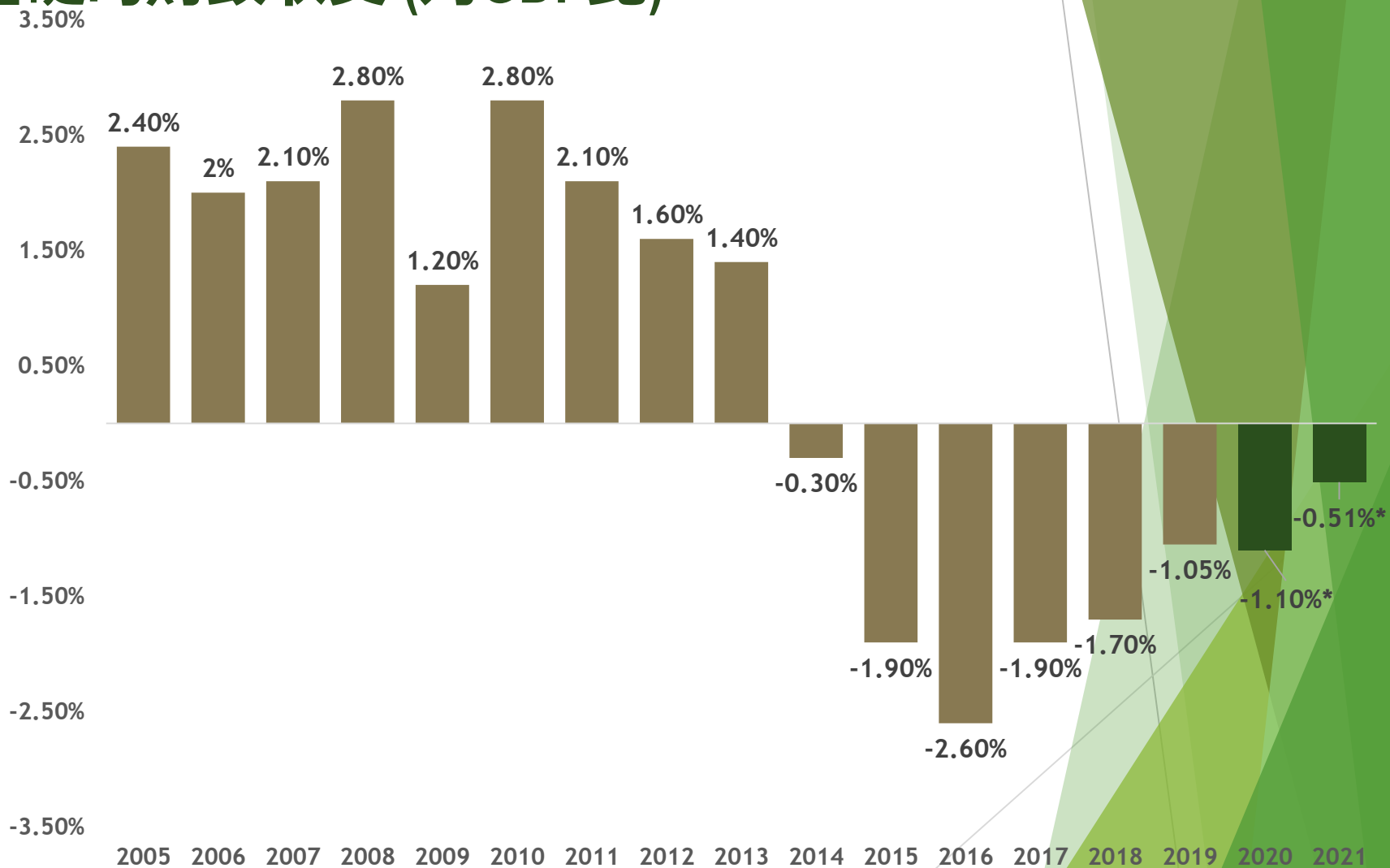
經常収支 (US\$ mi)



Source: BCB

*MCM Consultores

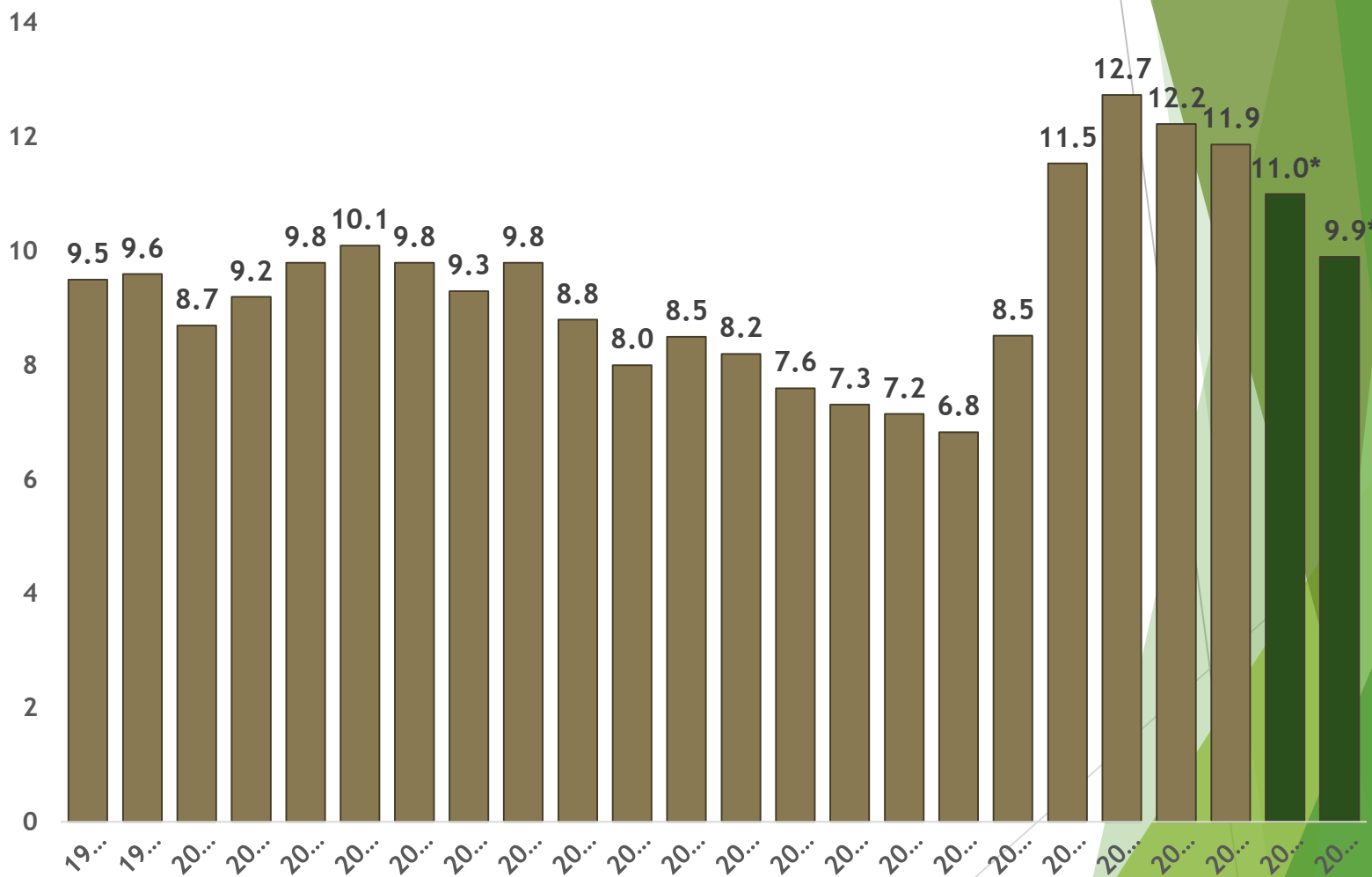
基礎的財政収支 (対GDP比)



Source: BCB

*BCB Focus Survey

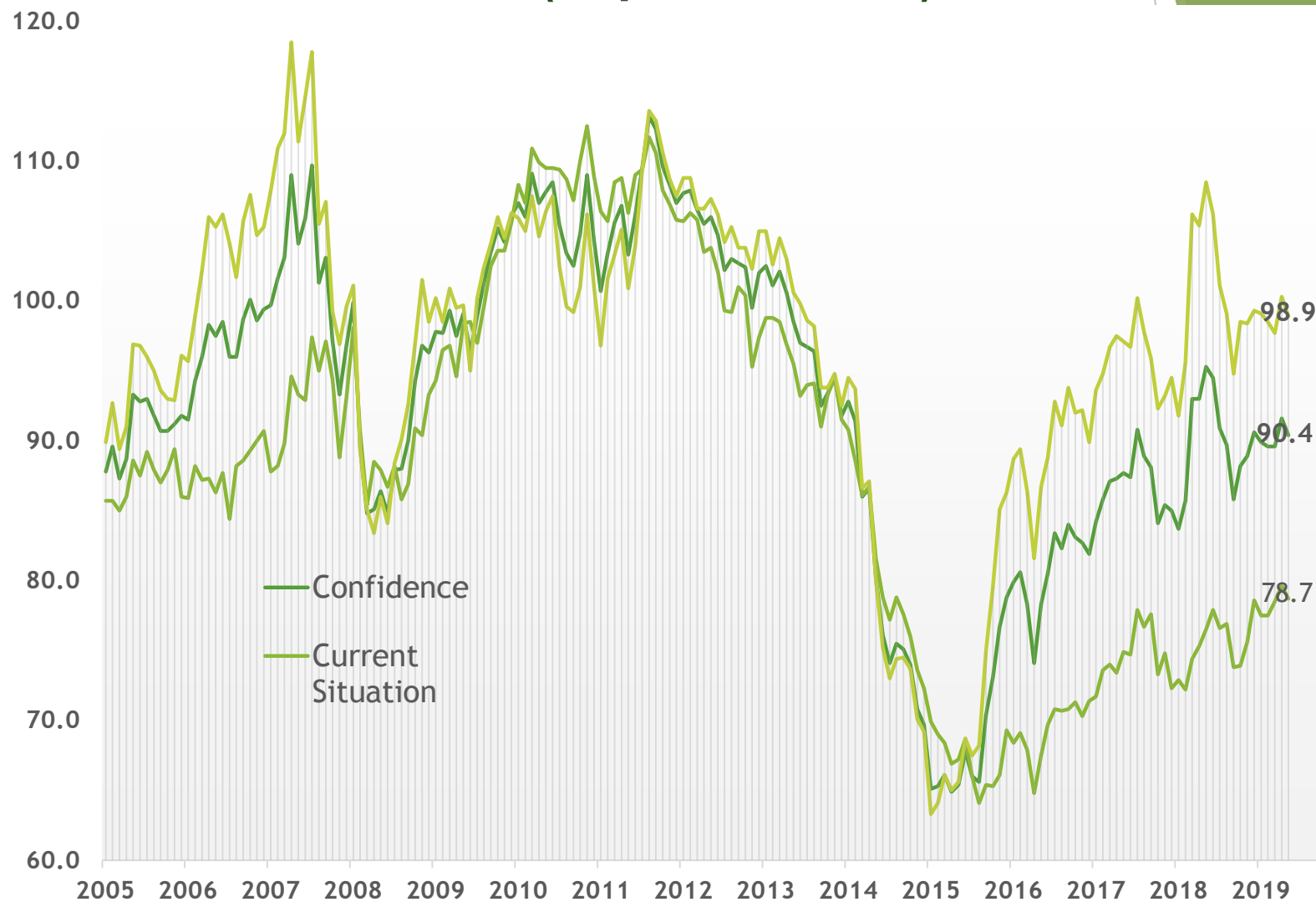
失業率推移



Source: IBGE

*MCM Consultoria
Forecasts

消費者信頼感指数 (Sep/2005 = 100)



Source: FGV

為替レート、CDS (5年)



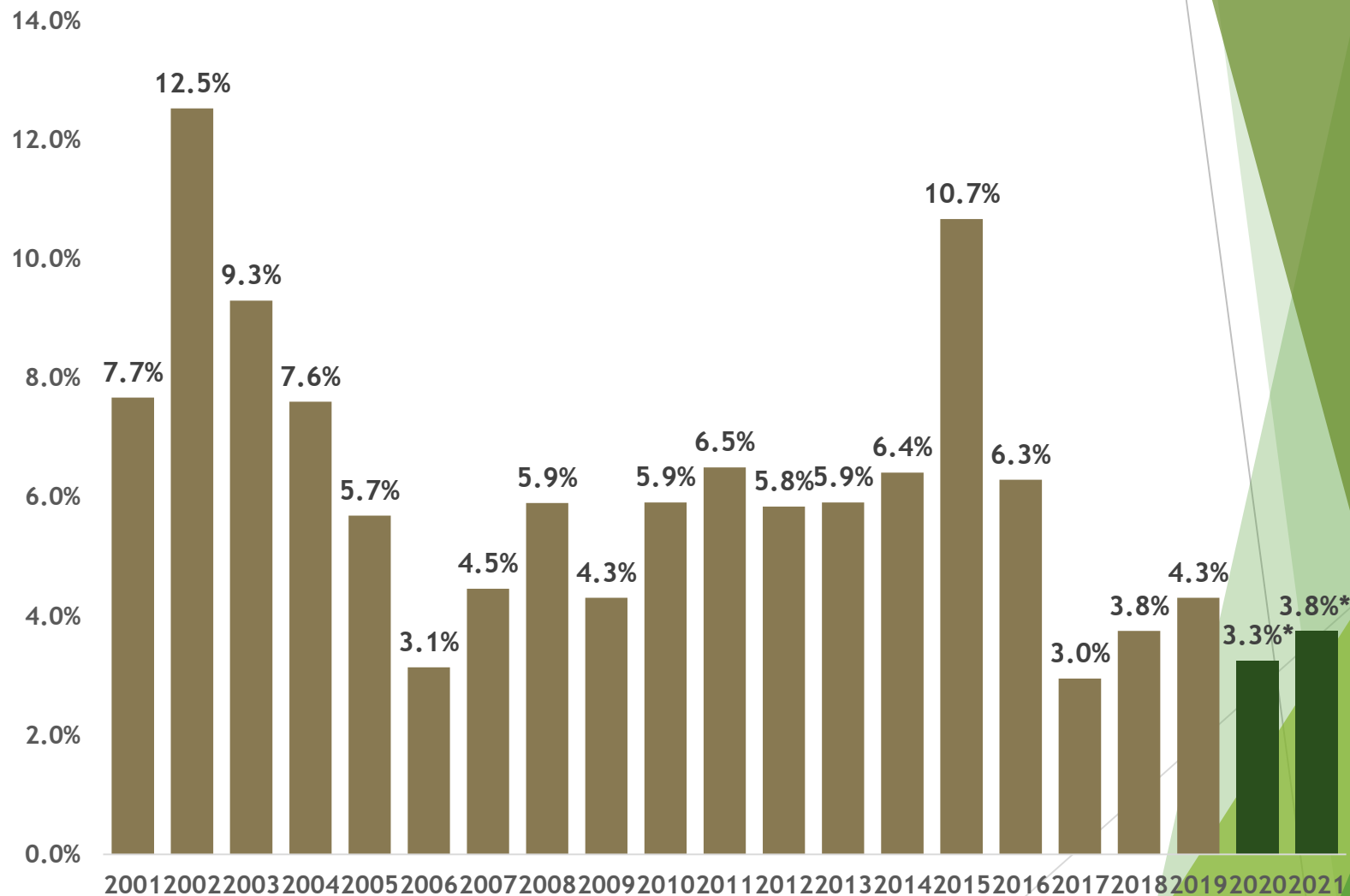
Source: Bloomberg

株価推移 (ボベスパ市場)



Source: Bloomberg

インフレ率推移 (IPCA)

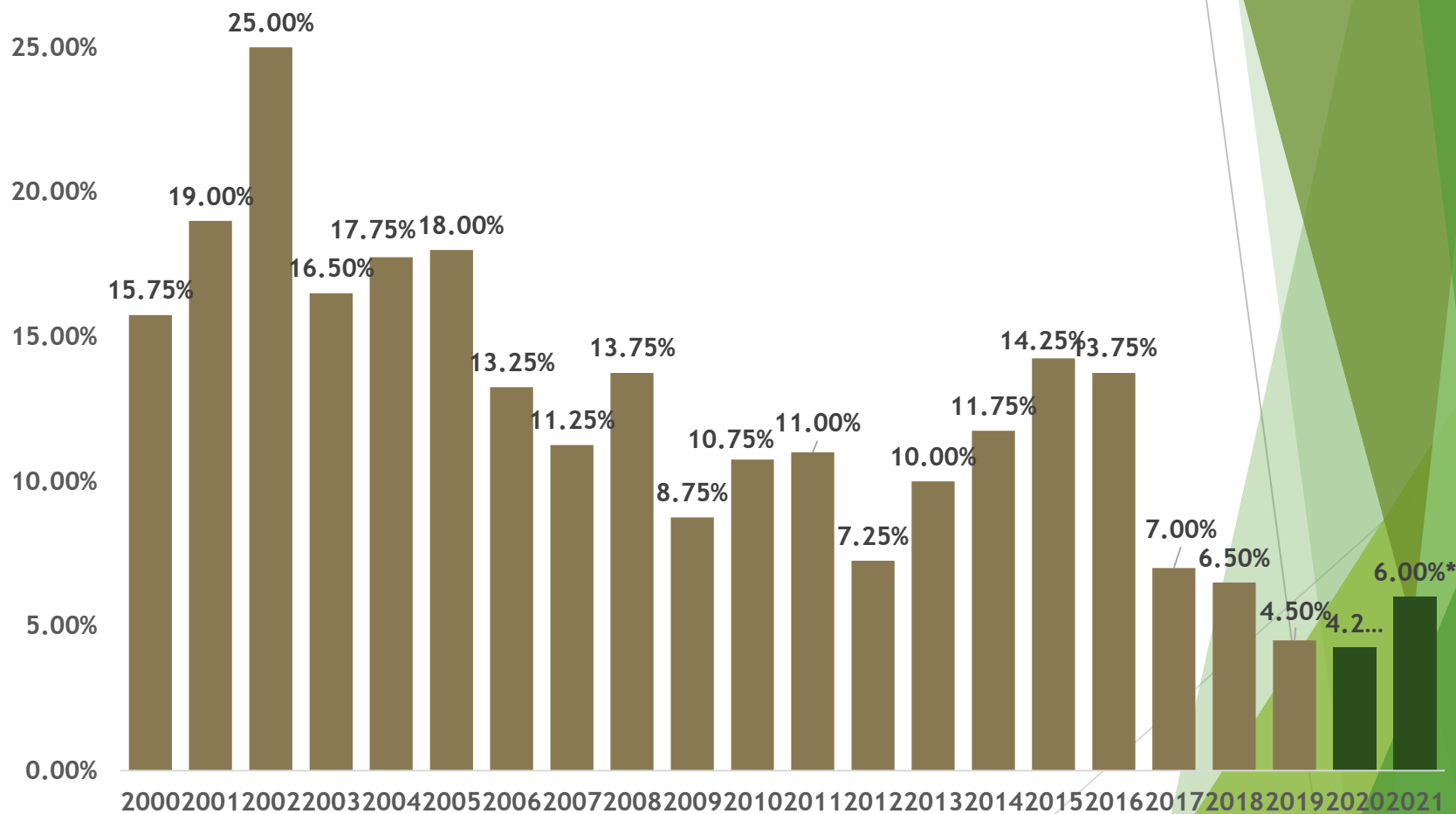


Source: IBGE

*BCB Focus
Survey

政策金利 (SELIC)

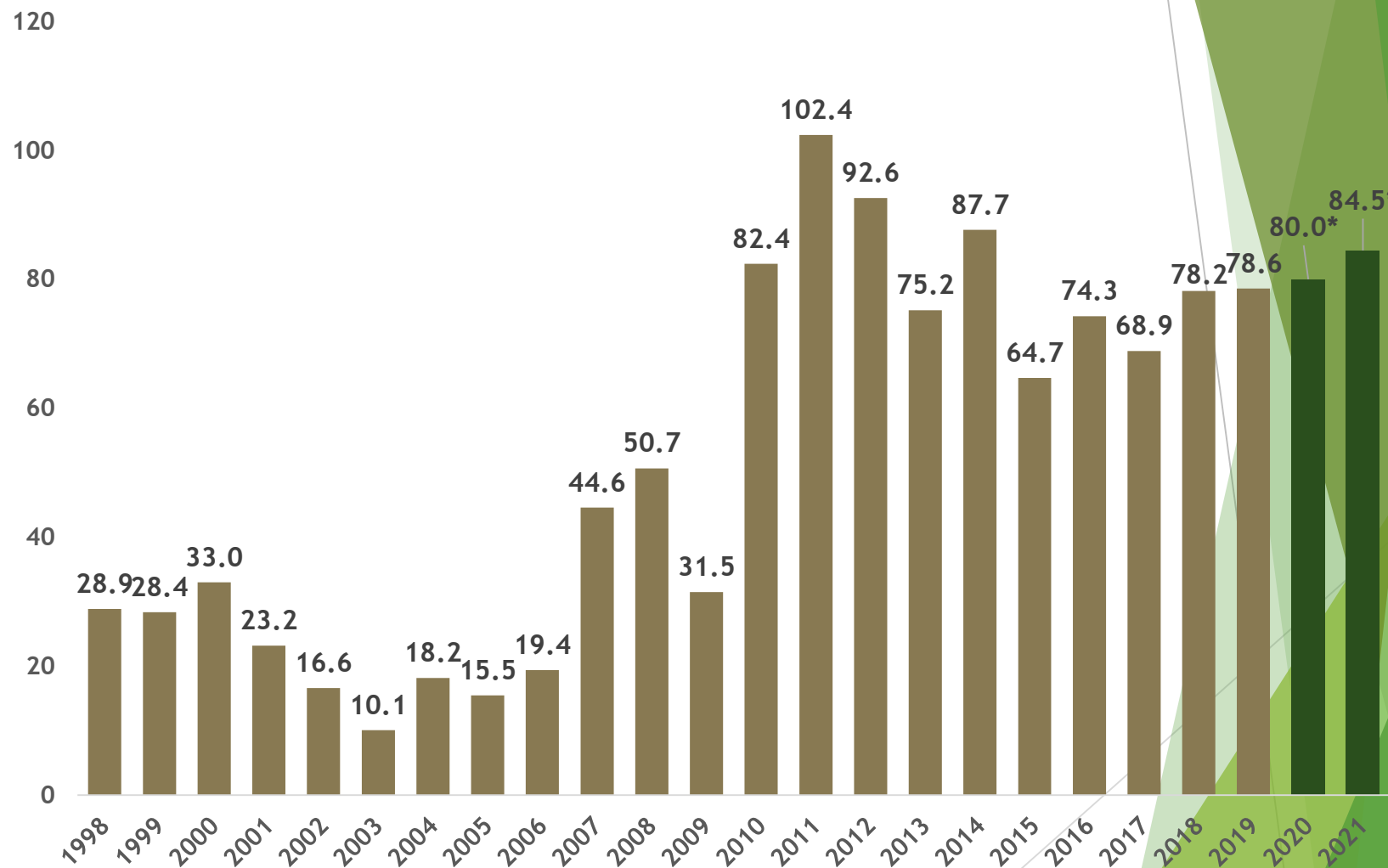
30.00%



Source: BCB

*BCB Focus Survey

外国直接投資推移 (USD bi)



Source: BCB

*BCB Focus
Survey

主要マクロ経済指標の推移と予測

指標	2020年			2021年	
	Focus 予測値 2020/02/14	金融部会 予測値 レンジ (前回発表)	金融部会 予測値 レンジ	Focus 予測値 2020/02/14	金融部会 予測値 レンジ
GDP成長率 (前年比%)	2.23	2.50 ～ 3.00	2.20 ～ 2.50	2.50	2.40 ～ 3.50
インフレ率 (IPCA%)	3.22	4.00 ～ 4.40	3.10 ～ 4.30	3.75	3.50 ～ 3.75
年末為替レート (リアル/ドル)	4.10	3.60 ～ 3.80	4.00 ～ 4.10	4.11	3.90 ～ 4.07
年末政策 目標金利 (%)	4.25	7.50 ～ 8.00	4.00 ～ 4.25	6.00	4.25 ～ 6.50

主要マクロ経済指標の推移と予測

<p>ブラジルにおけるビジネス環境改善のために、2020年に最も期待することは何か。</p>	<ul style="list-style-type: none">➤ 構造改革の実行（税制改革、民営化、公務員セクターの改革等）➤ 低インフレ、低金利環境の継続➤ 外部格付機関の格付け上昇
<p>2020年に、ブラジル経済に影響を与える外的要因は何か。またどのような影響か。</p>	<ul style="list-style-type: none">➤ コロナウイルス拡大による中国及び世界経済の減速と、それに伴う商品市況の下落➤ 米国大統領選挙（将来の不透明性の高まり、米政治、外交の変化の可能性）➤ 地政学リスク（イランの対米報復動向、中南米における軍事/左派勢力の先鋭化）➤ EUとメルコスル（南米4各国）のFTA発動
<p>斯かる変化へ適応する為に、日系企業或いは日系金融機関として、どのような準備・戦略が必要か。</p>	<ul style="list-style-type: none">➤ ブラジル景気回復、構造改革、為替を注視し、トレンドに遅れない投資の準備➤ 中国、欧米企業に先を越されない様、本社との適切な投資戦略の共有➤ ビジネス環境悪化に備えた、社内体制のスリム化によるコスト構造の改革

2. 銀行業界動向

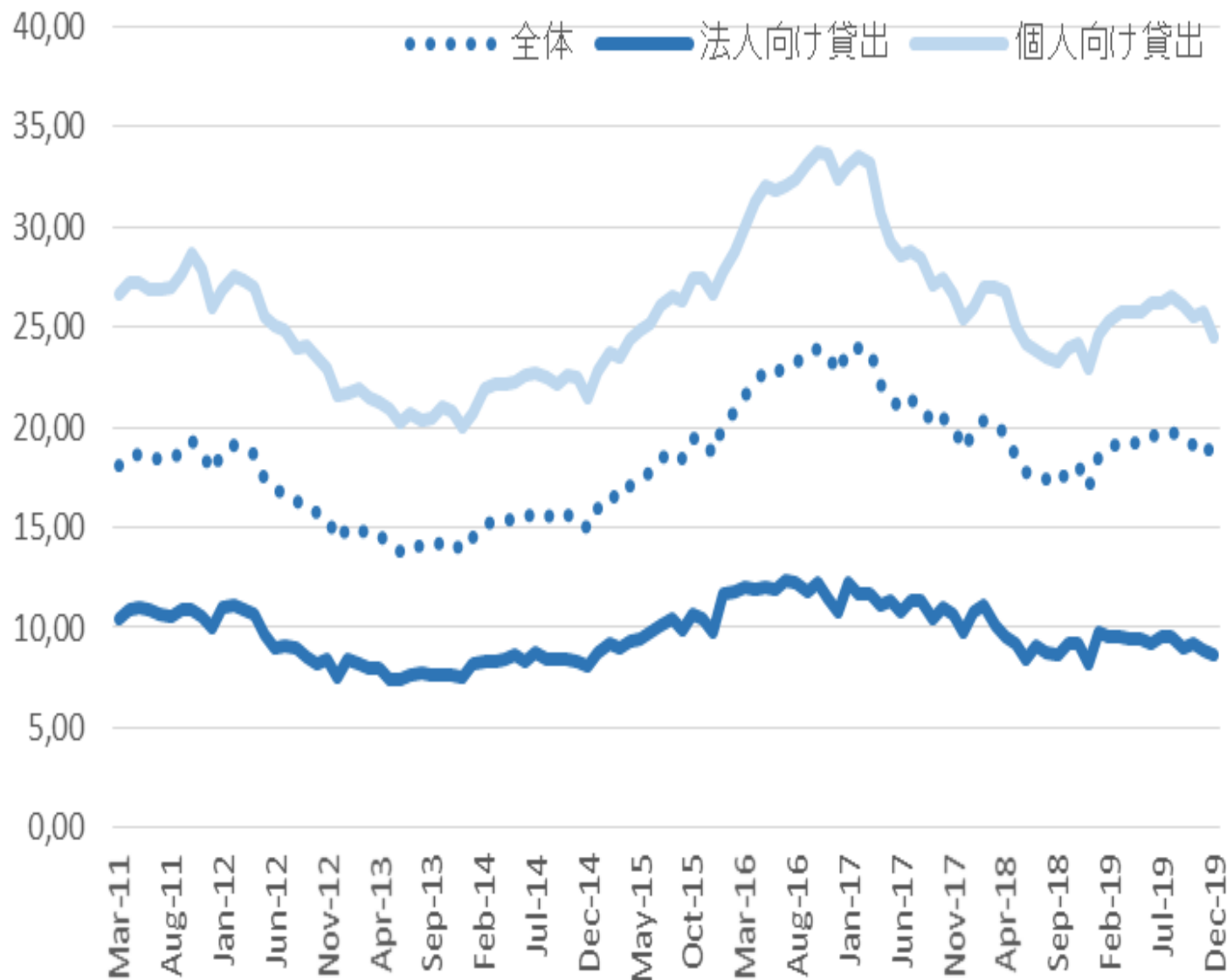


貸出残高推移

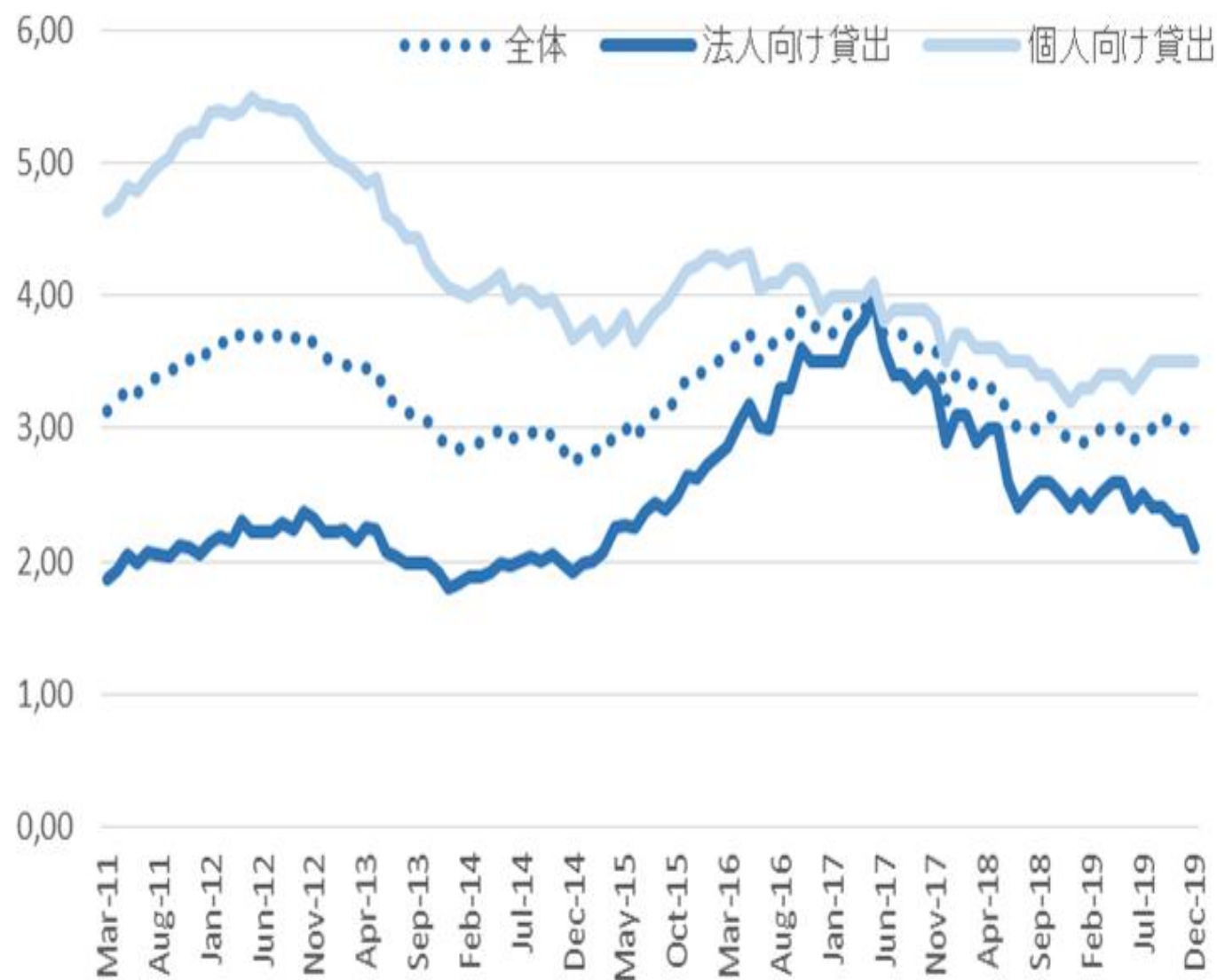
(10億リアル)	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年速報
個人向け貸出	627	776	920	1,074	1,246	1,412	1,512	1,561	1,649	1,793	2,003
(同増加率)	N.A.	23,8%	18,6%	16,7%	16,0%	13,3%	7,1%	3,2%	5,6%	8,7%	11,7%
法人向け貸出	794	937	1,114	1,294	1,466	1,605	1,707	1,546	1,437	1,465	1,468
(同増加率)	N.A.	18,0%	18,9%	16,2%	13,3%	9,5%	6,4%	-9,4%	-7,1%	1,9%	0,2%
農業	N.A.	N.A.	N.A.	20	22	24	25	24	22	24	25
(同増加率)	N.A.	N.A.	N.A.	N.A.	10,0%	9,1%	4,2%	-4,0%	-7,3%	7,0%	5,0%
鉱工業	N.A.	N.A.	N.A.	619	705	782	833	747	670	660	604
(同増加率)	N.A.	N.A.	N.A.	N.A.	13,9%	10,9%	6,5%	-10,3%	-10,3%	-1,5%	-8,5%
サービス業等	N.A.	N.A.	N.A.	655	739	799	849	775	745	756	821
(同増加率)	N.A.	N.A.	N.A.	N.A.	12,8%	8,1%	6,3%	-8,7%	-3,9%	1,6%	8,6%
合計	1,421	1,713	2,034	2,368	2,712	3,017	3,219	3,107	3,086	3,258	3,471
(同増加率)	N.A.	20,5%	18,7%	16,4%	14,5%	11,2%	6,7%	-3,5%	-0,7%	5,6%	6,5%

Source: BCB

平均貸出利鞘推移



不良債権比率推移



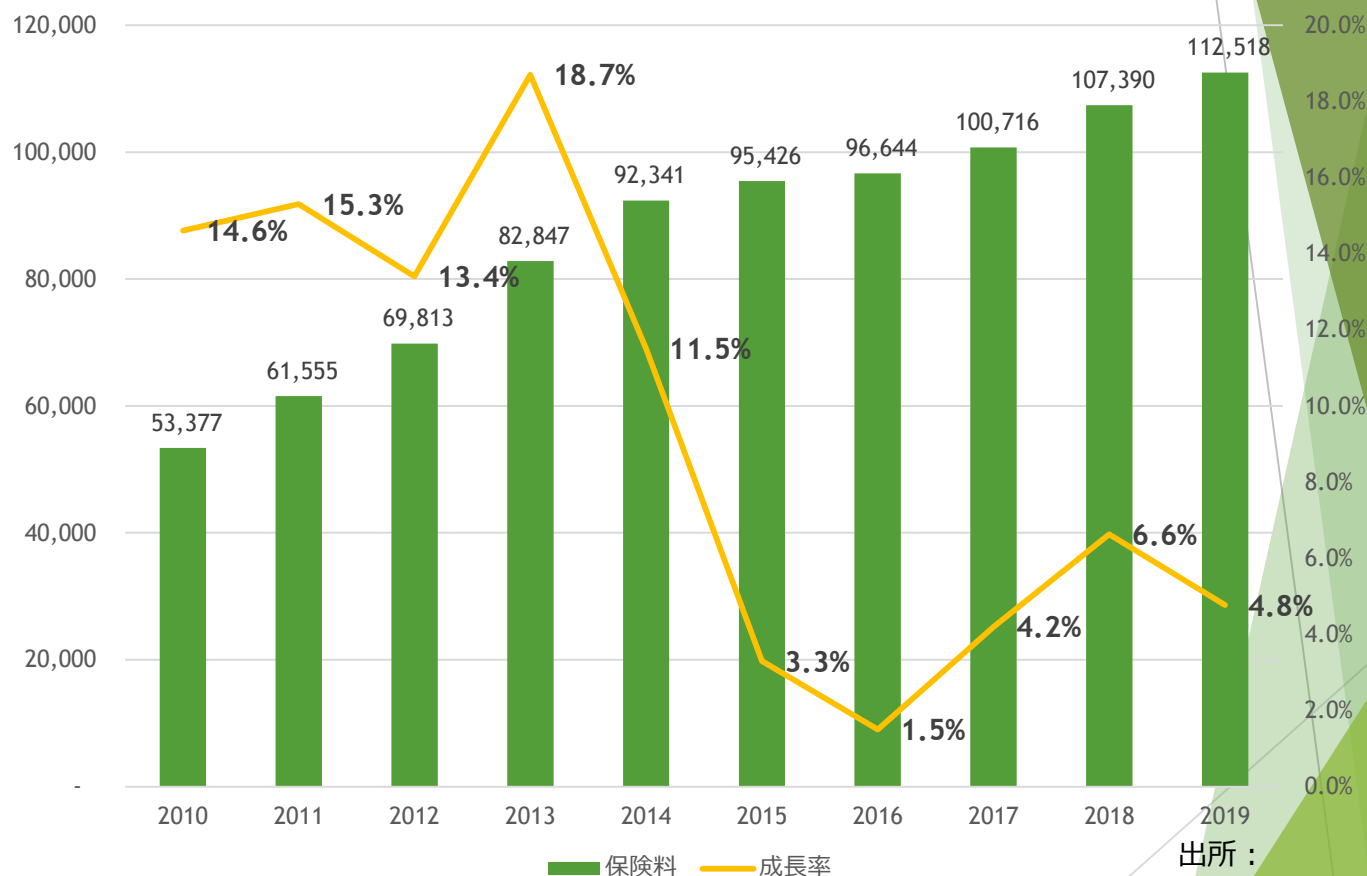
Source: B

3. 保険業界動向



保険料収入推移（除く年金、健康保険）

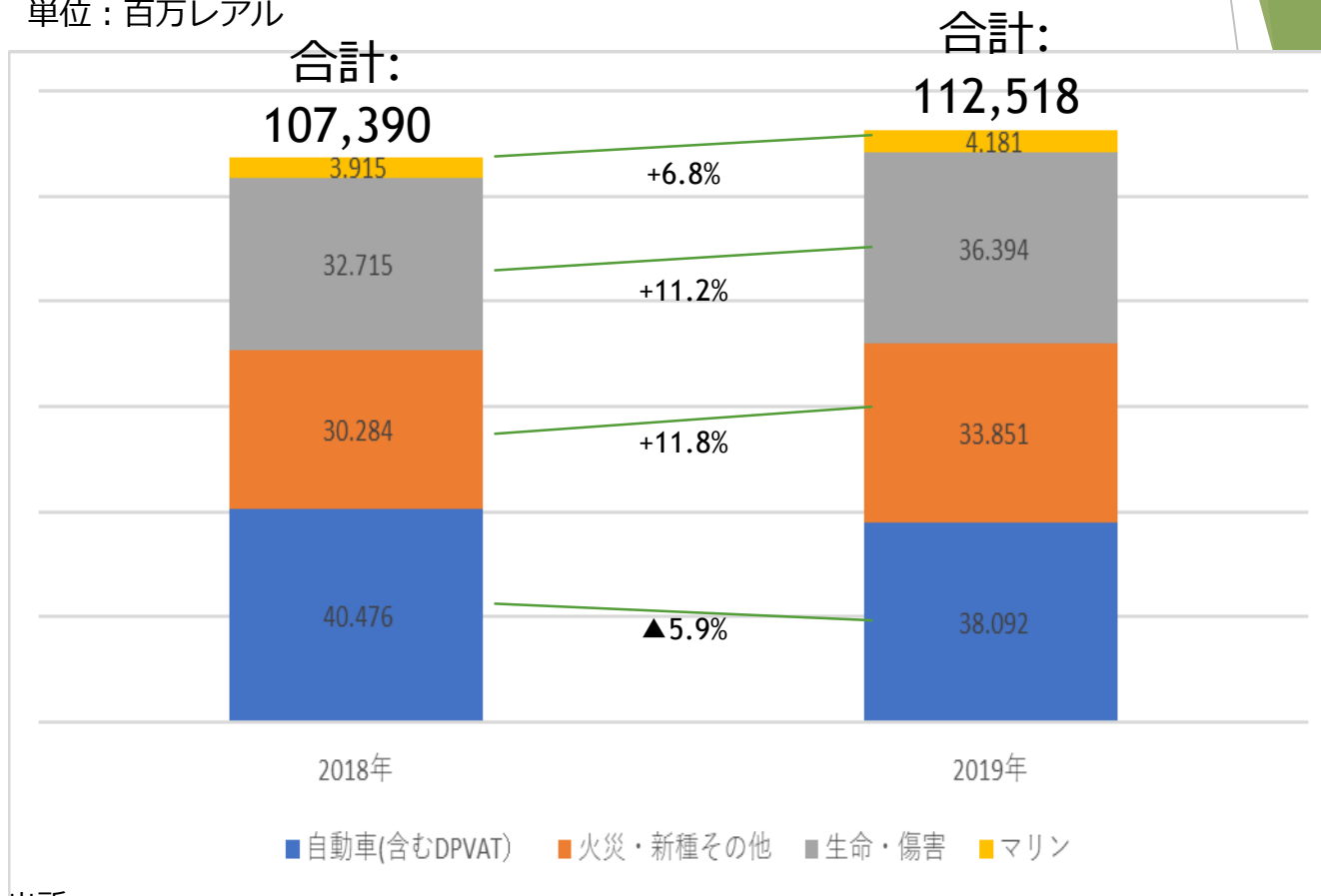
単位：百万リアル



2019年の保険料収入は対前年比4.8%と成長した。自動車強制保険であるDPVATがマイナス成長となった影響もあるものの、全体では引き続き堅調な成長を維持している。

保険種目別 保険料収入

単位：百万リアル



出所：
SUSEP

自動車保険は、DPVAT（強制保険）の保険料率引下げ、競争の激化、代替市場への流出等によりマイナス成長となった。一方で、自動車保険以外は大きく市場が成長した。

保険種目別 損害率

	2018年	2019年	前年比
自動車	62.6%	61.0%	-1.6pt
火災・新種その他	38.3%	43.9%	5.7pt
生命・傷害	28.8%	29.3%	-0.4pt
マリン	47.6%	45.8%	-1.8pt
合計	44.7%	45.4%	0.6pt

出所：SUSEP

- ・ 損害率は全体で0.6ポイント悪化。
- ・ 自動車・マリンはブラジル全土における治安状況が改善し、車両・貨物盗難の減少したことにより、損害率が改善した。
- ・ 火災・新種その他は年初の降雨や大規模災害により損害率が悪化した。

ブラジル保険市場の成長見通し

	2019年成長率 (結果)	2020年成長率予測 (8月)		2020年成長率(11月)	
		悲観	楽観	悲観	楽観
損害保 険	1.9%	2.4%	6.4%	4.4%	6.0%
生命保 険	11.2%	7.0%	9.4%	9.2%	10.2%
合計	4.8%	4.1%	7.5%	6.2%	7.6%

- 2020年の見通しでは、損害保険、生命保険の両分野において、引き続き高い成長が見込まれている。

出所：CNSeg

貿易 部会

有村 俊一 副部会長

Departamento de Comércio Exterior

Vice-Presidente: Shunichi Arimura

2019年の回顧と 2020年の展望

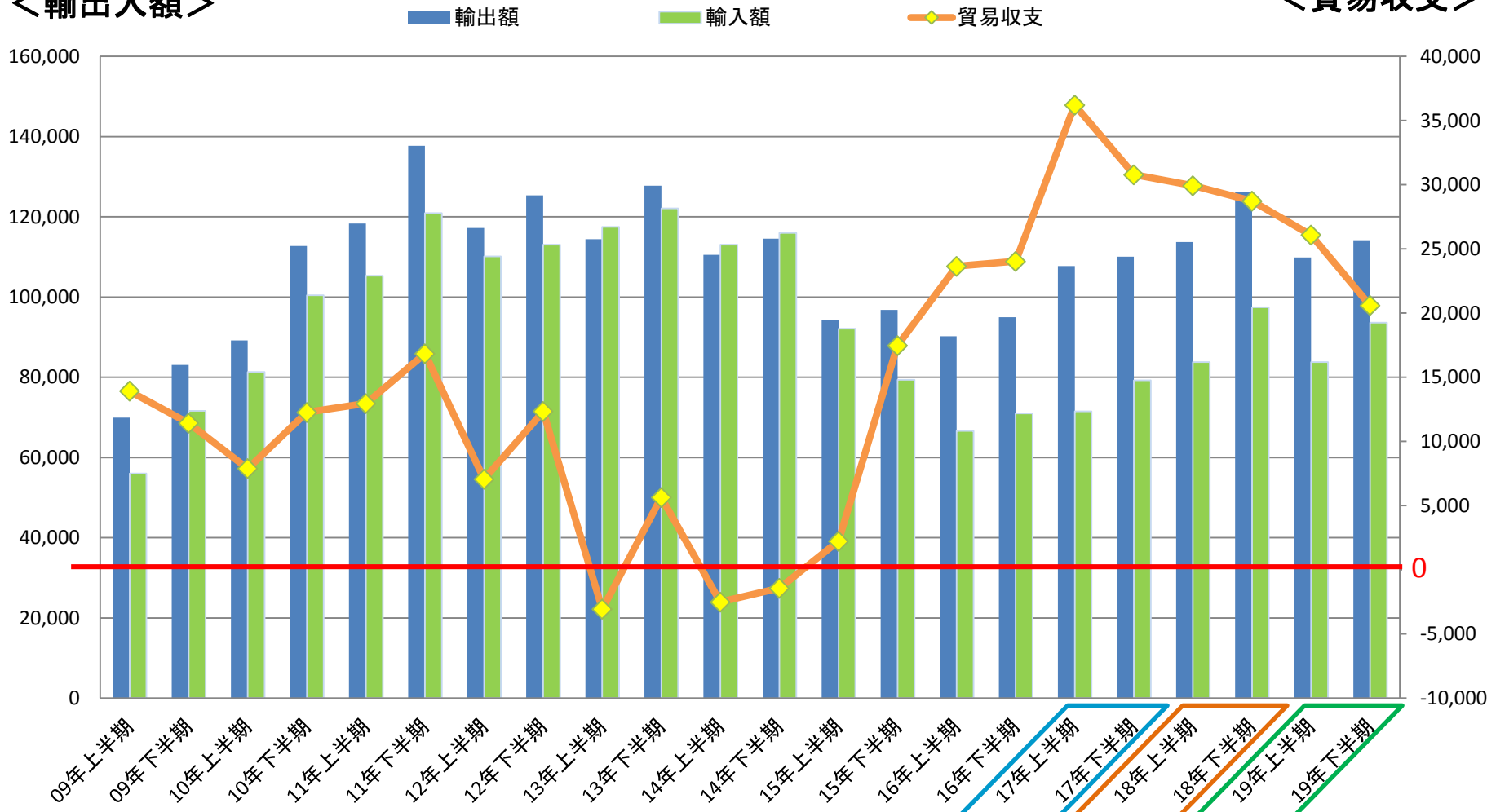
2020年3月5日
ブラジル日本商工会議所
貿易部会

1. 総括

半期ごとの輸出入額の推移

<輸出入額>

<貿易収支>



(単位: Million USD)

為替レート

(終値ベース、期中平均)

2018年 通年 R\$3.68/US\$

2019年 通年 R\$3.85/US\$

2. 輸出 ～主要商品別～

金額: 単位 Million USD

数量: 単位千トン(*乗用車のみ単位は「千台」)

	2018年			2019年			増減率	
	金額	金額 構成比	数量	金額	金額 構成比	数量	金額 増減率	数量 増減率
一次産品	119,193	49.8%	602,787	118,182	52.8%	569,212	-0.8%	-5.6%
大豆	33,055	13.8%	83,258	26,118	11.7%	74,038	-21.0%	-11.1%
原油	25,251	10.6%	57,570	24,002	10.7%	61,134	-4.9%	6.2%
鉄鉱石	20,220	8.5%	389,801	22,182	9.9%	340,503	9.7%	-12.6%
とうもろこし	3,918	1.6%	22,941	7,344	3.3%	43,254	87.4%	88.5%
半製品	30,478	12.7%	50,797	28,365	12.7%	48,665	-6.9%	-4.2%
化学木材パルプ	8,272	3.5%	15,190	7,490	3.3%	15,218	-9.5%	0.2%
粗糖	5,390	2.3%	18,174	4,520	2.0%	16,060	-16.2%	-11.6%
鉄鋼半製品	5,036	2.1%	9,177	4,184	1.9%	8,642	-16.9%	-5.8%
合金	2,976	1.2%	496	3,202	1.4%	535	7.6%	7.9%
工業製品	86,123	36.0%	48,940	77,444	34.6%	50,923	-10.1%	4.1%
乗用車	5,141	2.1%	* 500	3,782	1.7%	* 347	-26.4%	-30.6%
航空機	3,469	1.4%	3	3,305	1.5%	3	-4.7%	-9.5%
燃料油	2,909	1.2%	6,409	3,116	1.4%	7,486	7.1%	16.8%
酸化・水酸化アルミニウム	2,714	1.1%	7,108	2,578	1.2%	7,796	-5.0%	9.7%
合計	239,264	100%	705,994	223,999	100%	668,810	-6.4%	-5.3%

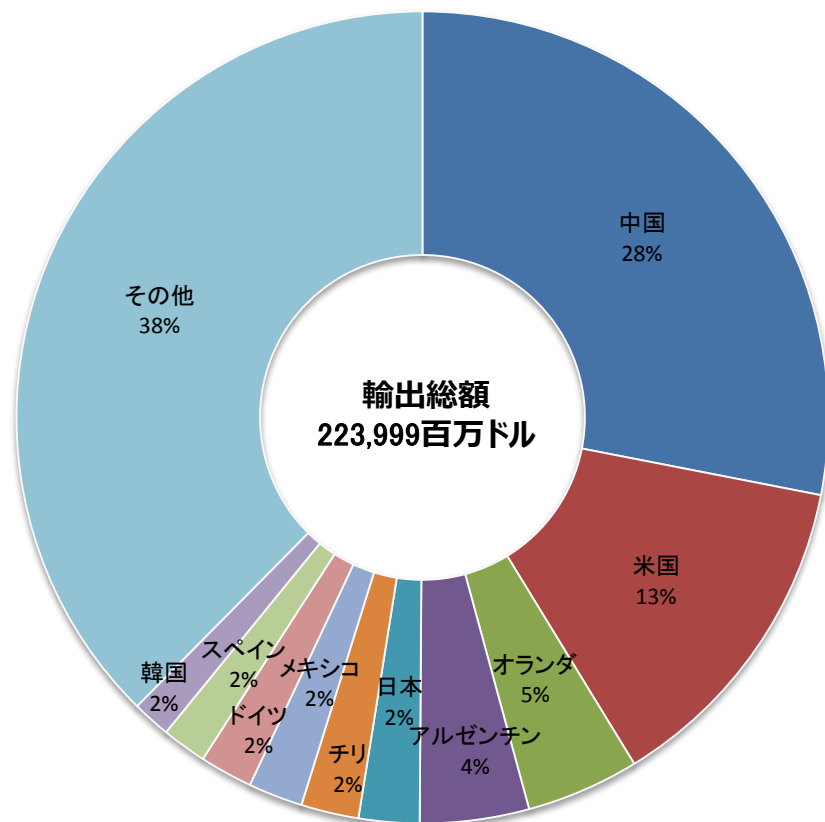
<出所> 開発商工省貿易局(SECEx)、ブラジル全国自動車製造者協会(ANFAVEA)

2. 輸出 ～主要国別～

(単位: Million USD)

順位	国名	2018年	2019年		増減率
			金額	構成比	
1	中国	63,930	62,872	28.1%	-1.7%
2	米国	28,697	29,561	13.2%	3.0%
3	オランダ	13,060	10,086	4.5%	-22.8%
4	アルゼンチン	14,913	9,724	4.3%	-34.8%
5	日本	4,321	5,409	2.4%	25.2%
6	チリ	6,393	5,144	2.3%	-19.5%
7	メキシコ	4,505	4,857	2.2%	7.8%
8	ドイツ	5,206	4,716	2.1%	-9.4%
9	スペイン	5,134	3,999	1.8%	-22.1%
10	韓国	3,439	3,426	1.5%	-0.4%
	その他	89,667	84,205	37.6%	-6.1%
	輸出総額	239,264	223,999	100.0%	-6.4%

構成比率 (2019年)



3. 輸入 ～主要商品別～

金額:単位 Million USD

数量:単位千トン

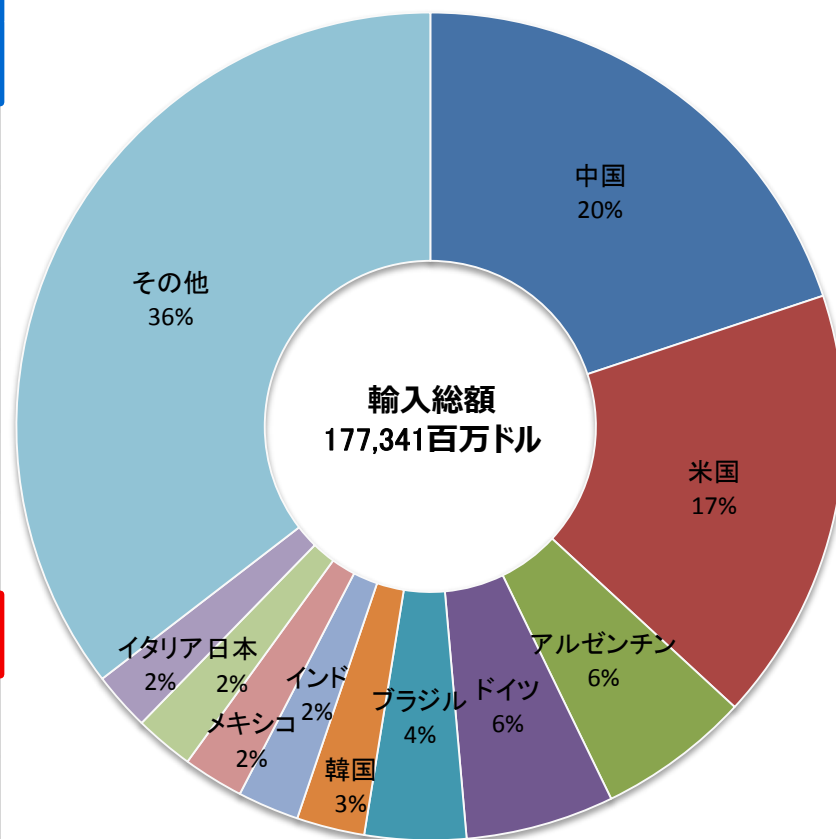
	2018年			2019年			増減率	
	金額	金額 構成比	数量	金額	金額 構成比	数量	金額 増減率	数量 増減率
一次産品	18,875	10.4%	60,564	17,544	9.9%	57,650	-7.0%	-4.8%
原油	5,043	2.8%	9,246	4,652	2.6%	9,399	-7.8%	1.7%
小麦	1,502	0.8%	6,817	1,491	0.8%	6,576	-0.8%	-3.5%
天然ガス	1,536	0.8%	6,303	1,293	0.7%	5,206	-15.8%	-17.4%
魚（生・冷蔵・冷凍）	1,032	0.6%	295	1,009	0.6%	280	-2.3%	-5.1%
半製品	8,234	4.5%	12,582	8,279	4.7%	12,721	0.5%	1.1%
銅板	1,323	0.7%	199	1,053	0.6%	174	-20.4%	-12.9%
アルミニウム	646	0.4%	274	633	0.4%	317	-2.1%	15.5%
合成ゴム	552	0.3%	257	511	0.3%	249	-7.5%	-3.2%
合金	249	0.1%	89	189	0.1%	87	-24.2%	-1.9%
工業製品	154,122	85.0%	78,261	151,518	85.4%	82,833	-1.7%	5.8%
送受信機	6,998	3.9%	152	6,899	3.9%	157	-1.4%	3.2%
医薬品	6,750	3.7%	39	6,861	3.9%	37	1.6%	-5.6%
燃料油	6,424	3.5%	10,249	6,707	3.8%	11,140	4.4%	8.7%
自動車部品	5,873	3.2%	659	4,607	2.6%	547	-21.6%	-17.0%
合計	181,231	100%	151,408	177,341	100%	153,205	-2.1%	1.2%

3. 輸入 ～主要国別～

(単位: Million USD)

順位	国名	2018年	2019年		増減率
			金額	構成比	
1	中国	34,730	35,270	19.9%	1.6%
2	米国	28,968	30,086	17.0%	3.9%
3	アルゼンチン	11,051	10,552	6.0%	-4.5%
4	ドイツ	10,557	10,280	5.8%	-2.6%
5	ブラジル	7,384	7,019	4.0%	-5.0%
6	韓国	5,381	4,706	2.7%	-12.6%
7	インド	3,663	4,257	2.4%	16.2%
8	メキシコ	4,909	4,197	2.4%	-14.5%
9	日本	4,356	4,094	2.3%	-6.0%
10	イタリア	4,513	4,041	2.3%	-10.5%
	その他	65,718	62,838	35.4%	-4.4%
	輸入総額	181,231	177,341	100.0%	-2.1%

構成比率 (2019年)



4. 対日貿易

輸出

(単位: Million USD)

商品名	2018年	2019年		伸び率
		金額	構成比	
とうもろこし	41	1,151	22.4%	2729.8%
鉄鉱石	1,165	1,045	20.3%	-10.3%
鶏肉	708	802	15.6%	13.3%
コーヒー豆	324	341	6.6%	5.2%
合金	280	294	5.7%	4.9%
大豆	220	182	3.5%	-17.3%
製紙用パルプ	167	180	3.5%	7.7%
大豆かす	103	175	3.4%	69.7%
アルミニウム	175	162	3.2%	-7.0%
果汁	146	112	2.2%	-23.1%
その他	991	698	13.6%	-29.6%
合計	4,321	5,144	100%	19.0%

輸入

(単位: Million USD)

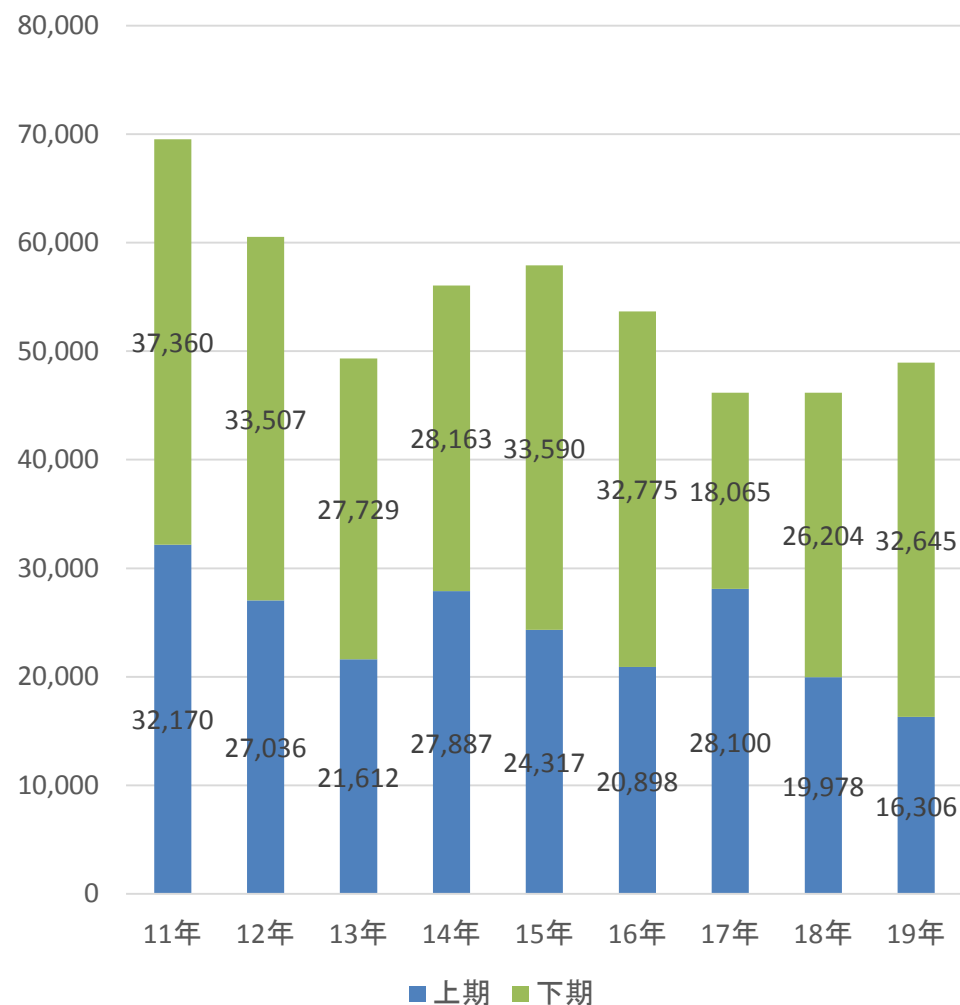
商品名	2018年	2019年		伸び率
		金額	構成比	
自動車部品	663	496	12.1%	-25.2%
乗用車	245	229	5.6%	-6.2%
浚渫船、プラット フォーム	102	219	5.3%	113.7%
化学品原料化合物	87	119	2.9%	36.8%
エンジン部品	143	111	2.7%	-22.3%
半導体	107	89	2.2%	-17.2%
印刷機	91	87	2.1%	-4.5%
ベアリング・歯車 及びその部品	92	86	2.1%	-6.0%
車両用部品	72	85	2.1%	17.9%
医療用機器	87	83	2.0%	-4.4%
その他	2,666	2,489	60.8%	-6.6%
合計	4,356	4,094	100%	-6.0%

<出所> 開発商工省貿易局(SECEx)

5. 対内直接投資 ～推移・国別～

(単位: Million USD)

対内直接投資推移



国別対内直接投資

順位	国	2018年	2019年		伸び率
		金額	金額	構成比	
1	米国	7,287	10,286	21.0%	41.2%
2	オランダ	9,232	6,213	12.7%	-32.7%
3	チリ	1,038	3,829	7.8%	268.8%
4	ケイマン諸島	1,858	2,921	6.0%	57.2%
5	英国	887	2,907	5.9%	227.8%
6	スペイン	3,397	2,875	5.9%	-15.4%
7	フランス	1,340	2,871	5.9%	114.3%
8	ルクセンブルク	2,422	2,552	5.2%	5.4%
9	ノルウェー	786	2,198	4.5%	179.6%
10	日本	1,124	1,958	4.0%	74.2%
	その他	16,795	10,340	21.1%	-38.4%
	合計	46,165	48,951	100%	6.0%

<出所>ブラジル中央銀行

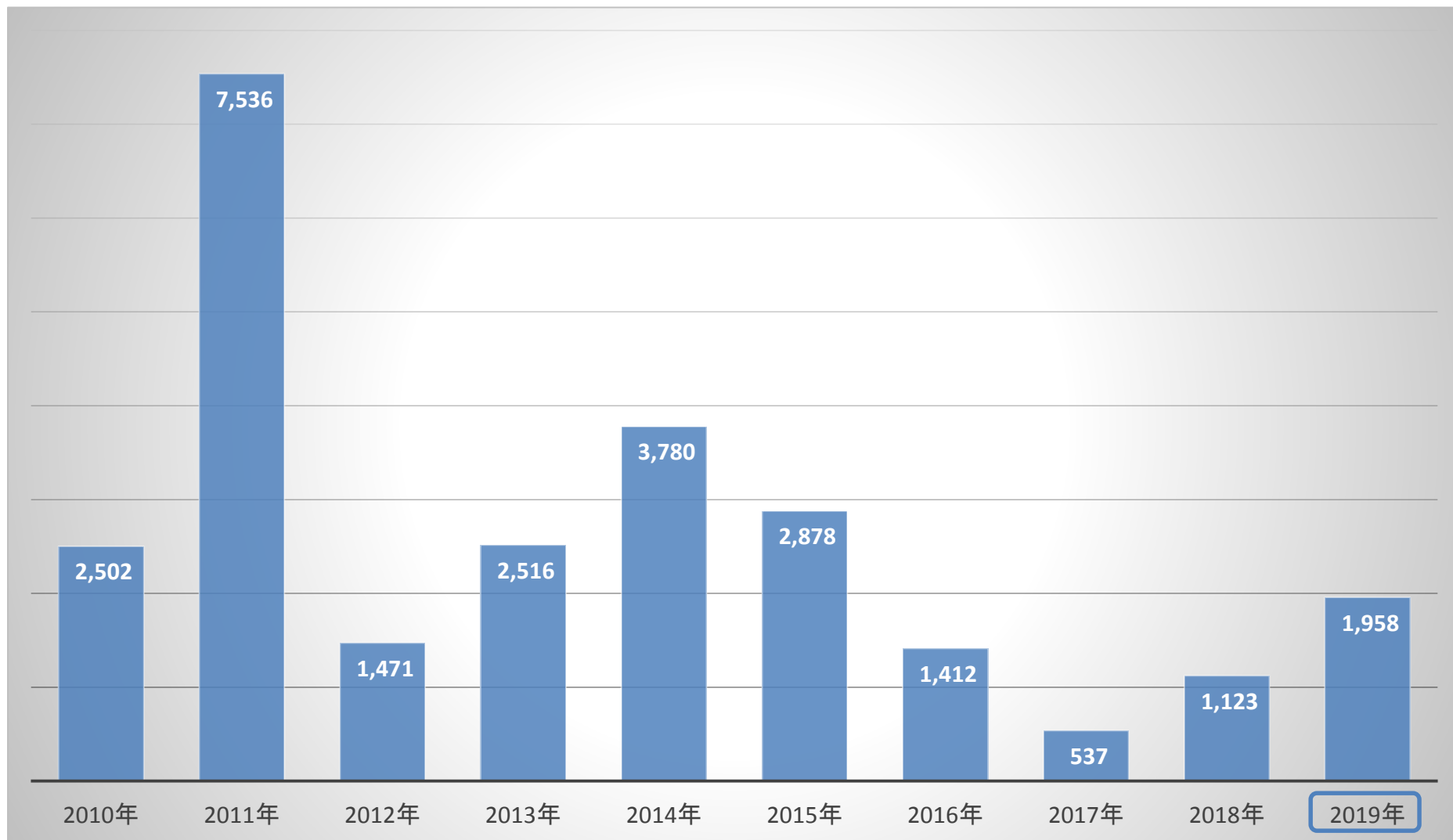
5. 対内直接投資～主要業種別～

(単位: Million USD)

	2018年		2019年		伸び率
	金額	構成比	金額	構成比	
一次産品（農業・畜産・鉱業）	8,544	18.5%	13,123	26.8%	53.6%
石油・天然ガス採掘	5,240	11.3%	9,907	20.2%	89.1%
金属鉱物採掘業	1,207	2.6%	1,280	2.6%	6.0%
農水産業	208	0.5%	992	2.0%	377.5%
工業	16,835	36.5%	9,927	20.3%	-41.0%
自動車・トレーラー・車体	4,518	9.8%	2,502	5.1%	-44.6%
非金属鉱物製品	1,072	2.3%	1,259	2.6%	17.4%
パルプ、製紙	2,000	4.3%	1,253	2.6%	-37.4%
食品	1,682	3.6%	1,175	2.4%	-30.2%
化学製品	2,365	5.1%	912	1.9%	-61.4%
サービス業	20,590	44.6%	25,708	52.5%	24.9%
電気・ガス	2,495	5.4%	4,984	10.2%	99.8%
商業（自動車除く）	3,162	6.8%	4,246	8.7%	34.3%
金融・同補助サービス	3,132	6.8%	3,531	7.2%	12.7%
運送業	1,056	2.3%	2,824	5.8%	167.4%
不動産	1,060	2.3%	1,724	3.5%	62.6%
合計	46,165	100.0%	48,951	100.0%	6.0%

5. 対内直接投資 ～日本・推移～

(単位： Million USD)



<出所> ブラジル中央銀行

6. 2019年の回顧

- 2019年GDP成長率(中銀アンケートの予想値)は、年始の+2.51%が年金改革の難航などで8月には+ 0.80%まで低下。10月の年金改革法成立から上昇し始め、今年1月3日時点では+1.17%(確定値待ち)
- 為替は、上期R\$ 3.70~4.10/US\$のレンジで上下変動。下期は年金改革法成立などのレアル高要因があったものの、世界的なリスクオフ傾向でレアル安が進み足元R\$ 4.30/US\$のレベル
- 政策金利Selicは年初の6.5%から足元4.25%の史上最低レベルに低下
- ボベスパ指数は年初の9万ポイント台から32%上昇し11万ポイント台の史上最高値圏に到達
- 経済状態の悪化したアルゼンチンへの輸出減少

7. 2020年の展望

- 昨年の年金改革に続く一連の財政改革、民営化の加速によってファンダメンタルの更なる改善が期待される
- 中期的な国政を占う市長・地方選挙に注目
- EUメルコスル通商協定(FTA)の発行に向けた手続きの進捗に注目
- 不透明感の高まり
コロナウイルス、米中関係、米国大統領選挙、ブレクジット、中東情勢、アルゼンチンなど周辺諸国
- 2020年GDP成長率予想値+ 2.23%
- 為替レートはR\$ 4前半を中心に推移すると予想

8. 『ビジネス環境改善に期待、いま為すべきこと』各社意見まとめ

環境改善に期待

金利低下
税制改革・税簡素化の流れ(VAT)
財政支出制度の見直し
民営化
OECD加盟申請(TP税制を国際標準へ)
政府調達協定加盟への動き
FTA・EPA推進
過度な労働者保護の緩和
治安改善

いま為すべきこと

- ✓ 環境改善に伴う新しいビジネス機会創出に対応する体制の整備
(アンテナの維持、情報の共有、適切な人材の確保・育成等)
- ✓ 日メルコスールEPA交渉に向けた民としての後押し継続

機械金属 部会

山田 佳宏 部会長

Departamento de Metalmecânica

Presidente: Yoshihiro Yamada

「2019年の回顧と2020年の展望」

～ビジネス環境改善に期待、いま為すべきこと～

機械金属部会

山田 佳宏

2020年3月5日

《当部会会員企業の事業分野》

事業・製品分野	会社数	事業・製品分野	会社数
インフラ全般	2	油圧機器・マシニングセンター	1
鉄鋼	4	切削工具	2
電力関連	1	潤滑油	1
建設機械	3	金属加工油剤	1
小型ディーゼルエンジン	1	ベアリング	1
トラクター	1	ドライブシャフト	1
移動式クレーン	1	紙パルプ関連	1
ポンプ	1	プラント・工場用制御システム・機器	3
レーザー切断機	1	計17分野	延26

(注) 複数分野を有する会社は、該当分野毎に重複してカウント。

Principal会員企業51社中、今回シンポジウム用レポート提出があった会社について集計

目 次

1. マクロ指標関連

2. セグメント別状況

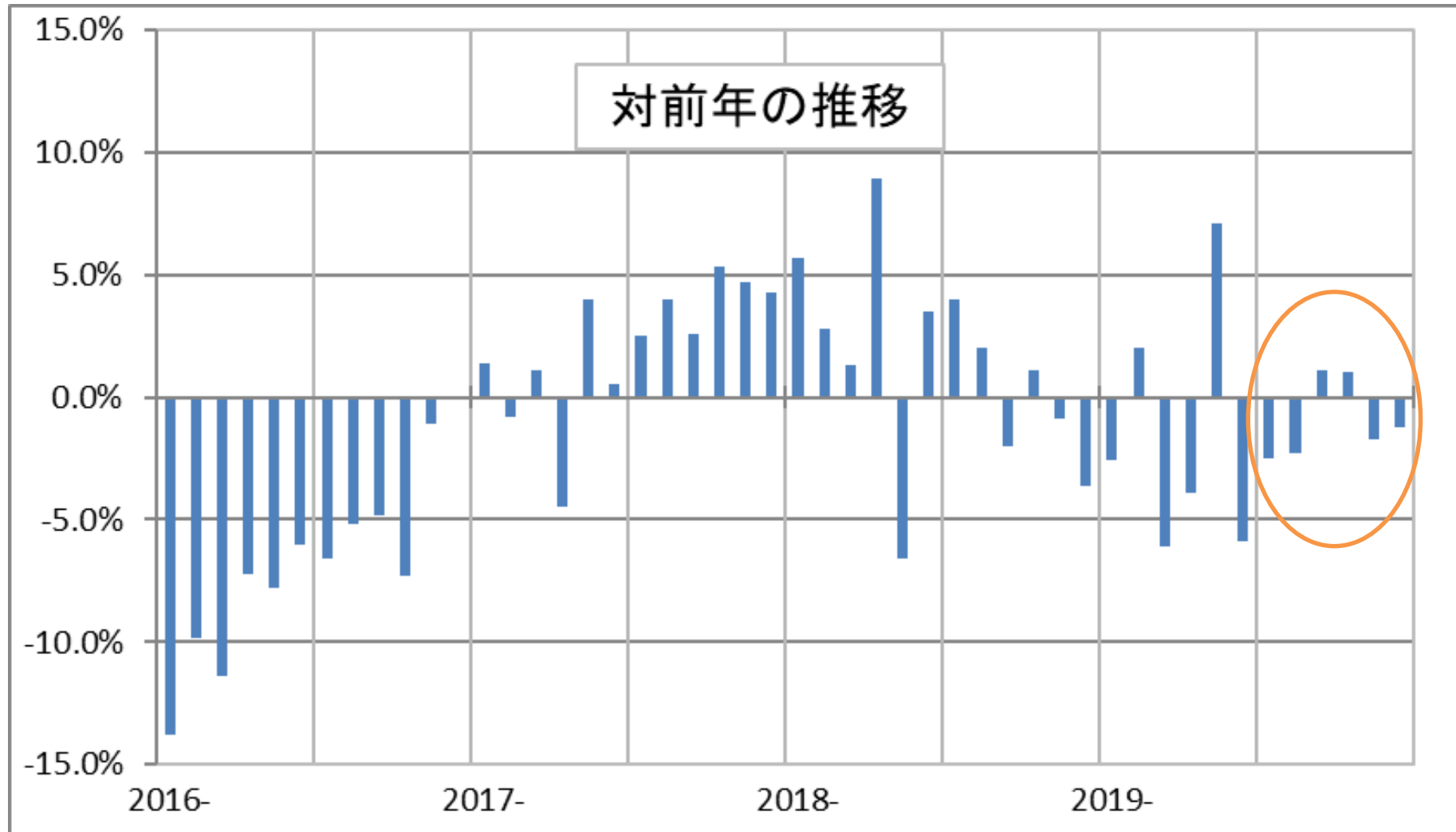
- (1) 鉄鋼
- (2) 電力
- (3) 建設機械
- (4) 自動車産業関連
- (5) 農業・産業機械関連
- (6) 石油・ガス、紙パルプ他関連

3. 副題 ビジネス環境改善に期待、いま為すべきこと

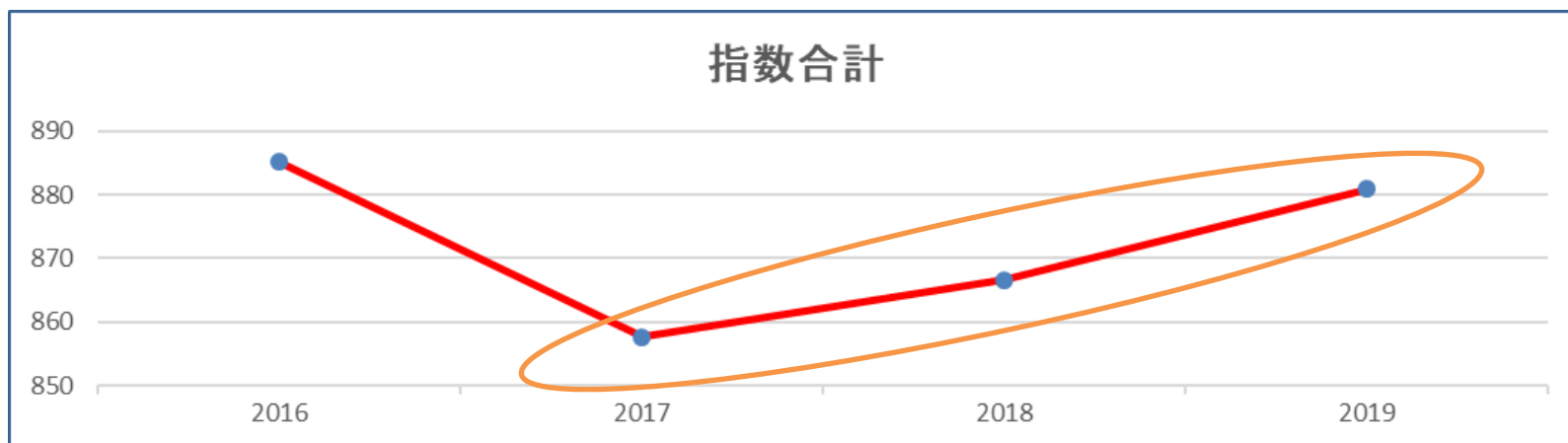
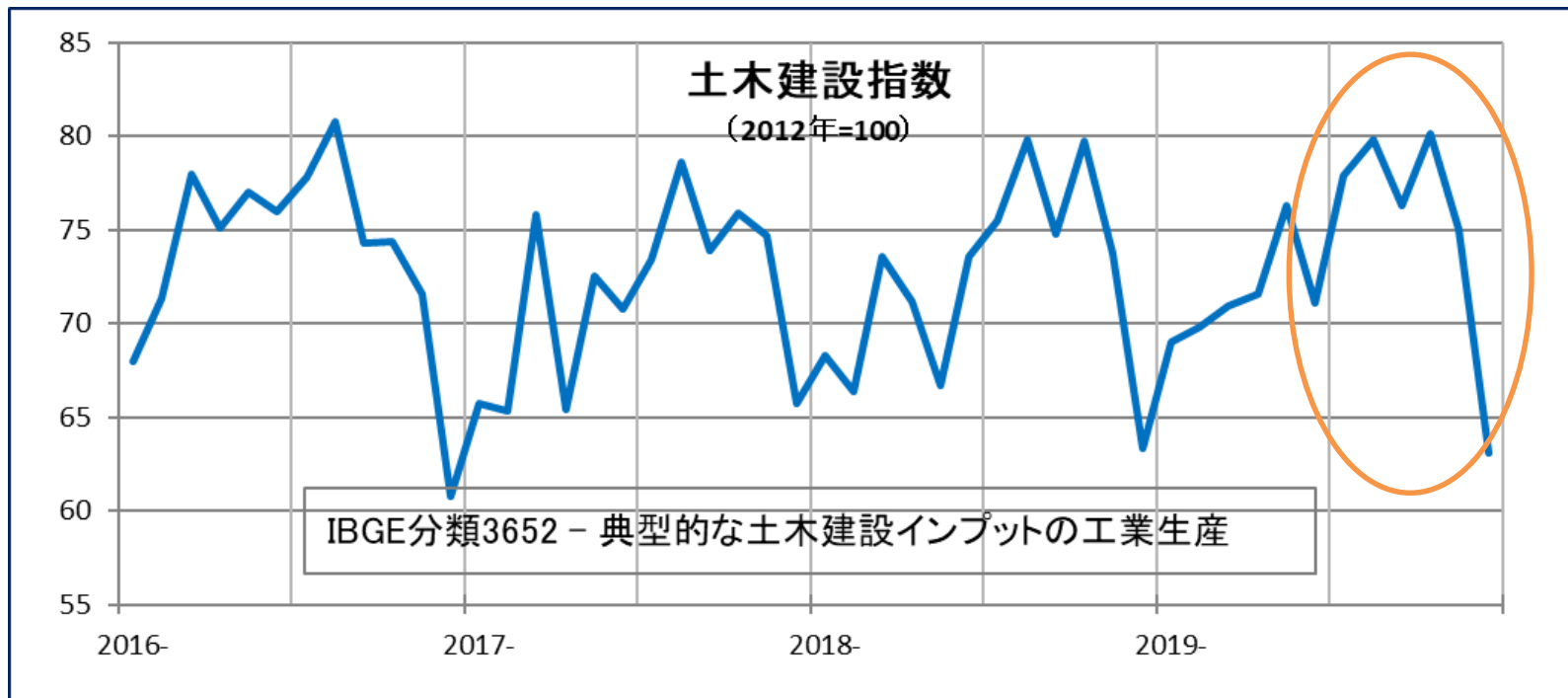
1. マクロ指標(1)

ブラジル鉱工業生産

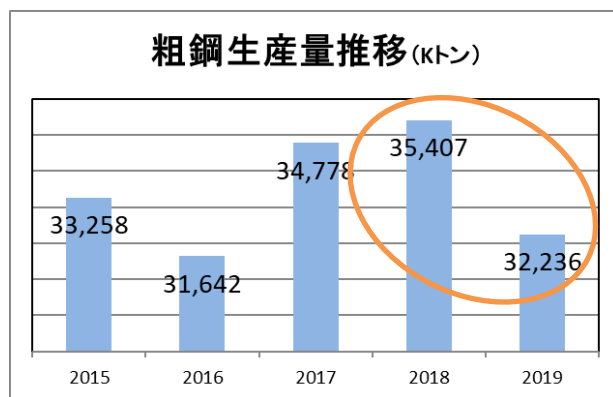
出所: IBGE(ブラジル地理統計院)



1. マクロ指標(2)



2. セグメント別状況(1) 鉄鋼



2019年1-12月実績

数量: 千トン、前年同期比、ブラジル鉄鋼協会 (IABr)

	生産		国内販売		輸出	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
粗鋼*	32,236	▲ 9.0%	18,513	▲ 2.2%	12,815	▲ 8.1%
圧延鋼板	13,049	▲ 8.5%	10,747	▲ 2.6%	2,160	▲ 13.8%
形鋼	9,149	▲ 3.1%	7,429	▲ 0.1%	1,742	+ 1.1%
スラブ	7,750	▲ 11.5%	168	+ 33.3%	8,668	▲ 5.7%
他	1,088	▲ 5.9%	169	▲ 48.2%		
*国内販売・輸出欄は合計				輸入	2,361	▲ 1.9%

(注)輸出は国内ミルのみの統計

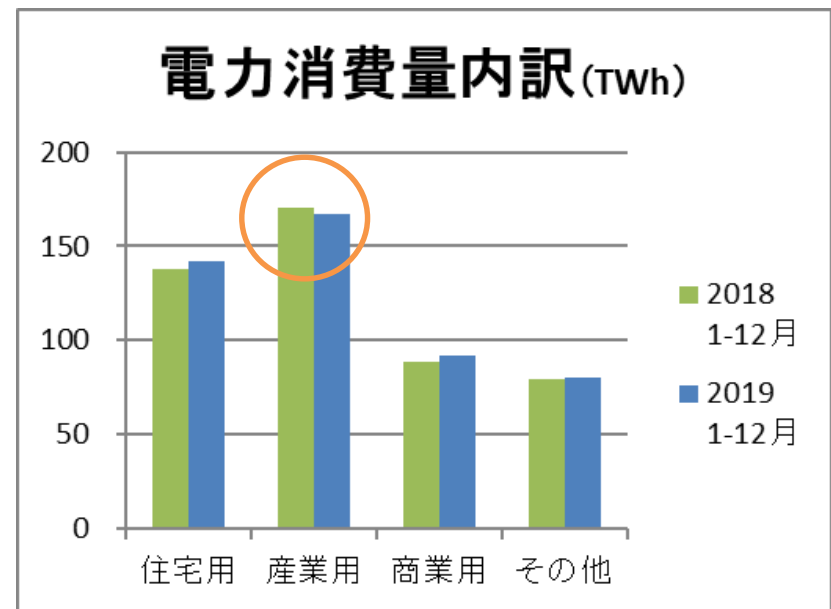
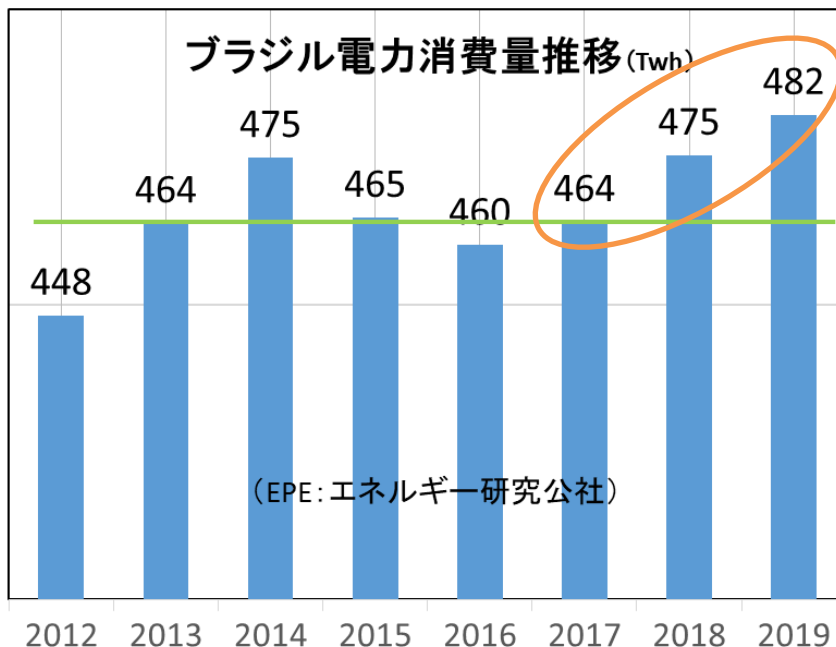
《2019年の回顧》

1. 生産 2019年の粗鋼生産量は、年初の鉱滓ダム決壊以降の鉄鉱石供給不安定化その他の事情で、対前年比△9.0%のマイナスとなった。
2. 国内需要 内需を示す国内鋼材見掛消費量は、年初見通し(前年比+9%)を大幅に下回る対前年比△2.7%のマイナスとなった。国内経済の不振が、主な要因。
3. 輸出 対前年比で△8.1%の減少。世界経済停滞、国際市況の大幅下落等の中で、中南米・EU向けが大きく減少。

《2020年の展望》

1. ブラジル鉄鋼協会は、2020年の粗鋼生産見通しを対前年比+5.3%、同鋼材見かけ消費量見通しを+5.2%と発表している。
2. これはブラジルGDP成長率見通しの改善や、金利・インフレ等の安定化を背景としているが、一方で米中貿易問題や新型コロナウイルスの動向も注視する。

2. セグメント別状況(2) 電力



《2019の回顧》

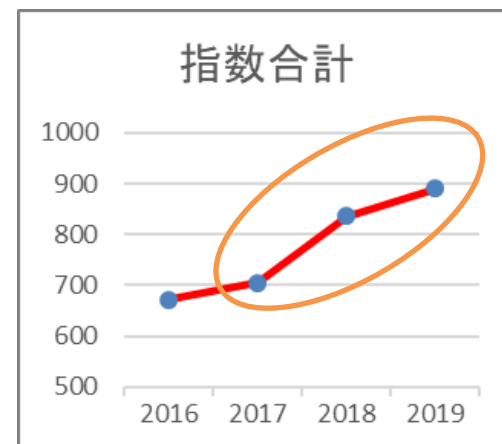
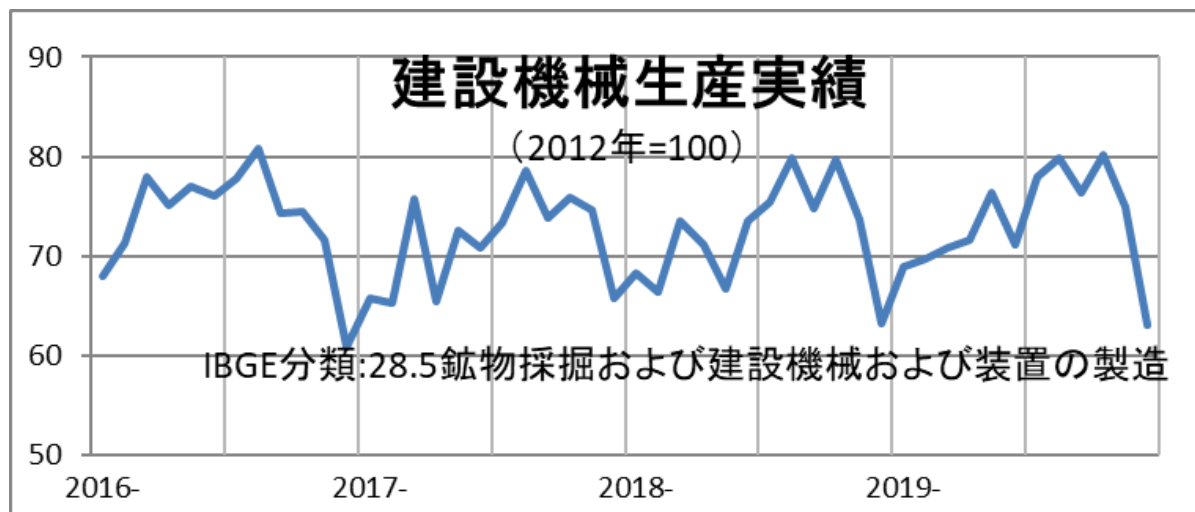
1. ブラジル電力消費は、トータルでは、最近のピークであった2014年レベルまで回復した2018年実績を更に上回った。ただし、住宅・商業用等の需要増加が全体の伸びを牽引し、産業用は対前年を下回った。
2. 電力オークションは、風力・太陽光の影響で、相変わらずの安値となった。

《2020年の展望》

当部会関連企業が関係するバイオマス関連の動きは、引続き低調と見込まれる。

このため、既存プラントのアフターサービス拡大に注力する。

2. セグメント別状況(3) 建設機械



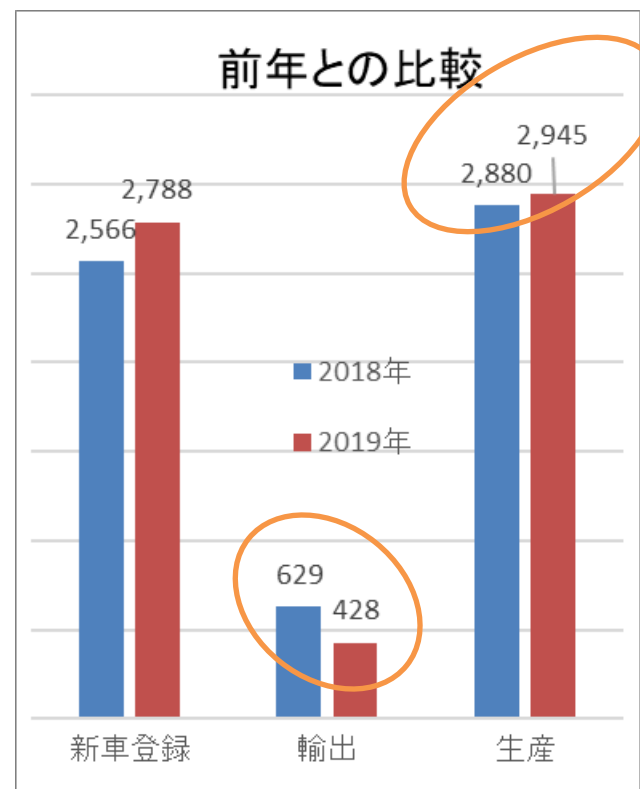
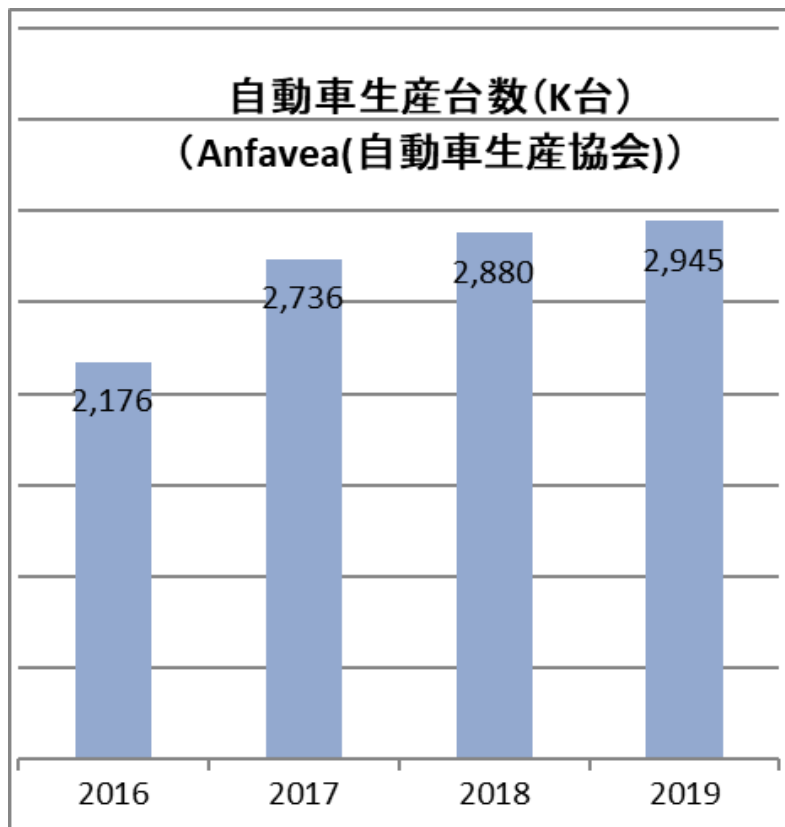
《2019年の回顧》

1. 建設機械の国内販売は、対前年比+28%(10300台)と年初予想の3%を大きく上回った。これは、建設関連需要が底固い回復を示したこと、レンタル向けが堅調であったこと、官公需向けが微減に止まったためである。
2. 輸出は、アルゼンチン向けが低調であった一方、米国向けやフィンランド向けの出荷が下期に急増し、通年では対前年比+2%(9600台)となった。

《2020年の展望》

1. 国内需要 年金改革等による景気回復期待感の向上とブラジル史上最低の金利水準等により、10%程度の伸びと見込まれる。
2. 輸出 米中貿易問題の進展はあったものの、引続き、動向を緊密に注視する必要あり。

2. セグメント別状況(4) 自動車産業関連①



《切削工具》

- ・2019年:主力ユーザーである自動車産業や農業機械の動向を反映し、国内向けは比較的順調。一方、アルゼンチン他、南米他国向けは大きく落ち込んでいる。
- ・2020年:米中貿易問題や新型コロナウイルス等の懸念はあるが、自動車・トラック・建機・農機向け案件をフォローする。

2. セグメント別状況(4) 自動車産業関連②

《ベアリング》

- ・2019年:自動車向けは、アルゼンチン向け輸出の落込みにより、年初見通しには到達せず。一方、二輪向けは堅調。一般産業機械向けは、下期の需要が盛り上がりずに終了。
- ・2020年:二輪向けは引続き堅調であるものの、自動車向けは期待薄。一般産業向けは、期待値は高いが、ポジティブな数値にはなっていない。

《ドライブシャフト》

- ・2019年:アルゼンチン向け自動車輸出の落込みや一部モデル切替による需要減の影響で、前年を下回った。
- ・2020年:アルゼンチン向けの低迷はあるが、新規モデルの需要増等で増加を計画。

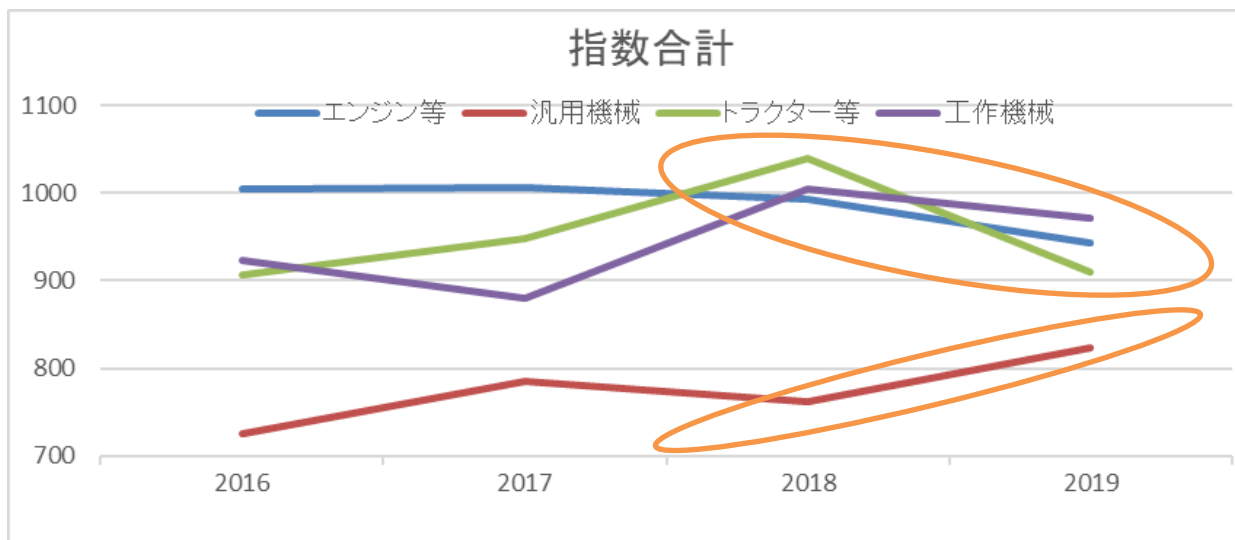
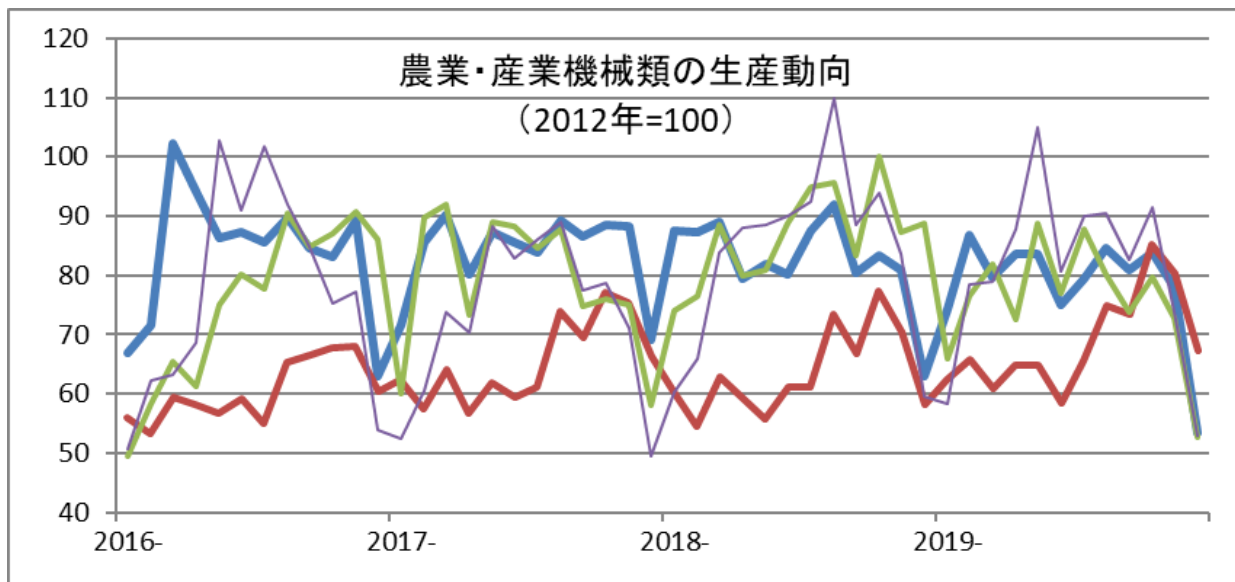
《潤滑油》

- ・2019年:自動車・フォークリフト向け初期充填油の増加はあったものの、対アルゼンチン向けや主要需要家の使用量削減に伴い、対前年比で微減となった。
- ・2020年:大型新規案件の獲得による売上増加を目指す。

《金属加工油剤》

- ・2019年:新車生産微増に伴う販売数量増加を期待したが、実現せず。客先における消費財の使用量削減、コストダウンの影響と思われる。
- ・2020年:自動車生産の増加は見込まれるものの、見通しは不透明。

2. セグメント別状況(5) 農業・産業機械関連①



- 28.1 エンジン、ポンプ、コンプレッサー、
トランスミッション機器の製造
- 28.2 他の汎用機械装置の製造
- 28.3 農業および家畜用トラクター
および機械装置の製造
- 28.4 工作機械の製造
- 以上いずれもIBGE分類

2. セグメント別状況(5) 農業・産業機械関連②

《小型ディーゼルエンジン》

- ・2019年:多気筒(日本製)と発電機セットの販売は回復したが、横型単気筒が大きく落込み、対前年比で台数減、金額増となった。
- ・2020年:多気筒(日本製)は拡大が予想されるが、20馬力以下の単気筒エンジンは、市場自体の縮小と安価な中国製の影響で低迷が続く見込み。
- ・このため、58年間継続してきた単気筒のブラジル国内製造を中止し、インドネシア製に全面切り替えした。

《トラクター》

- ・2019年:BNDESの農業向け低利融資が停止状態となったことにより、低迷。
- ・2020年:BNDES融資の改善は見込めないが、農作物の収穫が良好なことに伴い、対前年比で増加を期待。

《ポンプ》

- ・2019年:前半は前年並みであったが、8月以降受注・売上ともに増加に転じ、年末にかけて拡大。(水中ポンプと陸上ポンプ販売統合(2018年)成果)
- ・2020年:一部不透明感はあるものの、昨年後半からの回復基調の継続を期待。

《レーザー切断機》

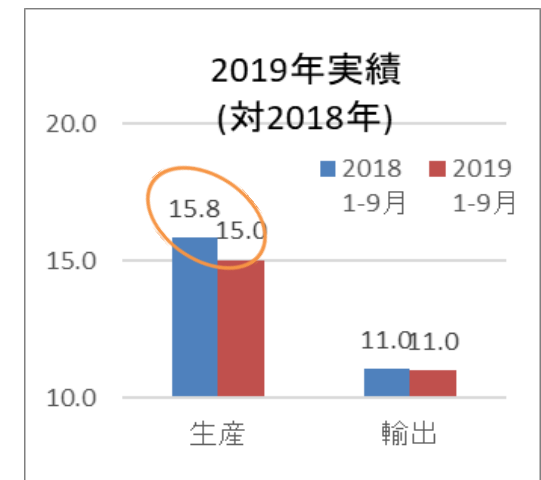
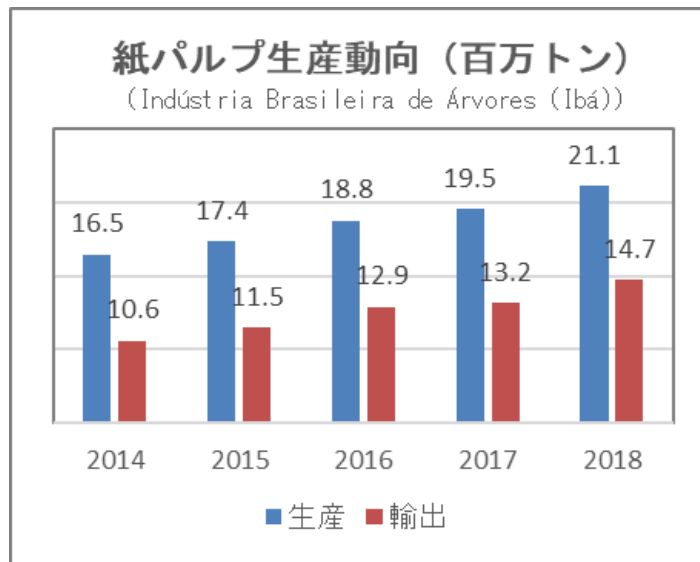
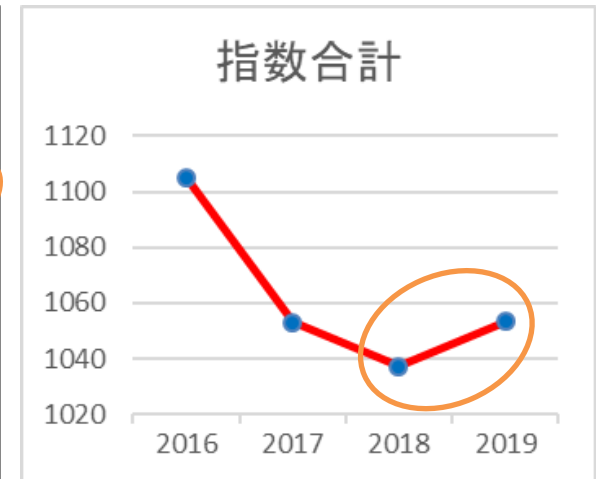
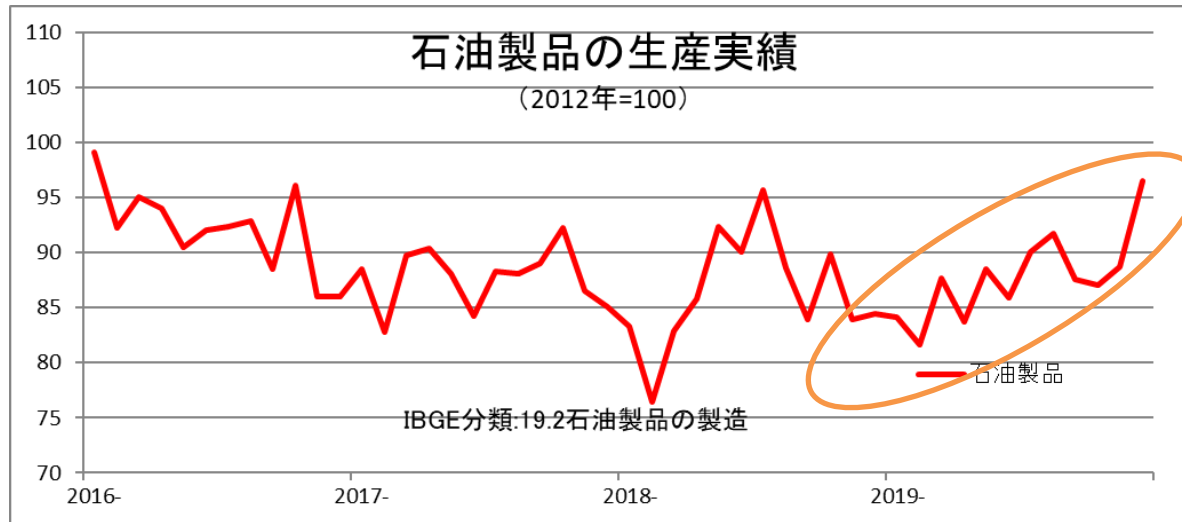
低価格の中国製機械との差別化を図るべく、取組中。

《油圧機器・マシニングセンター》

2019年:リアル安による買い控えの中、補用品の獲得に努めた。

2020年:特に油圧機器の更新需要に期待したい。

2. セグメント別状況(6) 石油・ガス、紙パルプ他関連



2. セグメント別状況(6) 石油・ガス、紙パルプ他関連

《ボイラ》

2018年まで順調に拡大してきたパルプ生産は、2019年は対前年比でマイナスとなったが、ボイラ及びEPの更新が予定されており、これらの受注を目指す。

《プラント・工場用制御システム・機器》

2019年は、鉄鋼メーカーの保全投資回復、石油・ガス上流分野の新規設備投資、パルプ産業における生産拡大投資、アルゼンチンにおけるシェールガス井戸開発投資等に伴い、受注も堅調。2020年も、同様の傾向を期待したい。

《移動式クレーン》

2019年は、クレーンの需要に回復傾向が見られた。

2020年についても、製紙業界、マイニング、エネルギー、石油・ガス業界設備投資の動向を注視する。

3. 副題について

－ビジネス環境改善に期待、いま為すべきこと－

1. 当部会会員企業にとって、ブラジルのビジネス環境が数年の間に改善することは見通せない。
2. また、アルゼンチンを始めとする南米他国の経済状況、米中貿易問題、新型コロナウイルス、これらの影響を受ける為替動向等々、不安要素は常に存在する。
3. 従って、現在のビジネス環境の中で、各製品・サービスに見合った事業形態(ブラジルを含む南米での生産、日本他からの製品輸入等)を常に模索する。

ご清聴ありがとうございました。

Obrigado!

自動車 部会

佐藤 修 部会長代理

Departamento Automotivo

Sub-Presidente: Shu Sato

ブラジル日本商工会議所 業種別部会長シンポジウム 「自動車部会」レポート

2020年3月5日

＜ 2019年の回顧と2020年の展望＞

ビジネス環境改善に期待、いま為すべきこと

➤ 四輪業界動向

1. 2019年 振り返り
2. 2020年 展望
3. 長期展望
4. 日系ブランドの対応
5. 総括

➤ 二輪業界動向

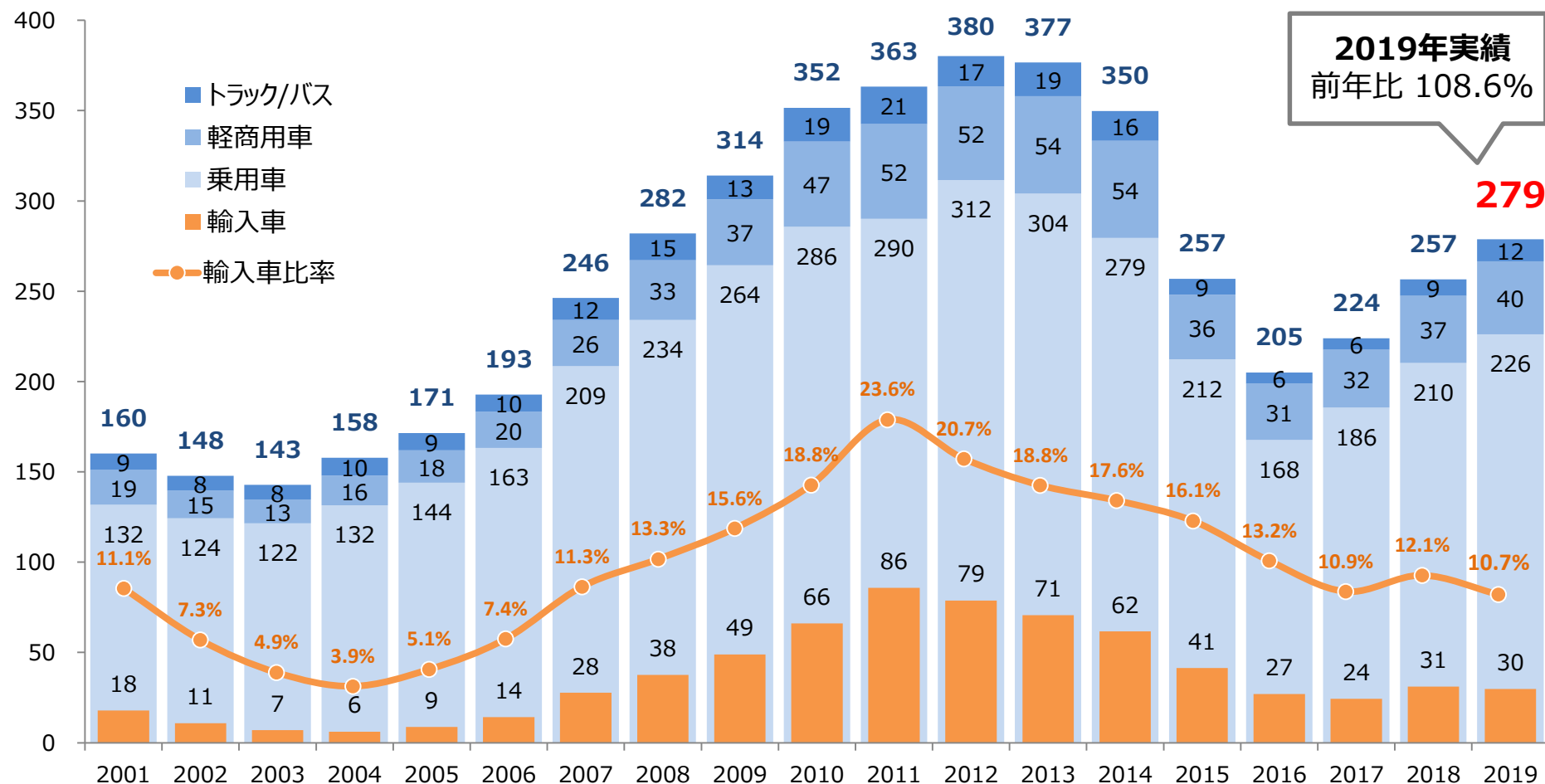
四輪業界動向

1. 2019年 振り返り
2. 2020年 展望
3. 長期展望
4. 日系ブランドの対応
5. 総括

1. 2019年 振り返り – 販売台数 推移

(万台)

出所：ANFAVEA（ブラジル自動車工業会） 大型バス、トラックを含む四輪合計

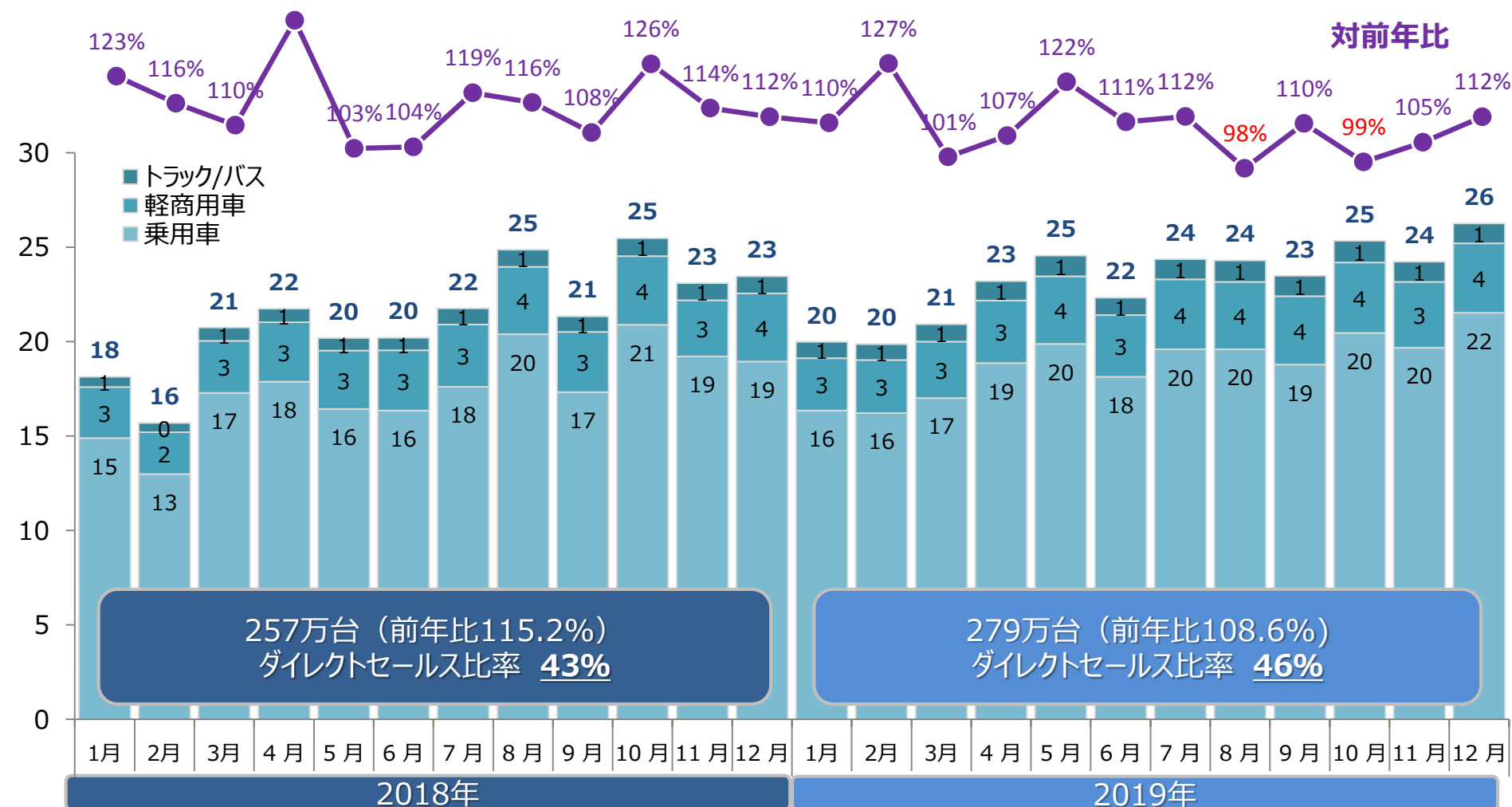


- 19年の四輪総市場は279万台（前年同期比108.6%）と、3年連続で前年越え
- 輸入車比率は10.7%と、通貨安を反映し微減傾向

1. 2019年 振り返り 一月別販売台数 推移

(万台)

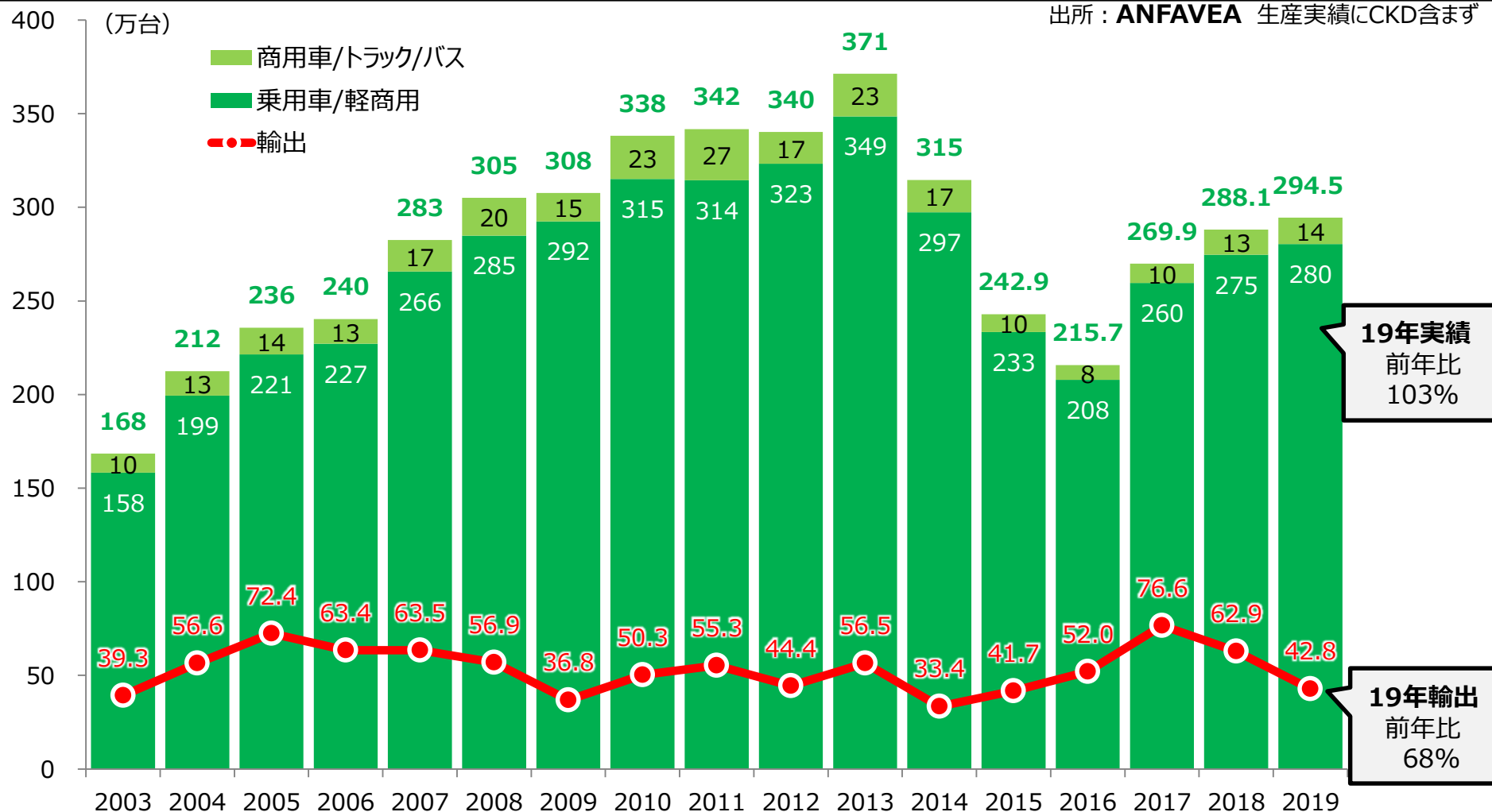
出典：ANFAVEA 大型バス、トラックを含む四輪合計



- 前年比二桁増となった月も多く、全体的に回復基調が継続
- 法人・個人事業主向け、ハンディキャップのお客様向けの販売増が市場を牽引（ダイレクトセールス）

1. 2019年 振り返り – 生産・輸出台数 推移

出所：ANFAVEA 生産実績にCKD含まず

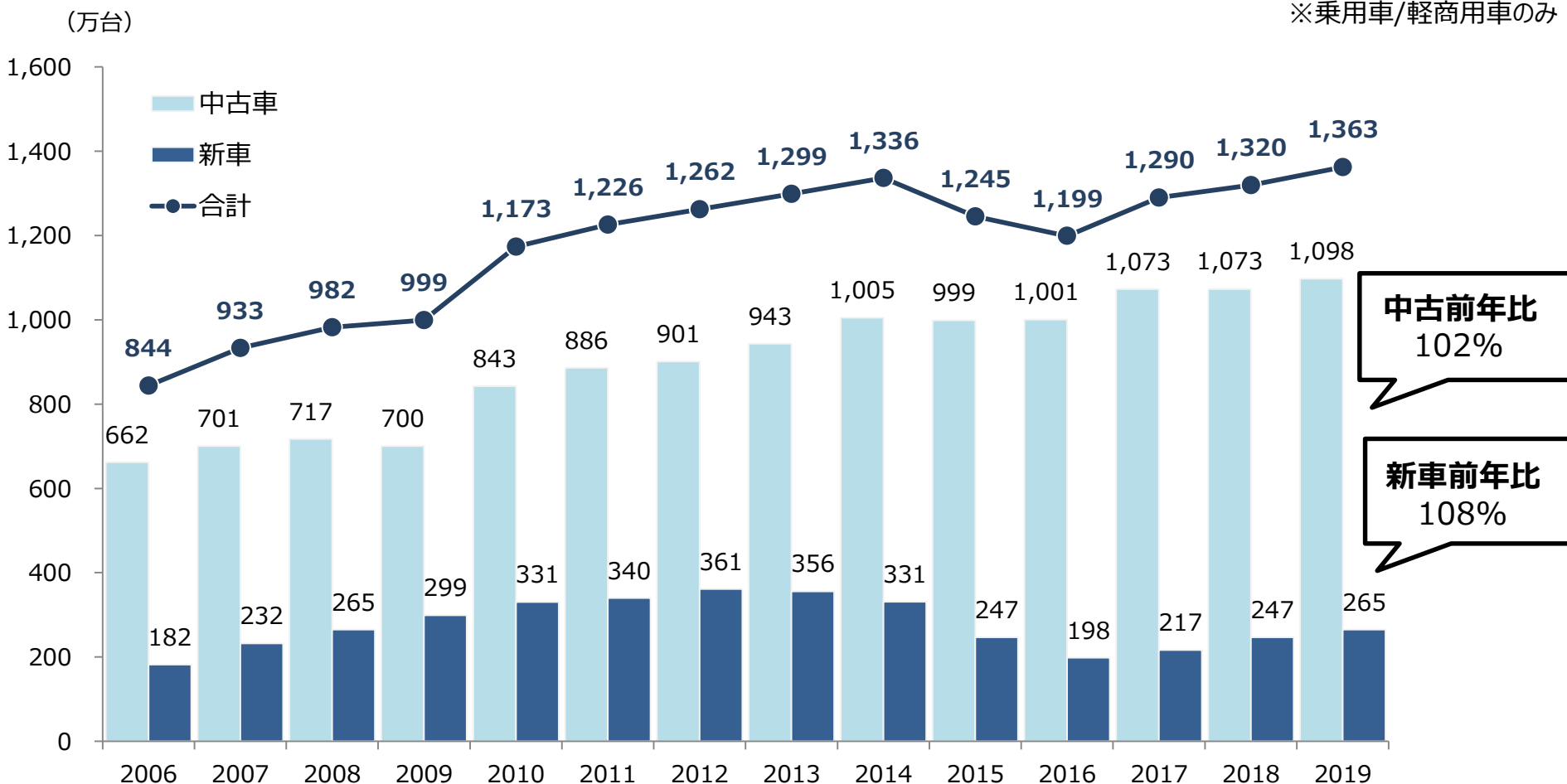


- 19年の総生産台数は、ブラジル市場の回復基調を受け前年比103%の295万台
- 輸出は、主要輸出国アルゼンチンの市場縮小を受け大きく落ち込み、前年比68%

1. 2019年 振り返り – 自動車業界(中古・新車)

出典：FENABRAVE/ ANFAVEA

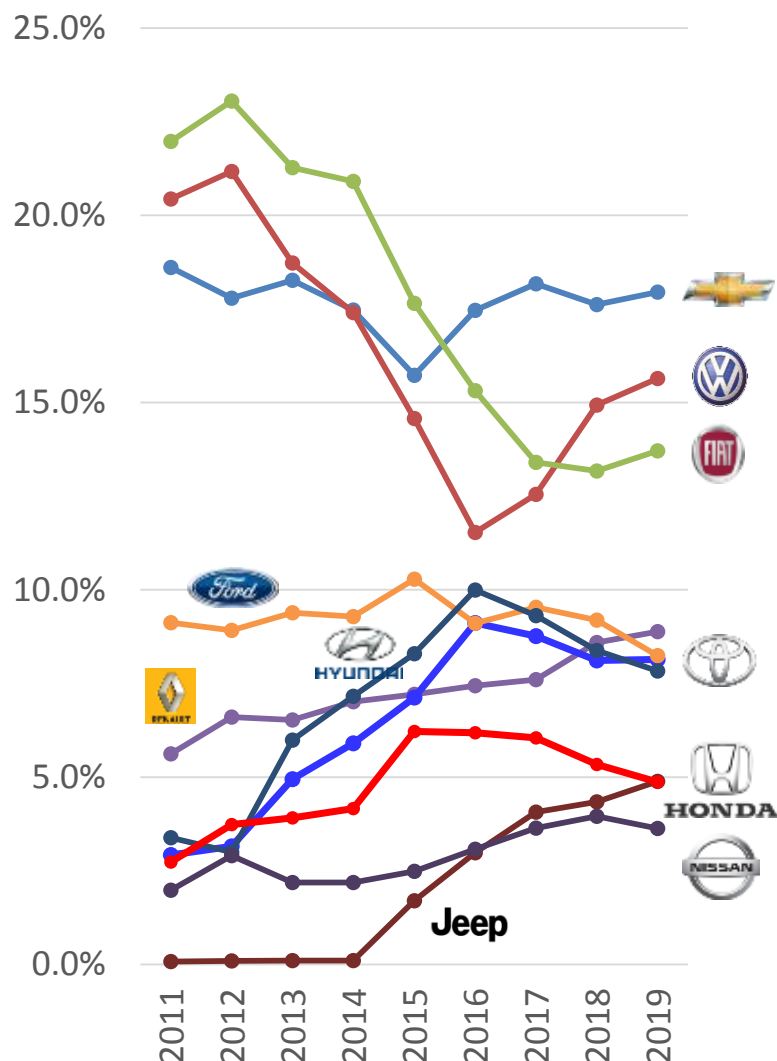
※乗用車/軽商用車のみ



➤ 中古車市場も対前年微増の102%で1,100万台。新車市場と合わせ、約1,360万台

1. 2019年 振り返り – ブランド別シェア

単位：万台、トラック・バス除



'18	台数	シェア
1	43.4	17.6%
2	36.8	14.9%
3	32.5	13.2%
4	22.7	9.2%
5	21.2	8.6%
6	20.7	8.4%
7	20.0	8.1%
8	13.2	5.3%
9 Jeep	10.7	4.3%
10	9.8	4.0%

'19	台数	シェア
1	47.6	17.9%
2	41.5	15.6%
3	36.4	13.7%
4	23.5	8.9%
5	21.9	8.2%
6	21.6	8.1%
7	20.8	7.8%
8 Jeep	12.9	4.9%
9	12.9	4.9%
10	9.6	3.6%

- 日系ブランドのシェアはほぼ横ばい。Toyotaはヤリス・カローラなど新型車効果によりランクアップ
- VWは新型車T-Cross効果、Jeepはダイレクトセールス増によりシェアアップ

四輪業界動向

1. 2019年 振り返り
2. 2020年 展望
3. 長期展望
4. 日系ブランドの対応
5. 総括

2. 2020年展望 – 自動車業界

出典：ANFAVEA 生産実績にCKD含まず

◆ ブラジル市場・輸出・生産の2020年予測

単位：万台

	2019年 最終結果	2020年 年初予測	
		ANFAVEA (1月発表)	自動車部会
国内 市場	トラック・バス 含む総合計	279 前年比：9%	305 前年比：+9%
	トラック・バス 除く合計	296 前年比：+6%	283 前年比：+6%
輸出台数		267 前年比：+8%	291 前年比：+9%
輸出台数		42 前年比：-32%	38 前年比：-11%
輸出台数		38-a	38-a
生産台数		316 前年比：+7%	316-a

- 自動車部会はANFAVEA同様、国内市場は前年超えを予測 ＊コロナウィルスの影響含まず
- 輸出台数は、アルゼンチンへの市場縮小を背景に、3年連続で前年割れを予測

四輪業界動向

1. 2019年 振り返り
2. 2020年 展望
3. 長期展望
4. 日系ブランドの対応
5. 総括

3. 長期展望

＜重要テーマ＞

- 自動車政策 Rota 2030
- 排ガス規制 Proconve
- モビリティサービス CASE
- EPA 日メルコスール間
- 税体系簡素化

3. 長期展望

<重要テーマ>

■ 自動車政策 Rota 2030

■ 排ガス規制 Proconve

■ モビリティサービス CASE

■ EPA 日メルコスール間

■ 税体系簡素化

本日はこちらの2つを
ご説明

3. 長期展望 ①-Procovave(自動車大気汚染防止プログラム)

- 環境省直下のCONAMA(連邦環境審議会)にて、2018年12月
2022年、2025年以降に適用される**排出ガス規制の骨子**が採択
- 大気中へ排出されるガソリンの蒸気を車体内で回収し燃料へ再利用する装置(**ORVR**)や燃料漏れの自己診断装置(**OBD**)等を義務付け

 **規制のハードルが高く、かつ 導入のタイミングが早い**

<排ガス規制スケジュール(予定)>

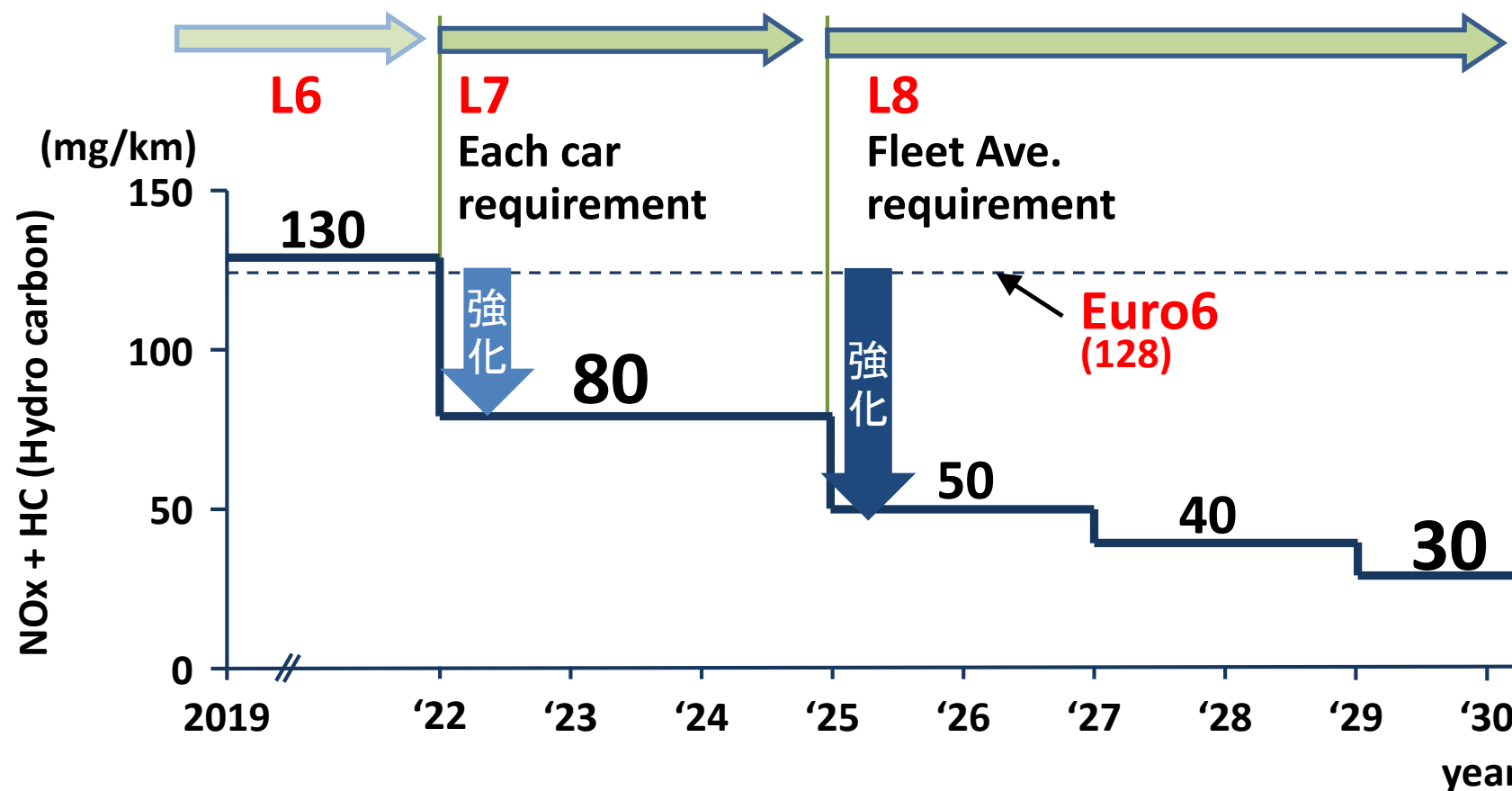
	19	20	21	22	23	24	25
規制	L6			L7			L8
OBD				全車規制			
ORVR					販売20%	販売60%	販売100%
RDE				モニタリング			全車規制

*OBD: 車載式故障診断装置, ORVR:車搭載型燃料供給時蒸気回収装置, RDE:実走行条件下排出ガス規制

3. 長期展望 ①-Procovave(自動車大気汚染防止プログラム)

乗用車の例

Source: Own preparation



- L7とL8は現在の米国基準に近い、Euro6規制よりも更に厳しくなる予想

3. 長期展望 ①-Procove(自動車大気汚染防止プログラム)

車体変更箇所(ORVR対応)

大気中へ排出されるガソリンの蒸気を車体内で回収し燃料へ再利用する装置

Implementation of ORVR

ECU Calibration

- New calibration of functional strategy for Canister Purge Valve

Higher volume of Canister (ORVR)

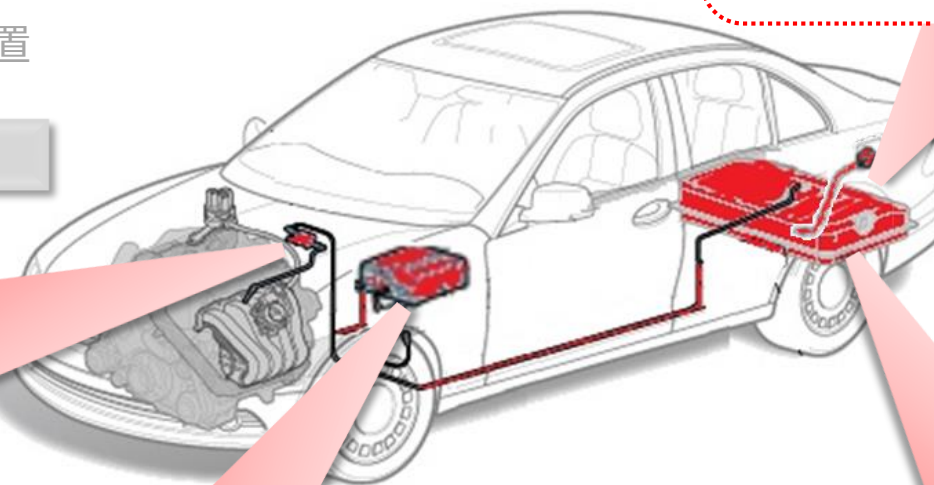
- Substantial volume increase of the charcoal filter to retain the vapor (canister).
- 2~3 times bigger than current application (interference in the current Project installation)

Fuel Supply Nozzle

- Reduction of fueling nozzle
- Material change of nozzle ("multilayer")
- Retention valve instalation

Fuel Tank and lines

- Low permeation material ("multilayer" or metallic)
- Pipe/hose diameter modification
- Introduction of new valves in the tank



➤ 大幅な車体の変更が必要となり、大きな投資・開発が発生

3. 長期展望 ②ーモビリティサービスCASE

グローバル 取り巻く環境

Conected
(コネクティッド)



Autonomous
(自動運転)



Shared
(シェアリング)

Electric
(電動化)

Amazon announces new automotive products and solutions at CES 2020

- 新規プレイヤーの参入と異業種の提携が進む。世界的な潮流としてCASEへの対応が必須

3. 長期展望 ②ーモビリティサービスCASE

ブラジル 市場での兆し

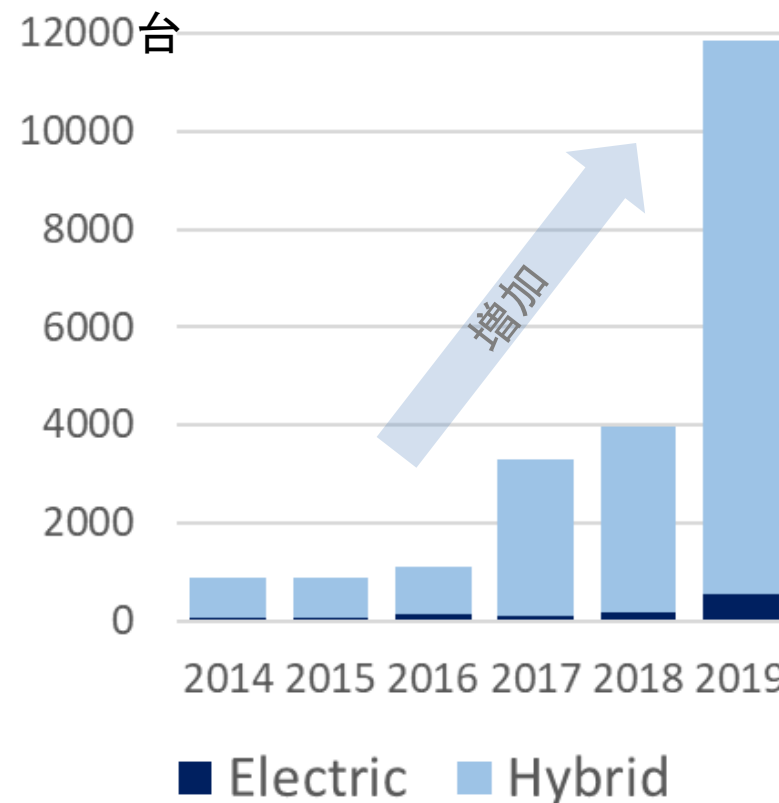
Shared
(シェアリング)



UBER



Electric
(電動化)



➤ ブラジルでの市場形成の兆し

4. 日系ブランドの対応

トヨタ・モビリティサービスを9月から開始



- 個人向けレンタカーサービス
- トヨタ・レクサス全ラインアップ提供
- アプリベース
- デイラーと提携

四輪業界動向

1. 2019年 振り返り
2. 2020年 展望
3. 長期展望
4. 日系ブランドの対応
5. 総括

4. 日系ブランドの対応

◆ 自動車政策 Rota 2030

- ・税恩典を最大限活用すべく、運用ルールが定義される細則発行を要注視

◆ Proconve 排ガス規制

- ・緊急性があり現実に即したものにすべく、政府当局への理解活動を継続

◆ モビリティサービス CASE

- ・将来拡大が見込まれるシェアリング、電動化、コネクティッド等の分野への展開

◆ 税体系簡素化

- ・政権が掲げる複雑な税制の簡素化への後押し

例) サンパウロ州のICMS滞留クレジットの解消と再発防止

PIS.COFINS二重課税訴訟の決着、OECD移転価格ガイドラインの採用等

◆ 日-メルコスールEPA

- ・ブラジルにおける日系メークの競争力強化のため政府に働きかけを継続

四輪業界動向

1. 2019年 振り返り
2. 2020年 展望
3. 長期展望
4. 日系ブランドの対応
5. 総括

5. 総括 – 本日のまとめ

2019年実績

- 2019年の自動車市場は**279万台と前年比9%増と回復傾向**。ダイレクトセールスが牽引。

2020年も微増を予測。

- **生産・輸出はアルゼンチンの不調もあり減少**。引き続き注視要。
- EUとのFTAが政治的合意。韓国とのEPA交渉が先行。日本のEPAの進捗に期待。

状況を踏まえた対応

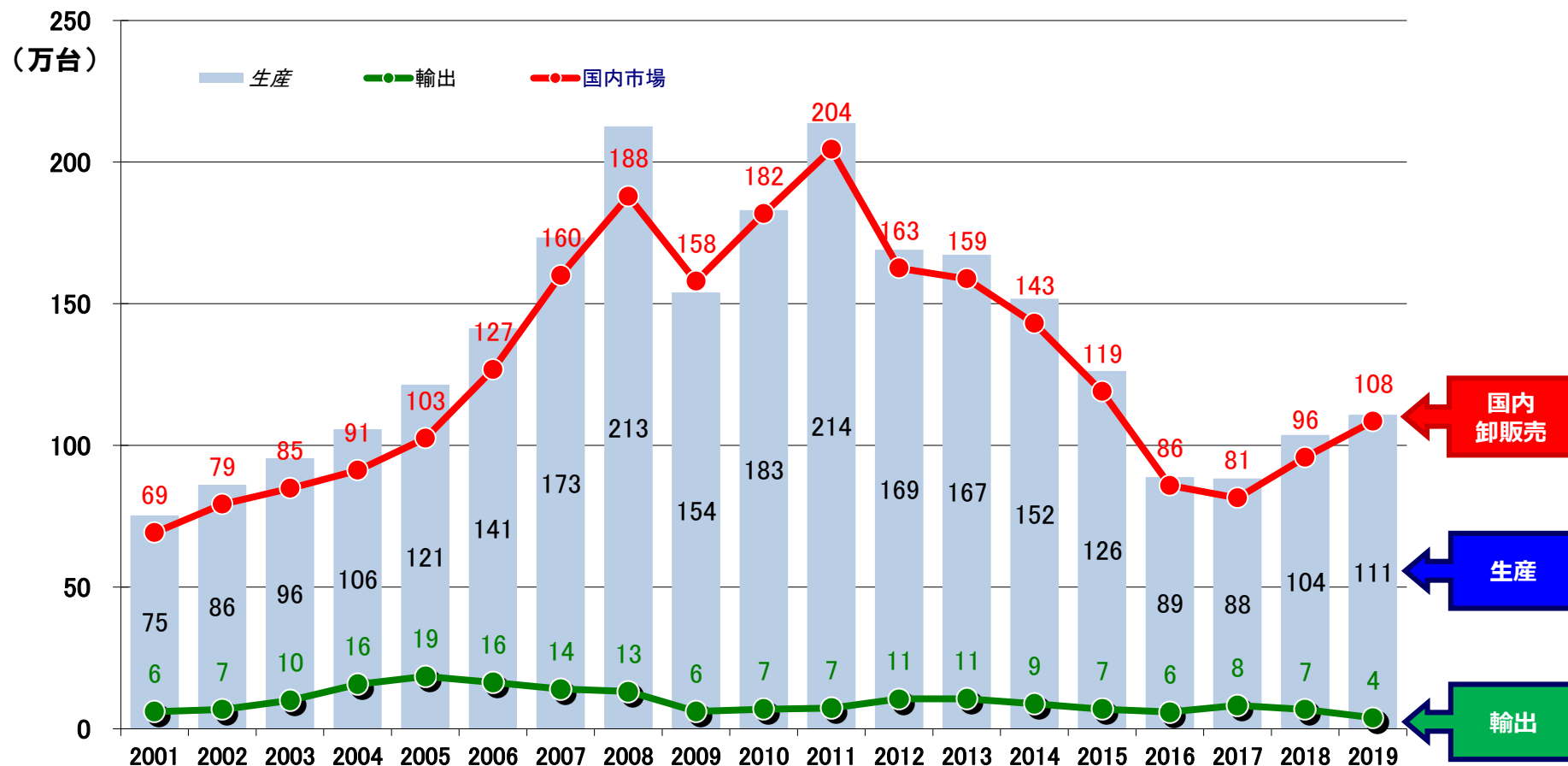
- 長期的視点に立ち、**為替変化に強い事業体質づくりを継続**
→部品現調化、生産性向上などでコスト低減、輸出促進を計る
- 緊急性のある**排ガス規制Proconveは現実に即したものにすべく、**
政府当局への理解活動を継続
- 新自動車政策ROTA2030への対応 →投資・燃費向上・安全装備適用等
- 将来拡大が見込まれるシェアリング、電動化、コネクティッド等の分野への展開
- 税体系簡素化、日メルコスールEPA締結への政府後押し

二輪業界動向

二輪車 生産・販売 推移

自動車部会

出典: Abraciclo



2019年実績

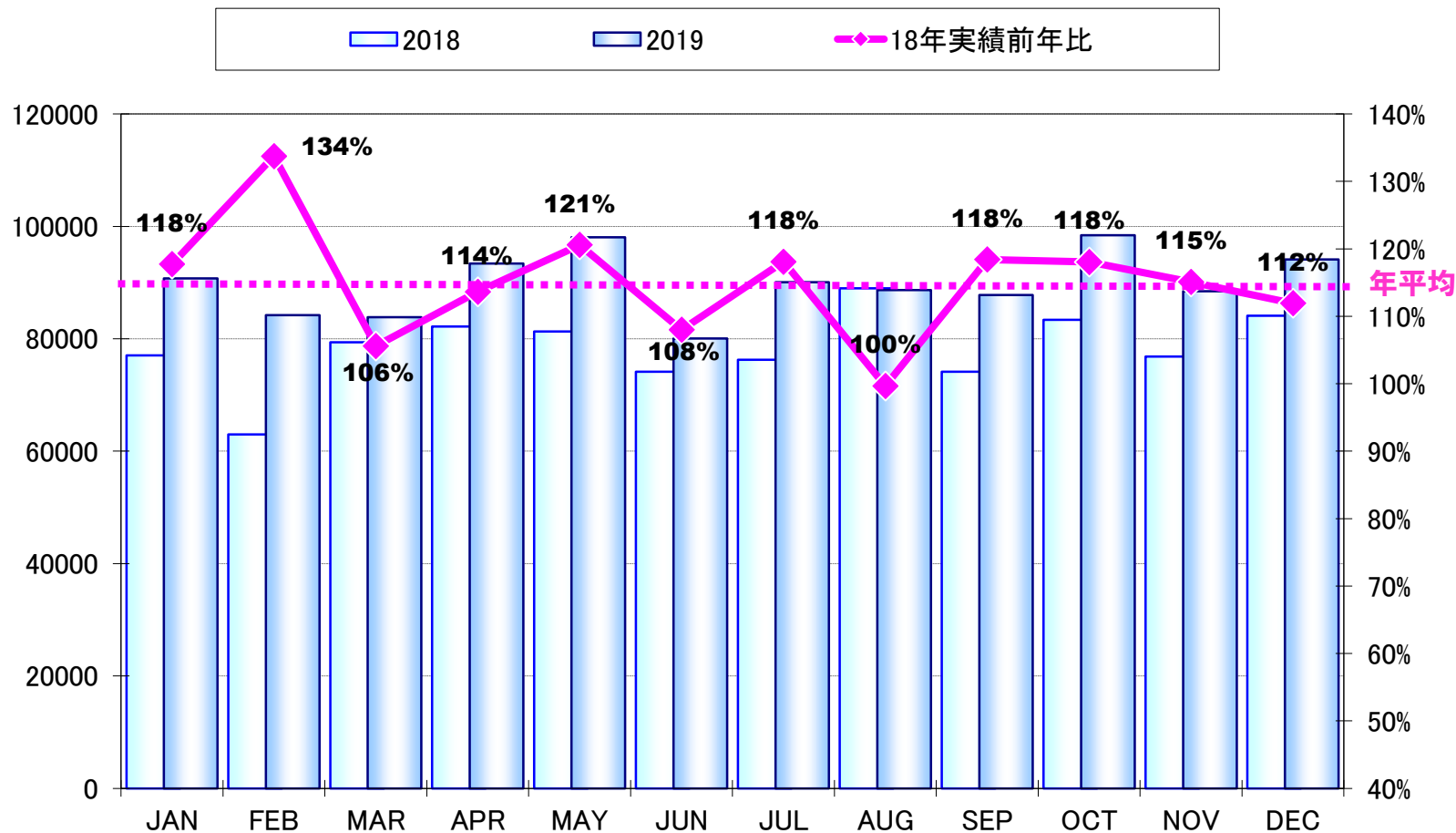
卸 108万台(前年比113%)
 生産 111万台(前年比107%)
 輸出 4万台(前年比57%)

クレジット販売増加が寄与
 国内販売増に伴い生産も前年を上回る
 アルゼンチンの経済不況により前年比半減

二輪車 月別販売推移 (2018年vs2019年)

自動車部会

登録データ(DETRAN)

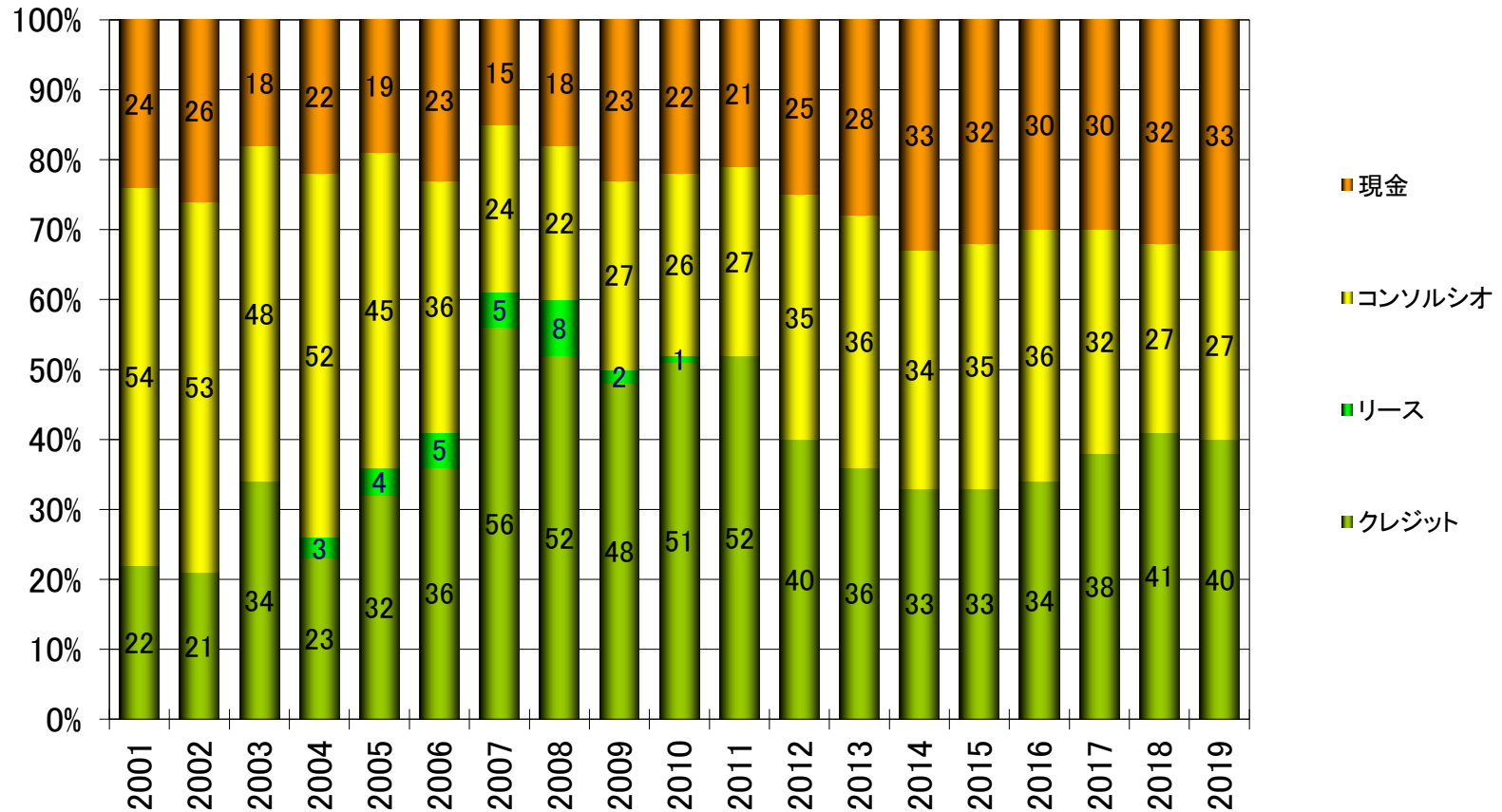


2019年は、各月で前年を上回り好調を維持

二輪車 支払形態別 販売比率

自動車部会

※出典: ANEF(自動車メーカー系金融会社協会)



クレジットは歴史的な低金利と銀行の融資拡大により市場拡大を下支え

ご清聴ありがとうございました

コンサルタント 部会

吉田 幸司 部会長

Departamento de Consultoria e Assessoria

Presidente: Koji Yoshida

2019年の回顧と2020年の展望

『ビジネス環境改善に期待、
いま為すべきこと』

コンサルタント部会

2020年3月5日

経済環境

- レアル対ドル最安値、SELIC利下げ（現在、4.25%）
- ボルソナーロ大統領の様々な施策（年金改革、民営化、等々）
- 海外直接投資が増加傾向
- M&A件数が1999年以降最高数を記録（ソフトバンク投資ファンド、スタートアップ企業への投資etc...）
- 南米各国での地政学リスクの高まり（アルゼンチン、チリ etc..）
- 世界各地での異常気象、気候変動リスクの高まり
- 米中貿易合意、株価最高値、スタートアップ企業の上場/上場延期などアメリカ政治/経済動向
- Brexit決定（2020年度末）
- コロナウィルスの影響

ブラジルにおける 5 G導入に向けての取り組み

- 2020年2月6日、ANATEL（通信庁）は5G向け周波数の割り当てのための入札に関する規則を決定
- レオナルド・モライス通信庁長官は「11月に入札を実施するために準備を進めている」と発言。一方、市場関係者は2021年初頭までもつれ込むと予想
- 5G用の設備供給者については、安全保障上の懸念がある中国資本企業への制限を設けるか否かを政府内で検討中
- 現政権は親米派のため、米国に配慮した規制がされるのではないかと憶測されている
- 世界の主要な5G設備メーカーはブラジル市場への意欲を表明している：
 - エリクソン：2019年11月、サン・ジョゼ・ドス・カンポス工場において5G向け設備を製造する専用ラインの新設にR\$1 Billionを投資すると発表
 - ファーウェイ：ブラジルに新たな工場の建設を検討
- 日本で検討されているような5G投資促進税制（2020年度税制改正項目）といったものは現状ブラジルでは見当たらない

ブラジルにおける 5 G導入に向けての取り組み

- 5G導入にあたり、周波数帯域の特徴により従来よりもさらなるアンテナが必要となる（一説では現在のアンテナ数の5倍）
- 現法では、通信会社はアンテナ設置のために市による許可を得なければならないが、その取得が長期間に及ぶ可能性があり、それが5G普及の妨げになると言われている
- 国会では、手続きを簡素化するための法案が議論されている
 - 具体的には、通信会社が申請を行った後、60日以内に市が審査しなかった場合、アンテナ設置を認めた暫定的な許可が下される など

気候変動リスク

- 2015年12月にパリ協定が採択（COP21）。2016年4月26日に185カ国が批准（産業革命以降の平均気温上昇を2℃未満に抑制する。1.5℃未満への抑制が努力目標）
- 2018年10月にIPCC（気候変動に関する政府間パネル）が「1.5℃特別報告書」を発表
- 2019年11月4日にアメリカが離脱を表明
- 2020年1月開催のダボス会議での最重要テーマ
- 温室効果ガス排出量削減目標：
 - 日本：2030年度までに2013年度比で26%削減。ただし、この目標は大きく不十分（Highly Insufficient）とされている
 - ブラジル：2025年度までに2005年度比で37%削減。可能であれば、2030年には43%まで削減。この目標は不十分（Insufficient）とされている
- バイオ燃料業界に限定したCo2排出取引制度（Renovabio）が現在導入途上にあるが、全国規模の制度については調査中（PMR-Brasil：世界銀行との共同プロジェクト）
- ブラジルのCo2排出量は森林伐採由来が大きな比重を占めていた（04年のピーク時には全体の8割）が、2004年から実施されたアマゾン森林保護計画（PPCDAm）により森林伐採の大幅減少に成功。2015年時点の排出量は2025年度の削減目標値とほぼ同レベルにあった。一方、2019年に発生したアマゾン森林火災、及び現政権の環境予算の削減によりCo2排出量が再度上昇傾向に転じることが懸念されており、さらなる対策が必要と言われている
- ブラジルは現在炭素税を導入しておらず、現在進行している税制改正でも議題にあがっていない

気候変動リスク

- FSB（金融安定理事会）が気候変動に関する企業の対応の情報開示を促す「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」を設置し、2017年6月に提言書が公表
 - 4つの開示項目が推奨：「ガバナンス」、「戦略」、「リスク管理」、「指標と目標」
 - 日本では2020年2月末時点で248の賛同企業・機関（ブラジルではValeなど20社・機関）
 - 内閣府令の改正され、2020年3月期の有価証券報告書から記述情報の充実が求められており、今後、気候変動リスクに関する開示が充実されていくと考えられる
 - ブラジルでは民間主導によるTCFDの導入が進行中。現在「ブラジル銀行連合会（FEBRABAN）」及び「持続可能な開発のためのブラジル経済会議（CEBDS）」によりTCFDの周知・普及が推し進められている
- 気候変動リスクは「物理的リスク」と「移行リスク」に大別される

物理的リスク	移行リスク
急性：異常気象の深刻化 など 慢性：平均気温、海面の上昇 など	政策及び法規制 技術 市場 評判 等

- 一方で気候変動リスクへの対応はビジネスの機会とも考えられる
 - 資源効率性
 - エネルギー資源
 - 製品・サービス
 - 市場
 - レジリエンス

ビジネス環境改善を目指した政策

- 2019年にボルソナーロ新政権が誕生したことにより、ゲデス経済大臣主導のもとブラジル経済を発展させるための数々の政策が実行/議論
- 新政権は経済自由化・小さな政府を標榜しており、また財政収支が赤字である状況下では国による財政出動が困難であるため、景気回復のために民間投資及び海外投資の呼び込み

(政府政策一例)

- ✓ 社会保障（年金）改革（2019年10月法案可決）
- ✓ 行政改革（議論中）
- ✓ 財政改革（議論中）
- ✓ 税制改革（議論中）
- ✓ OCED加盟意思（OECDとの議論中）
- ✓ 民営化/インフラプロジェクトの推進
- ✓ 経済自由令 etc...

ビジネス環境改善を目指した法改正例

通称「経済自由令」

(法令13874号: 2019年9月施行)

- 事業許可制度の緩和による許認可取得コストの削減
(低リスクの場合、許認可取得の必要性なし)
- 法人格否認の法理の明確化による法的安定性の改善
- 有限責任会社(Ltda)の設立要件の緩和 (1人有限会社の設立が可能)
- 税務及び会計に関する書類のデジタル保管の容認 (管理コストの削減) 等

Trabalho Verde e Amarelo” (緑&黄色雇用契約)

(暫定令905号: 2019年11月施行)

- 若年層が最初の勤務先を得る可能性を高めることを目的
(就業経験のない18歳から29歳までの若者を対象。採用した企業は、当該従業員のFGTS、INSS負担額が減額される)
- ボーナス支払いに関する新ルール (一定条件下でボーナスに対するINSSの免除)
- 利益分配 (PRL)に関する新ルール (設定基準の緩和)
- 理由なき解雇の場合のFGTSペナルティーの政府への支払い分 (10%)の免除 等

WTO 政府調達に関する協定 (GPA)への参加方針を発表(2020年1月)

- 国外企業の政府調達案件への参入することへの容易化
- 入札時の国外企業と国内企業の規則が同条件
- 入札プロセスの透明化

ビジネス環境改善を目指した法改正 /改正案例（税務関連）

通称「善良な納税者」

(暫定令899号: 2019年10月施行)

- 連邦税に関する裁判外紛争解決制度を法制化し、税務訴訟件数の削減をめざす（訴訟費用の削減）
- 訴訟件数が減少することで裁判所での審議スピードの改善
- 最長84ヶ月の分割払いを認め、和解案によるキャッシュフローへの影響を低減

OECD加盟意思表示

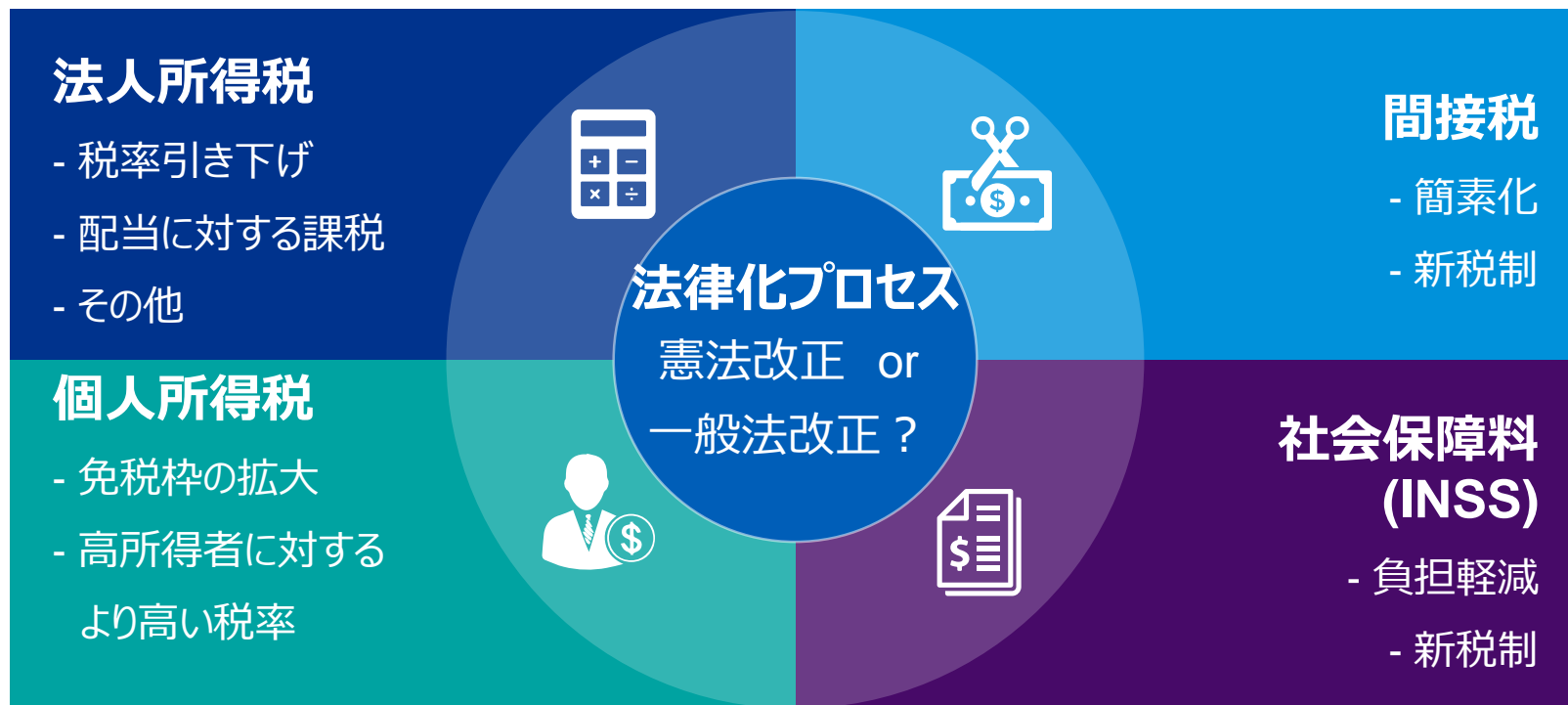
(2017年から進行中)

- 2019年12月18日にOECDとブラジル連邦歳入庁は、ブラジル移転価格税制とOECDガイドラインを比較した場合の類似点と相違点に関するレポート“Transfer Pricing in Brazil”を公表
- ブラジルはOECDガイドラインへ準拠する必要性があることを明記
- OECDガイドラインへの即時完全準拠 or 段階的準拠（中小企業の課題への対応）
- BEPS 行動計画13の適用, 独立企業間価格の再定義、セーフハーバー規定の見直し等を提案

税制改革（後述参照）

- 複数の案が提案されている。
- 政府案は、2019年11月18日に示されたものの国会へ提出されておらず、公式なものはない。
- 税制改革は、税制の簡素化に焦点を当てており、また、脱税及び税務訴訟件数を減らすことを目指している。原則的に税負担軽減は考えていない

ブラジル税制改革動向全般(1/2)



ブラジル税制改革動向全般(2/2)

ブラジル政府は税制改革に対して2つのアプローチを検討：

- ➡ 幅広い憲法改正 (Broad constitutional reform)
様々な案があるものの国会で議論されているのは、上院ではPEC110/2019及び下院ではPEC45/2019
- ➡ 一般法改正 (Infra-constitutional reform)
政府案は、一般法改正による税制改革も検討

税制改革は、税制の簡素化に焦点を当てており、また、脱税及び税務訴訟件数を減らすことを目指している。原則的に税負担軽減は考えていない。

また、政府案として経済省が2019年11月18日に税制改革案を示すも国会には提出されていない。



幅広い憲法改正 (Broad constitutional reform)

PEC 110/2019 (PEC 293/04をベース) – 上院での議論されている案 (Luiz Carlos Hauly案)

➤概要

- ブラジル税モデルの改善と簡素化を目指し、財及びサービスへの課税に焦点を当てる。財及びサービスに対する9つの間接税(ISS, ICMS, IPI, PIS&COFINS, CIDE, Salário-educação, IOF 及び Pasep)を1つの間接税(IFS)へ統一する。IFS税制による税収は、15年の移行期間を経て連邦政府、州政府及び市町村政府で配分。

➤2つの税制の創設

- ✓ IFS - 財及びサービス取引に対する課税
- ✓ 特別レジメ – 特定の財及びサービス（電気、燃料、飲料及び通信サービス）に対する課税

➤その他

- ✓ 法人所得税 (IRPJ) – 利益に対する社会負担金(CSLL : 現在法人所得税と同様の取り扱い)を廃止し、IRPJと統合

幅広い憲法改正 (Broad constitutional reform)

PEC 45/2019 – 下院で議論されている案（バレイア・ロッシ氏案）

ブラジル税モデルの改善と簡素化を目指し、財及びサービスへの課税に焦点を当てる。財及びサービスに対する5つの間接税(ISS, ICMS, IPI, PIS&COFINS)を1つの間接税(IFS)へ統一する。IFS税制による税収は、10年の移行期間を経て連邦政府、州政府及び市町村政府で配分。

IFS税制

1

連邦、州及び市町村で一律レート
非累積型課税方式

2

クレジット方式を採用。
企業の事業活動に供される財及びサービスに課された税金は全額クレジットとして利用可

3

輸出及び投資は課税対象外

4

課税標準は税抜金額
(税金は課税標準に含まない)

5

累積税務クレジットは、最長で60日間で還元

幅広い憲法改正 (Broad constitutional reform)

PEC 45/2019 – 下院で議論されている案（バレイア・ロッシ氏案）

IBS 税率 = 連邦税率 + 州税率 + 市町村税率

各政府レベルでの税率の変更に対して制限

IBS税率は最初の2年は 1%

この税金の導入の一方で、COFINSの税率を下げることで追加の税負担が起きないようにする



税務インセンティブの廃止

8年間の移行期間

IBSの税率が上がるにつれて、現行税制の廃止もしくは税率の減少



政府税制改正案 (2019年11月18日公表。非公式)

Phase 1: PIS&COFINSを統合し、新たな付加価値税 (CBS)を創設

- 税率を一律化 (11% or 12% or 13%)。ただし、特定セクター (交通、建設、一部のサービスなど) への特別な税率を検討
- 現行の特別レジュメは廃止。
- デジタル媒体 (配車アプリや音楽配信など) を含むすべての財及びサービスを対象。
- 支払額全額をクレジットとして利用可能 (仮払と借受の金額の差額が納税額 (もしくは還元対象額) となる)。
- 生活必需品への免税措置を廃止し、低所得者向けの税金還元制度を導入。

Phase 2: CIDEの廃止及びIPIの変更

CIDEの廃止

- CIDEを廃止し、CBSへ統合

IPIの変更

- IPIを個別消費税(imposto seletivo)へと変更。
- 税率は対象品目ごとに異なる (税率は検討中)。
- 対象商品として、タバコ、アルコール飲料、一部の自動車、また、望ましくない消費財が考えられている (IPIよりは範囲は狭い)。

政府税制改正案 (2019年11月18日公表。非公式)

Phase 3: 個人所得税及び法人所得税の改正

個人所得税

- 現在最高税率27.5%を35%まで引き上げ（年間468,000レアル以上という話もあるが明確な所得金額の情報なし）。
- 免税となる所得金額の引上げ。
- 所得税額控除（医療費及び教育費）の制限。

法人所得税

- 税率を現行の34%から5年から8年かけて段階的に20%へ引下げ。
- 法人所得税の計算基礎は、現在会計基準をベースとしているが、この計算基礎を税務会計基準への変更。
- 特定の税務インセンティブや税額控除（利子配当など）の廃止。
- 配当金に対する課税（その後様々な税率のアイデアあり）。

なお、以前に話としてあった繰越欠損金の利用限度額を30%から15%へ削減する案については、現状の政府案には見当たらない。

Phase 4: 社会保障料（INSS）の負担削減

- 企業が負担する従業員給料に対する負担金（社会保障料（INSS）やFGTSなど）の段階的引下げもしくは撤廃
- 詳細は公表されていない

その他税制改正動向

- 現在国会で議論されている税制改革案（2案）については、当該案を統合するために上院・下院による合同委員会が2月19日に設置された（上院、下院議員それぞれ25名で構成）。アルコールブレ上院議長によると30日から60日の議論を経てPEC110/2019とPEC45/2019を統合した税制改革案を作成。税制改革法案が作成されると憲法改正案の通常のプロセスに従い、まずは下院での審議が開始。
- ゲデス経済大臣はデジタル課税導入を導入したい意向（具体的な内容の公表はなし）
- ゲデス経済大臣は、政府経済班に対し、贅沢税（タバコ・アルコール飲料・肥満を引き起こす過剰な糖分を持つ製品に対する課税）についての調査を指示（ただし、ボルソナーロ大統領は反対を表明）
- 金融取引税については、ゲデス経済大臣は、「その導入の可能性は排除しているが、取引 (Transaction) に対する課税方法は除外しない」との発言

次世代人材

ジェネレーションX

1965-1980

ミレニアル世代

1981-1996

ジェネレーションZ

1997-2012

*年代の定義は諸説有

ジェネレーションX

デジタル・イミгранト（成年期にアナログからデジタルへの転換を経験）

現在のマネジメント層（40代～50代）

ミレニアル世代（ジェネレーションY）

デジタル・パイオニア（青年期・少年期にデジタル時代の台頭を経験）

現在の従業員層（20代後半～30代後半）

ジェネレーションZ

デジタル・ネイティブ（幼少期より、発展したデジタル時代を経験）

将来の労働人口（10代～20代前半）

ミレニアル世代退職理由トップ5

ブラジル	日本
昇給がほとんどない（86%）	残業が多すぎる(73%)
昇進の機会がない(85%)	メンタースポンサーを見つけにくい(71%)
上司が柔軟な働き方を認めない(85%)	職場にチームワークを奨励する雰囲気がない(71%)
職場にチームワークを奨励する雰囲気がない(80%)	昇給がほとんどない（69%）
フレックス制のスティグマ(79%)	昇進の機会がない(66%)

出所：Global generations (EY(2015))

次世代人材の確保・引き止め例

- **離職の主要因に対するアクション**

- 報酬への不満⇒福利厚生を含めたトータル・パッケージの透明化
- 昇進機会が不十分⇒中長期的なキャリアの展望と一緒に描く、個性を活かした異動
- 学習・成長機会が不十分⇒キャリアプランに合わせた能力開発の機会を提供（社内・社外研修など）

- **有意義を感じられる仕事の提供**

- 自身の仕事はどういった形で企業に貢献しているかを見える化
- 自立性・適材適所・権限を付与した小チーム・自由時間を念頭に置いた仕事の提供

- **企業の社会的貢献を実施・アピールするためのCSR活動**

- ミレニアル世代が関心を持つトピックを考慮したCSR活動の策定・実行

出所：2019年デロイト ミレニアル年次調査

規制緩和を捉えたビジネス 機会



PagSeguro会社概要

(単位: 百万リアル)

	2019	2018	2017	2016	2015	2014
売上	5,707	4,334	2,522	1,138	673	325
税前利益	1,912	1,127	683	155	40	36
純利益	1,367	910	478	127	35	27

2006年 インターネット会社UOLによりデジタルファイナンシャルサービス事業会社として設立、オンライン決済サービスを展開。

2014年 POS機器（実店舗での決済）業界に参入

2018年 NYSE上場、ユニコーン企業となる

2020年2月26日のマーケット時価総額：11,3B USD

従業員数：1,087名

規制緩和前のブラジル決済マーケットの状況

- 銀行によって設立された「Rede」「Cielo」の2社が業界を二分（凡そ95%のマーケットシェア）
- 両社はカードの国際ブランド「Visa」及び「Mastercard」（当時マーケットシェアの96%）と独占契約を締結していたため、新規参入が事実上不可能な状態であった



*シティバンクも設立社だったが後に撤退

POS業界の変遷/法改正の流れ

- **2009年7月- 8月:** CADE（ブラジルにおける公取委）、Cielo及びRedeの寡占問題に対する調査を開始
- **2010年:** CADE、「カード決済業界報告書」を発表。業界の寡占化を招いてる主因を指摘。決済市場の規制化へ向けた動きが始動
- **2013年4月01日:** PagSeguro、初のPOS機器を発売。磁気カードのみに対応した簡易的なもの
- **2013年5月17日:** 暫定令615号が施行される
- **2013年10月09日:** 暫定令615号を一般法として可決され、法令12.865号として施行。決済市場はブラジル中央銀行の管理下に置かれ、初の規制体系としてSPB（ブラジル決済システム）が制定。銀行といった金融機関と異なる規制を持つ「決済機関」の枠組みが作られる
- 2013年11月04日: 中銀規則4.282号が制定。2010年のCADE報告書に基づいた決済市場の開放を今後の中銀の政策指針と定めた
- **2014年3月:** PagSeguro、ICカードにも対応したPOS機器を発売。POS機器業界へ本格的に参入
- **2014年12月:** PagSeguro、中銀に決済機関としての認定を得るための申請を提出（法令が施行される前に既に事業を運営していたため認定取得まで事業の継続を認められている）

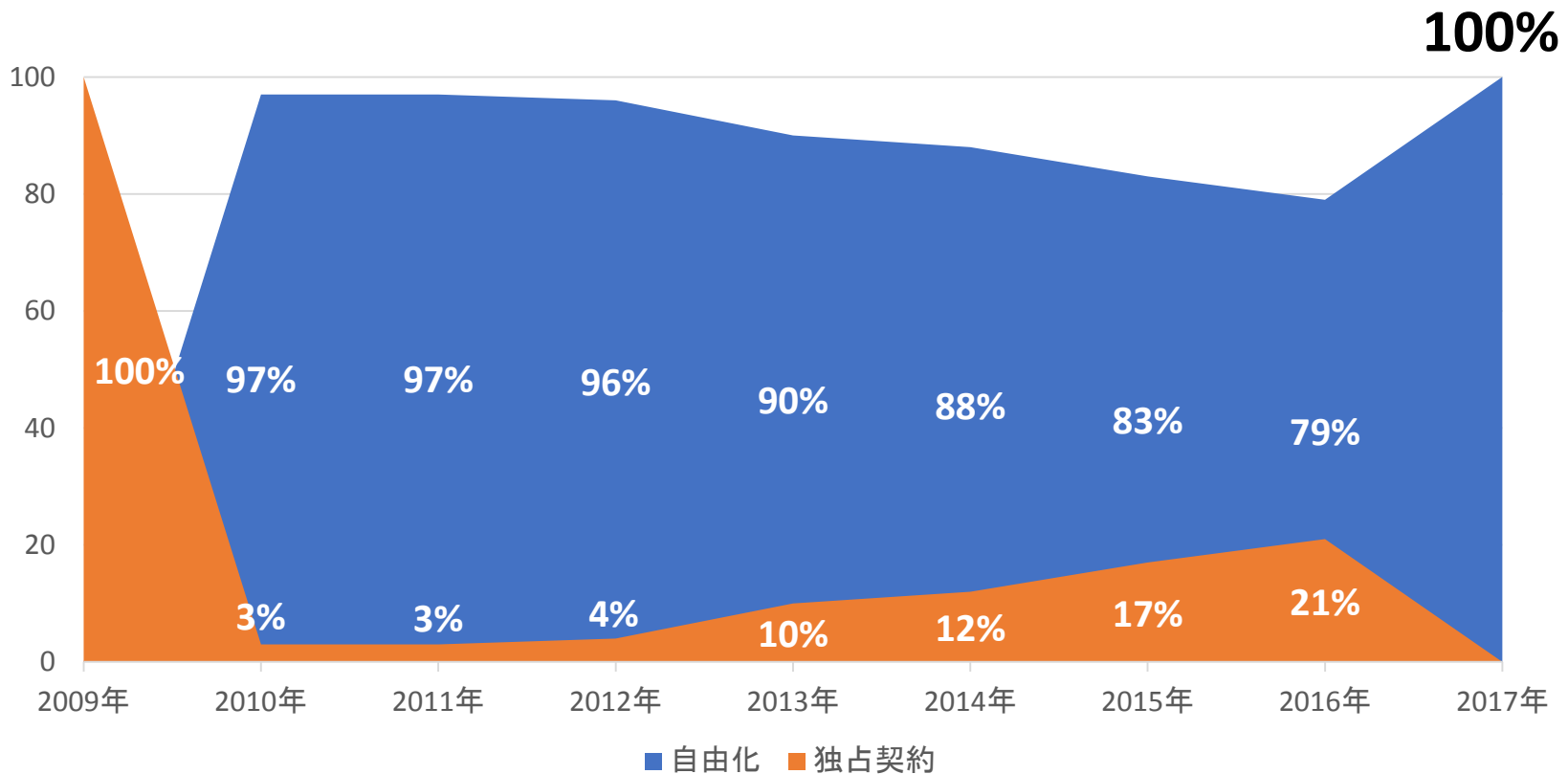
POS業界の変遷/法改正の流れ



VISA



120 —mastercard.



出所: CADE報告書 (Mercado de Instrumentos de Pagamentos) 及び ABRANET 資料をもとに作成

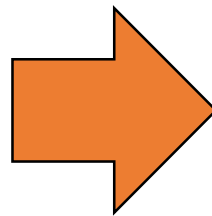
PagSeguroのビジネスモデル

- Cielo及びRedeの従来のビジネスモデルは**機器のレンタル**による継続的な料金徴収を柱としており、月額のリental料（2011年Cieloの月額レンタル料R\$114-199）は大手企業にとって大きな負担にならなかったものの、零細及び中小企業にとって大きな負担となっていた。

例：

レジ二台を有する零細飲食店

- Cielo POS機器2台レンタル料：
R\$114x2=R\$228/月
- Rede POS機器2台レンタル料：
R\$140x2=R\$280/月



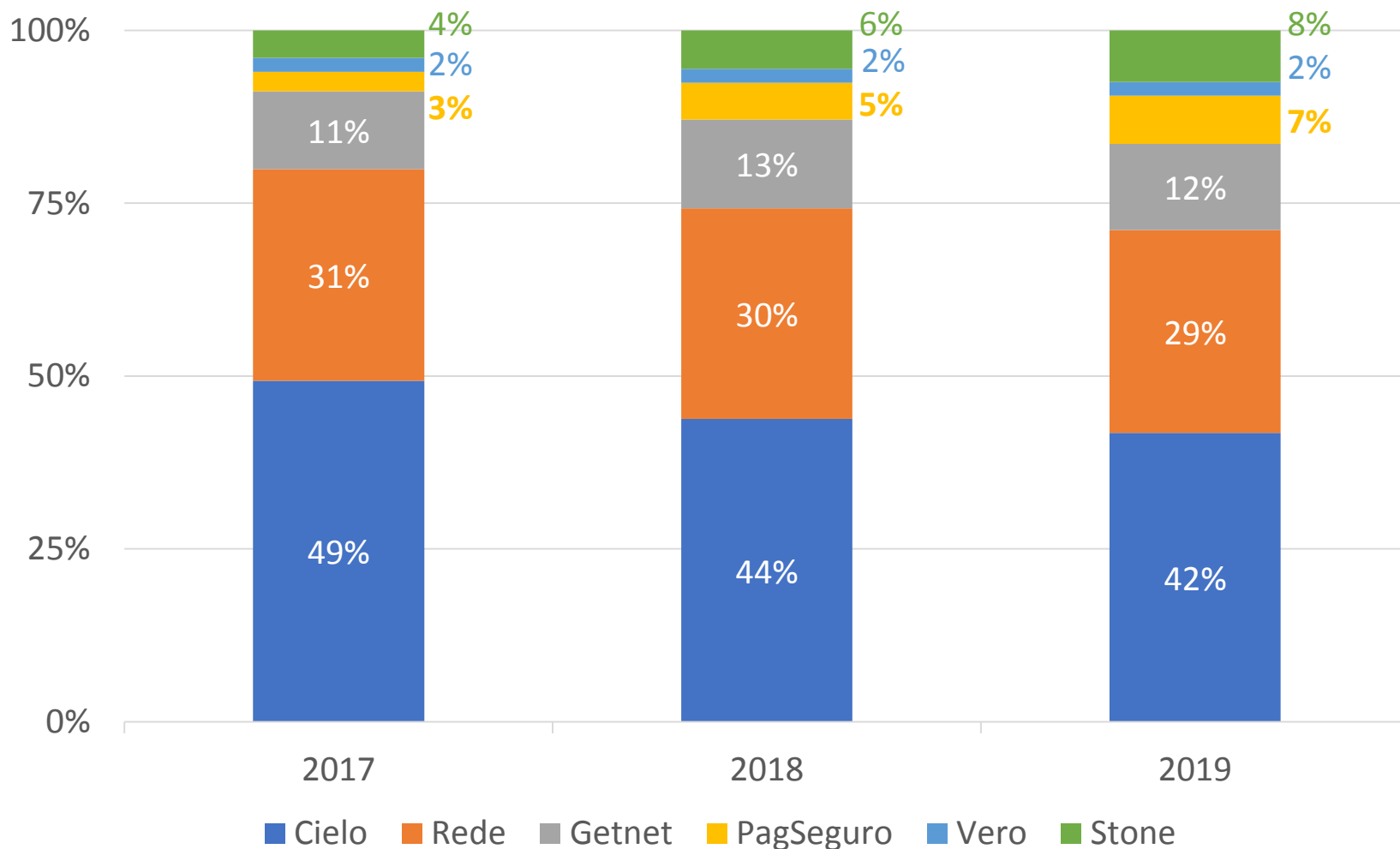
ブラジルの零細企業（ME・EPP会社）の平均年間売上が約10万リアル（SEBRAE調べ）であることを考慮すると、**売上の約6%**がPOS機器のレンタル料となり、零細企業にとって大きな負担となる

合計：R\$508/月、**R\$6.096/年**

PagSeguroのビジネスモデル

- PagSeguroは、そうした中小・零細企業をターゲットに新たなビジネスモデルを展開。POS機器をレンタルではなく、手ごろな値段（2014年時点で一機あたりR\$238、19年現在は最安でR\$106）で**機器を販売**する手法を取った（一度購入すればレンタル料を支払う必要が無い）
- PagSeguroの機器は「Moderninha」「Minizinha」と呼ばれ二大企業の機器ほどの機能はないが中小企業にとって必要最低限の機能は備えており、機器自体の使いやすさも相まって好評を得た。さらにPOS機器利用者に**銀行口座を持つことを要求しないことから**、口座を持たない層を取り込むことが出来た（他社は要口座（POS機器レンタルためにその銀行の口座開設が必要））
- 2019年1月にBBN銀行の買収により銀行業務ライセンスを取得、同年5月にデジタルバンク「PagBank」のサービスを開始。融資などの金融商品を扱うことが可能になったことで決済以外の収益源の開拓を目指しており、3 - 5年かけてPagBank由来の売上を全体売上の30%までに引き上げることを計画している

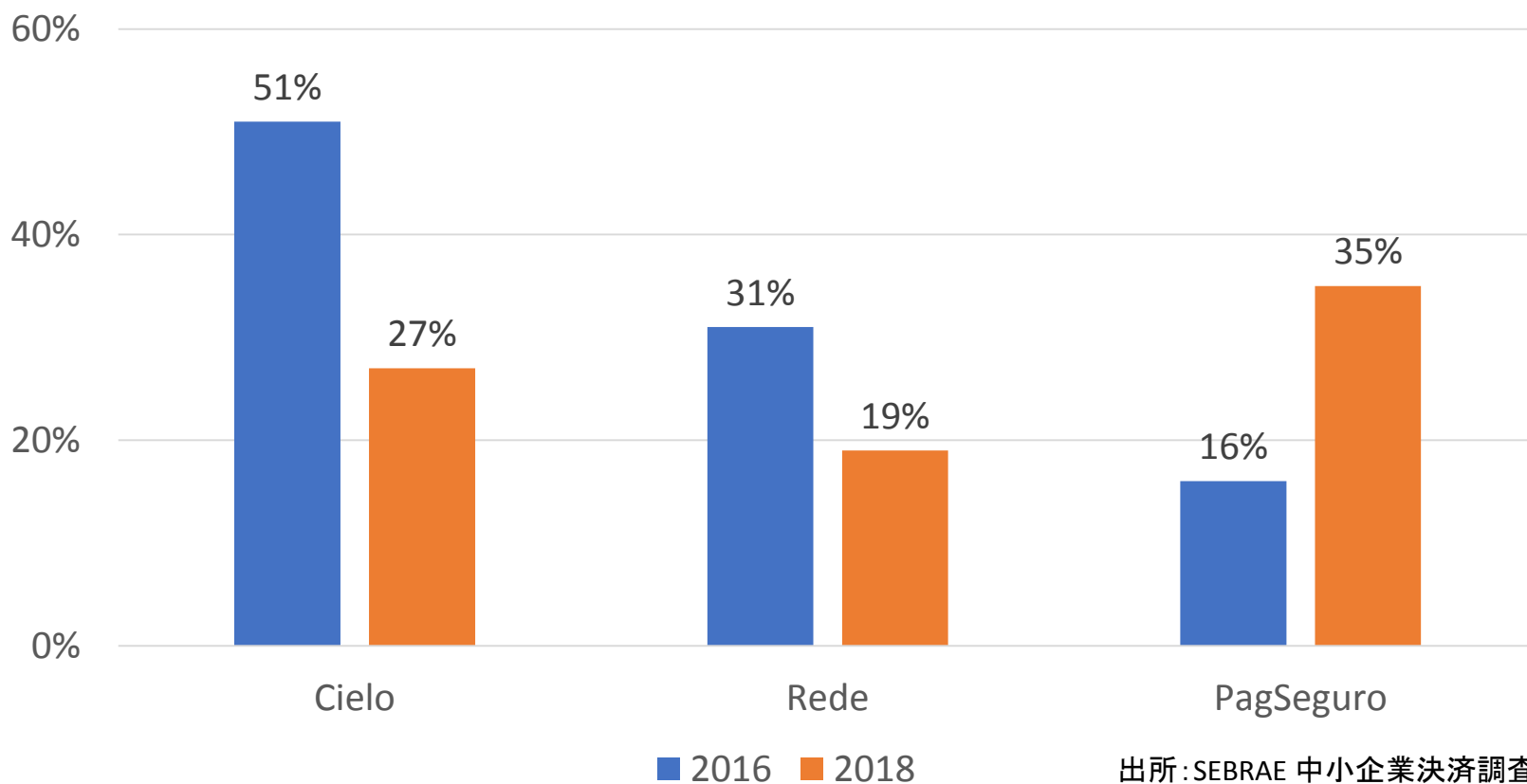
POS機器業界におけるマーケットシェア



出所: 各社の報告書をもとに作成

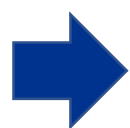
POS機器業界におけるマーケットシェア (零細企業)

POS機器を保有する零細企業のうち、どの会社の機器を保有しているか
(2社以上の機器を保有する場合もあるため合計では100%を超えている)



ブラジルにおけるFinTechマーケット

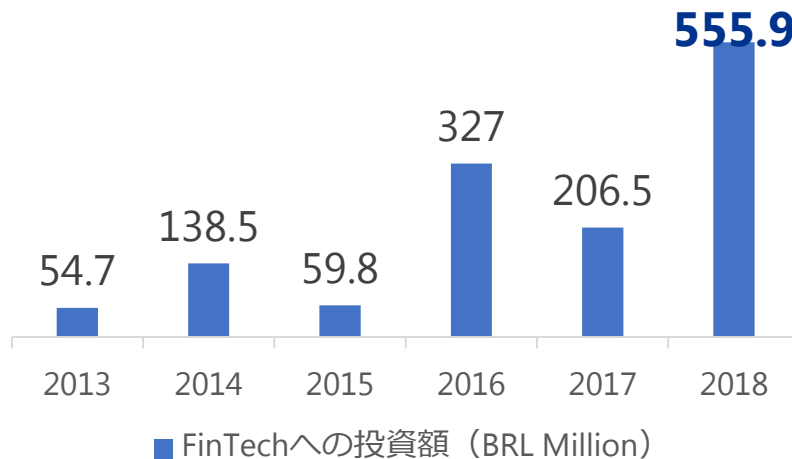
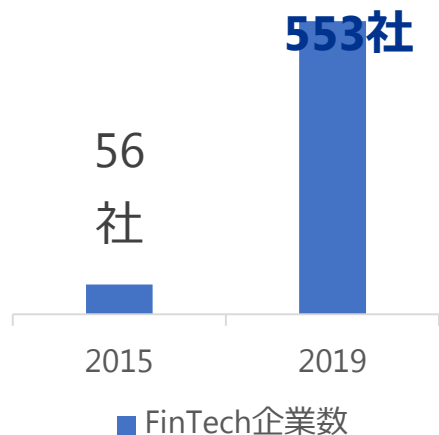
FinTechエコシステムは
急速に**拡大中**



FinTechへの投資額も**最
高額**を更新



世界有数のエコシ
ステムを形成
Unicorn企業も
誕生



nu bank

stone

PagSeguro

出所: Distrito FinTech Mining Report 2019

出所: KPMG Pulse of Fintech 2018

ブラジルにおけるFinTech企業数



▪ 決済.....	115社
▪ クレジット.....	87社
▪ バックオフィス.....	66社
▪ リスク・コンプライアンス.....	51社
▪ 暗号通貨.....	43社
▪ 投資.....	36社
▪ ロイヤリティ.....	27社
▪ 個人ファイナンス.....	26社
▪ クラウドファンディング.....	26社
▪ デジタルサービス.....	26社
▪ テクノロジー.....	15社
▪ 債務返済.....	14社
▪ カード.....	12社
▪ 為替.....	9社

合計
553社

豆知識

- 86%は2010年以降に創立
- 58%はSP州に所在
- 54%はB2B向け事業
- 創業者の38%は35歳以下

出所 : Distrito FinTech Mining Report 2019

FinTechー注目スタートアップ



決済企業

EBANXが生まれたのは、ブラジル人が慣れ親しんできた支払方法と、国際的なウェブサイトが求める支払方法との間にミスマッチがあることに創立者が気づいたときだった。

EBANXはラテンアメリカのユーザーが海外のサイトに対し、国内で発行されたカード、支払い伝票（Boleto）、現地通貨での支払いを可能にしている。

AliExpress、Spotify、Airbnbなどの顧客を持ち、ラテンアメリカ各国で展開している。500以上の海外サイトで4000万人以上の顧客にサービスを提供している。ラテンアメリカにおけるeコマースは著しい発展を見せており、同社の事業の追い風になっている。



まとめ

- 政府による各種改革の企業に与える影響の分析
- 規制緩和を取らまえた新たなビジネスチャンス
- Digital Transformationの加速（5G時代の到来）
- 気候変動リスクへの対応
- 次世代との付き合い方

ご清聴ありがとうございました。

コーヒーブレイク

COFFEE BREAK

後半司会

芦刈 宏司 企画戦略副委員長

APRESENTADOR

Vice-Presidente da
Comissão
de Planejamento -
Estrategia

Hiroshi Ashikari

化学品 部会

青木 宏文 部会長

Departamento de Produtos Químicos

Presidente: Hirofumi Aoki

「2019年の回顧と2020年の展望」

副題: ビジネス環境改善に期待、いま為すべきこと

2020年3月5日(木)

ブラジル日本商工会議所 化学品部会

Sumitomo Chemical do Brasil 青木 宏文

目次

1. ブラジル化学業界
2. 2019年の回顧と2020年の展望
 - a. 輸送（自動車、二輪車など）
 - b. ヘルスケア（食品、化粧品、医療関連製品など）
 - c. 農業（農薬、肥料など）
 - d. 印刷（インキ、製紙など）
 - e. コンシューマ（筆記具、接着剤など）
 - f. 総括
3. 副題： ビジネス環境改善に期待、いま為すべきこと



1. ブラジル化学業界

Abiquim(ブラジル化学工業会)

	2017年	2018年	前年比(%)
業界売上	3,846億リアル	4,623億リアル	20.2%増
	1,214億ドル	1,279億ドル	5.4%増
輸出	137億ドル	140億ドル	2.1%増
輸入	372億ドル	430億ドル	15.6%増
貿易収支	-235億ドル	-291億ドル	23.8%増

2. 2019年の回顧と2020年の展望

化学品部会所属企業・団体：72社

→ アンケート協力：22社（工場保有：8社）

＜アンケート方法＞

各市場における売上と利益の推移を聞き取り

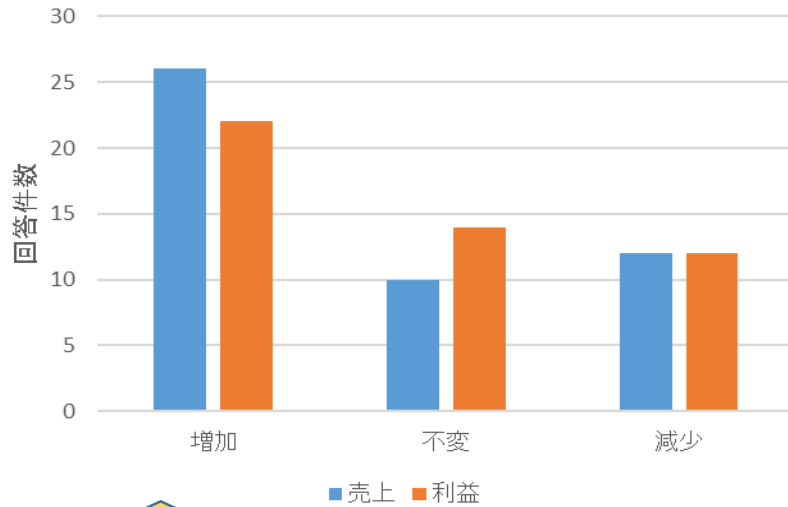
＜化学品部会が関わる市場＞

市場	アンケート数	割合
輸送（自動車・二輪車など）	18	35%
ヘルスケア（食品・化粧品・医薬品など）	10	19%
農業（農薬・飼料・酵素など）	7	13%
印刷（インキ・製紙など）	5	10%
コンシューマ（筆記具、接着剤など）	5	10%
機器（電気電子・工作機械など）	4	8%
建築	3	6%
合計	52	

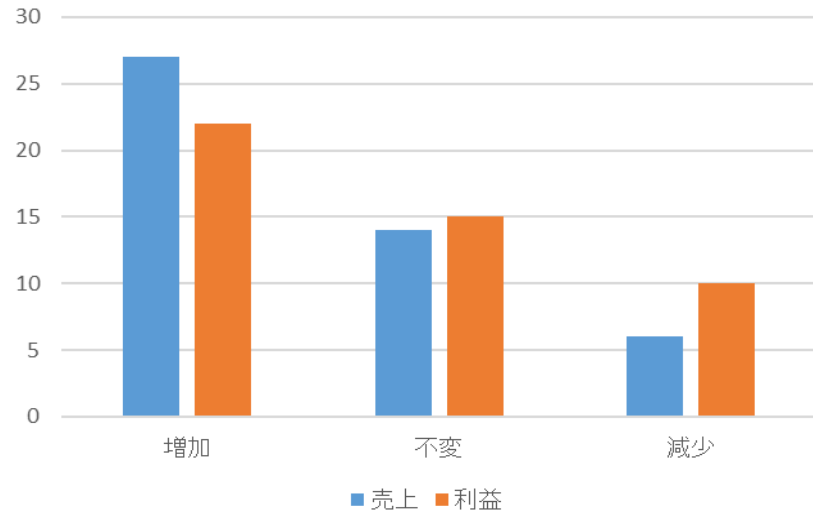
2. 2019年の回顧と2020年の展望

■ 化学品部会全体

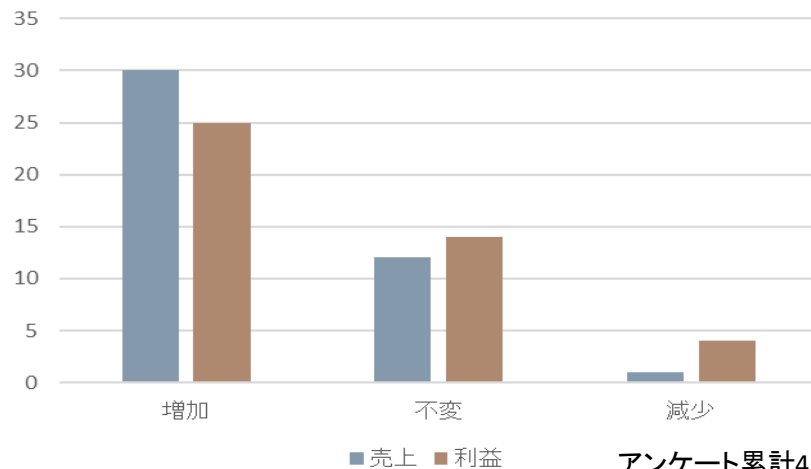
2019年回顧(全体)



2020年展望(全体)



2019年の展望



2. 2019年の回顧と2020年の展望

化学品部会所属企業・団体：72社

→ アンケート協力：22社（工場保有：8社）

＜アンケート方法＞

各市場における売上と利益の推移を聞き取り

＜化学品部会が関わる市場＞

市場	アンケート数	割合
輸送（自動車・二輪車など）	18	35%
ヘルスケア（食品・化粧品・医薬品など）	10	19%
農業（農薬・飼料・酵素など）	7	13%
印刷（インキ・製紙など）	5	10%
コンシューマ（筆記具、接着剤など）	5	10%
機器（電気電子・工作機械など）	4	8%
建築	3	6%
合計	52	

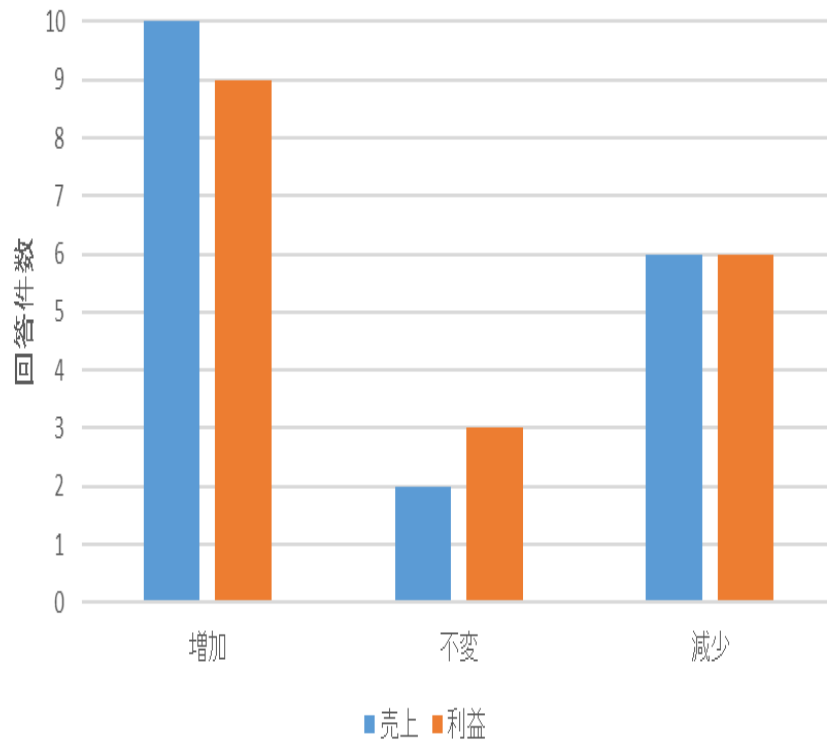
2-a. 2019年の回顧と2020年の展望

■ 輸送（自動車・二輪など）



用途：樹脂、樹脂添加物、燃料、エンジン用シール剤、タイヤ原料、車両用オイルなど

2019年回顧(輸送)



ポジティブ

ネガティブ

<市場>

自動車：■国内市場好調、■ARGへの輸出不調

二輪：■生産・販売台数増

<各企業の増減の要因>

自動車分野

■新規顧客開拓による拡販

■コスト削減による利益確保

■価格競争深刻化による利益減

■顧客の生産調整(ARG輸出減)による販売減

■顧客からのコストダウン要求による売上単価減

二輪分野

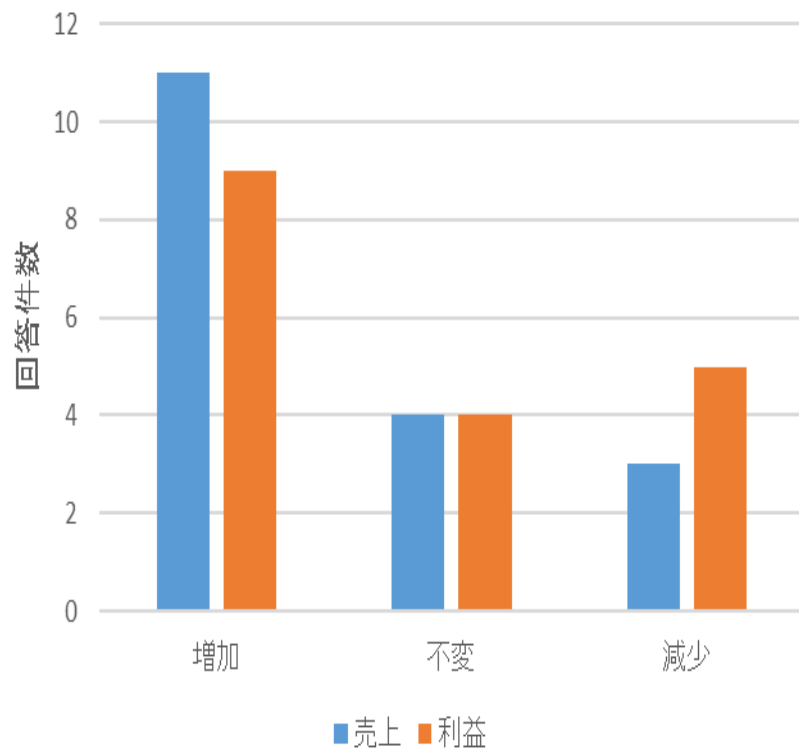
■顧客生産増にともなう販売増

2-a. 2019年の回顧と2020年の展望

■ 輸送（自動車・二輪など）

用途：樹脂、樹脂添加物、燃料、エンジン用シール剤、タイヤ原料、車両用オイルなど

2020年展望（輸送）



ポジティブ

ネガティブ

<市場>

自動車：

■ 景気回復の効果注視、生産台数の増加を期待

■ 現地化・コストダウン圧力の増加

■ ARG動向注視

二輪：

■ 生産台数の増加は限定的か

<2020年対策>

■ 顧客稼働への確実な対応

■ 新規開発アイテムの採用

■ ARG経済低迷による生産台数への影響

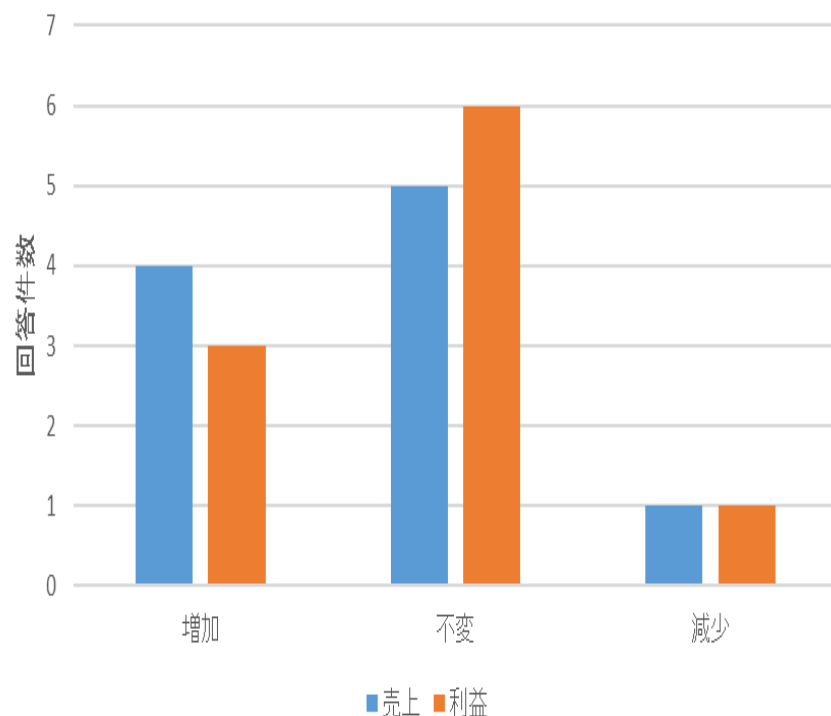
2-b. 2019年の回顧と2020年の展望

■ ヘルスケア（食品・化粧品・医薬品など）



用途：フィルム改質材、機能性フィルム部材、食品添加物、化粧品原料、一般医薬品など

2019年回顧（ヘルスケア）



ポジティブ

ネガティブ

<市場>

- 食品：健康志向
- 食品：競合との価格競争
- 化粧品：需要堅調
- 医薬品：大きな動きなし

<各企業の売上増減の要因>

- 国内市場堅調
- 新規顧客開拓
- 新商品の投入
- 価格競争深刻化によるシェア減
- ARG回収問題顕在化
- 原料高による利益減

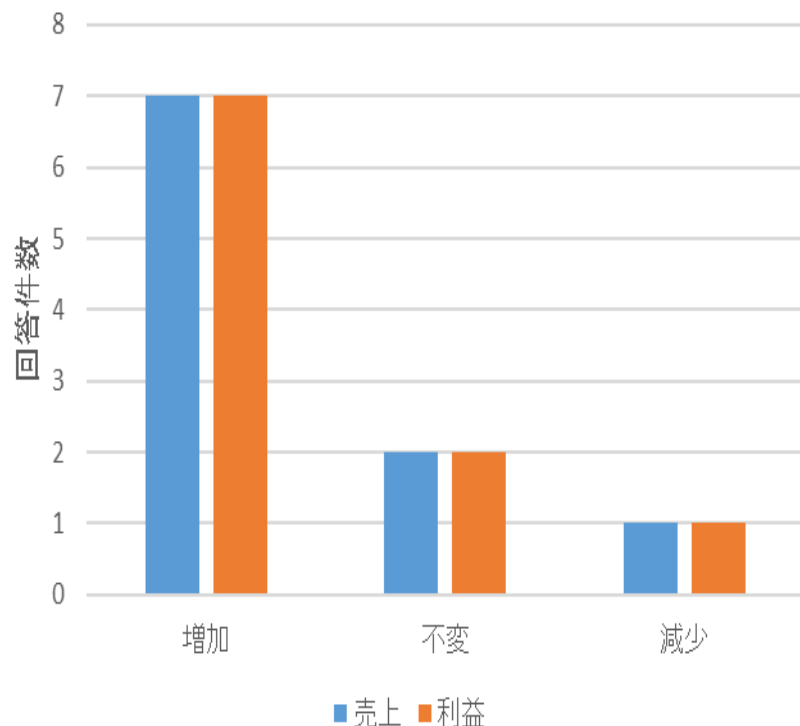
2-b. 2019年の回顧と2020年の展望

■ ヘルスケア（食品・化粧品・医薬品など）



用途：フィルム改質材、機能性フィルム部材、食品添加物、化粧品原料、一般医薬品など

2020年展望（ヘルスケア）



ポジティブ

ネガティブ

<市場>

食品：■市場堅調、■価格競争の継続

化粧品：■市場伸長、■低価格品へのシフト

医薬品：■市場堅調

<2020年対策>

■新製品の投入

■他地域成功事例の横展開

■現地系顧客との共同開発

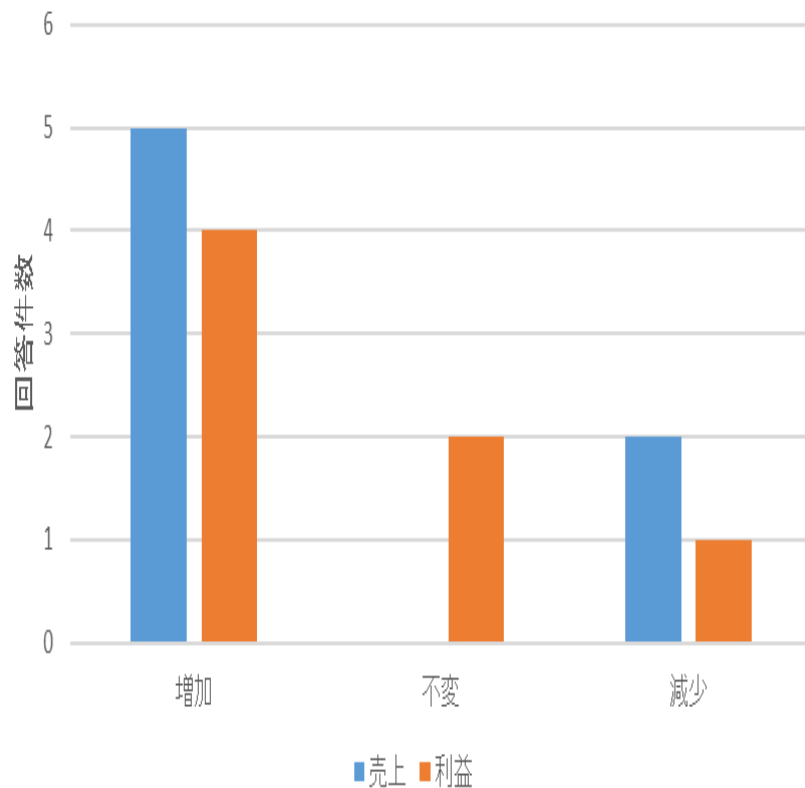
2-c. 2019年の回顧と2020年の展望

■ 農業（農薬・肥料・飼料）

用途：殺虫・殺菌・除草剤、飼料添加物、肥料添加物など



2019年回顧（農業）



ポジティブ

ネガティブ

<市場>

■ ブラジル市場全体の拡大

■ ジェネリック品の流通による価格競争激化

<各企業の売上増減の要因>

■ 米中貿易摩擦の影響によるブラジル農産物の高まりを背景に農業資材販売増

■ 新製品の上市

■ ジェネリック品価格攻勢

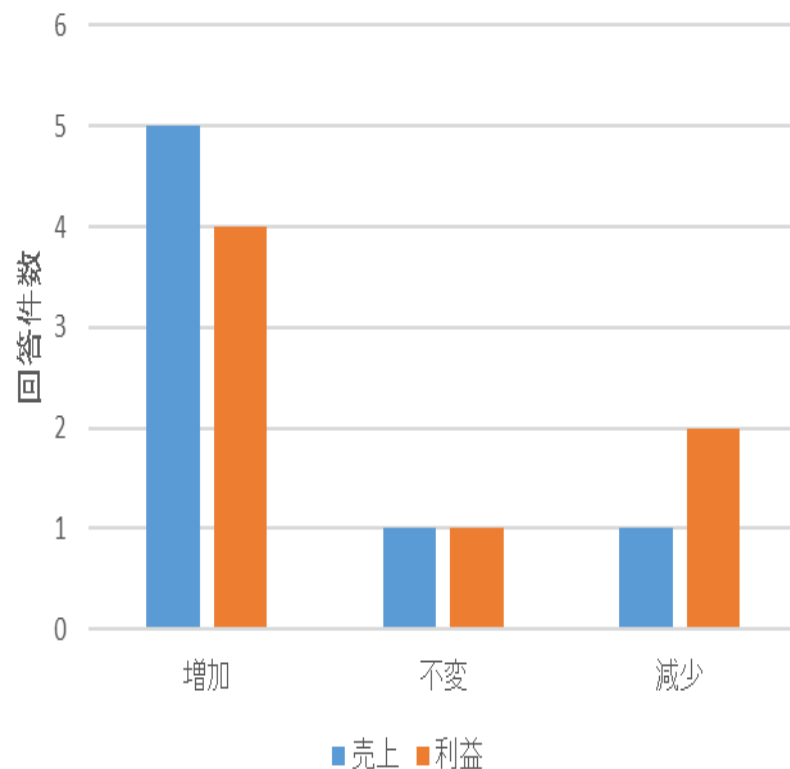
2-c. 2019年の回顧と2020年の展望

■ 農業（農薬・肥料・飼料）

用途：殺虫・殺菌・除草剤、飼料添加物、肥料添加物など



2020年展望（農業）



ポジティブ

ネガティブ

<市場>

- 市場拡大は堅調
- 流通在庫注視
- ジェネリック攻勢

<2020年対策>

- 着実な売上げ確保
- 研究機関との連携
- 周辺国強化
- ジェネリック攻勢
- 中国原料高騰の影響最小化

2-d. 2019年の回顧と2020年の展望

■ 印刷（インキ・製紙など）

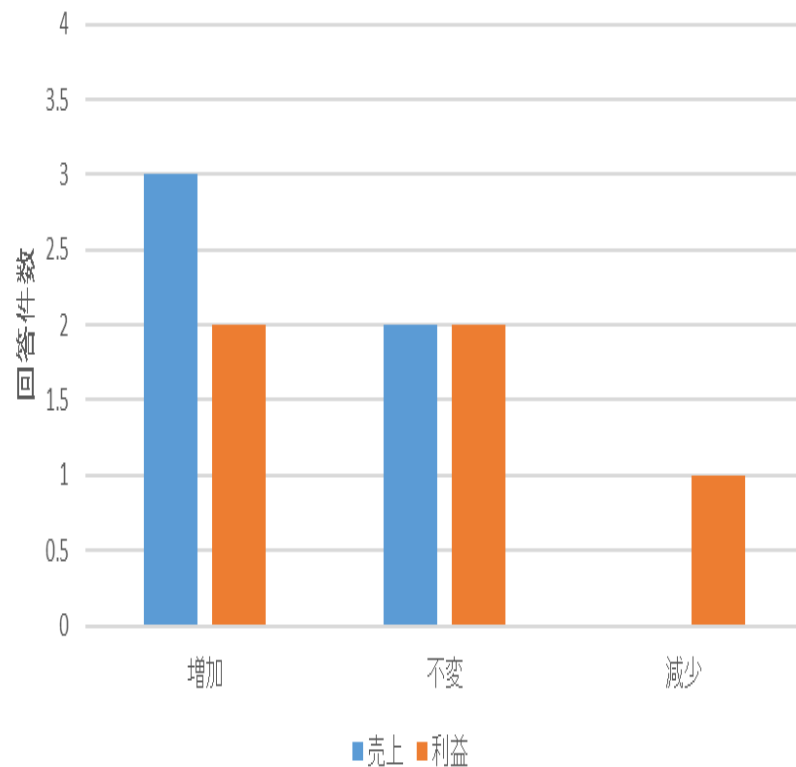
用途：出版・パッケージ用インキ、感熱紙原料、印画紙など



ポジティブ

ネガティブ

2019年回顧(印刷)



<市場>

- パッケージ市場の高機能化
- 価格競争激化

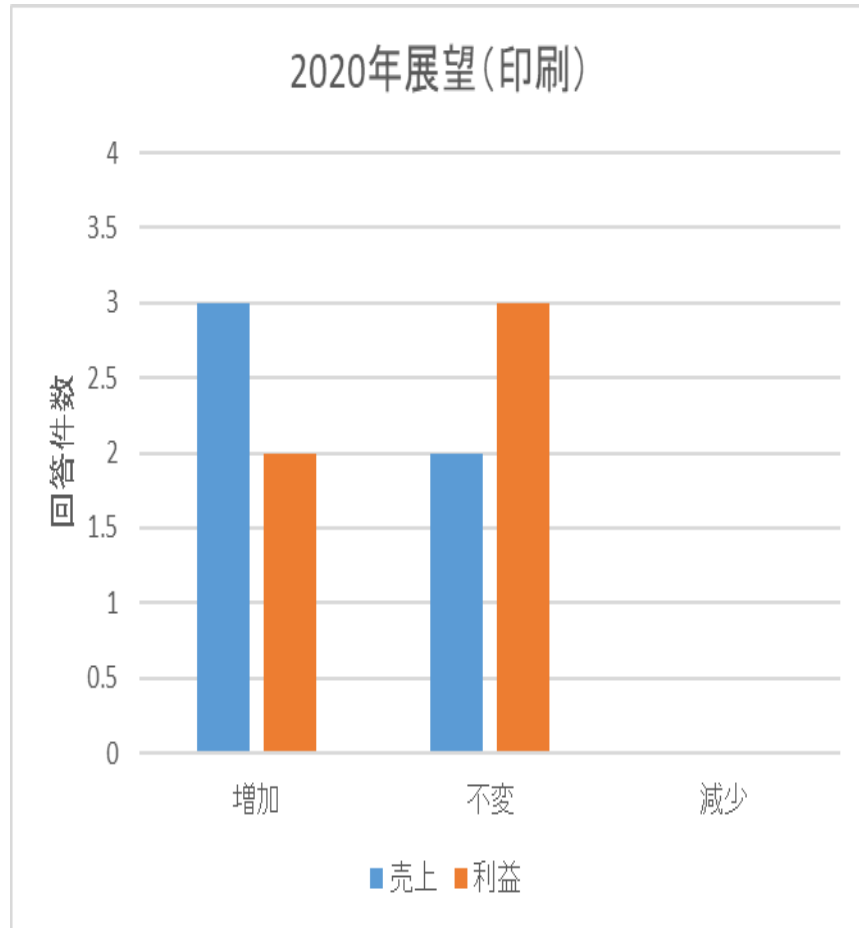
<各企業の売上増減の要因>

- 新規顧客の獲得
- 値上げの実行
- リストラなども含めたコストダウンによる利益増
- 価格下落により利益減

2-d. 2019年の回顧と2020年の展望

■印刷（インキ・製紙など）

用途：出版・パッケージ用インキ、感熱紙原料、印画紙など



ポジティブ

ネガティブ

<市場>

- 引続き一部分野での高機能化
- 感熱紙原料：需要安定
- 価格競争の継続

<2020年対策>

- ■ 新規顧客獲得等による販売増はあるものの、価格競争による単価下落で利益は増えず
- 原料価格の売価へのタイムリーな転嫁
- 継続的なコストダウン

2-d. 2019年の回顧と2020年の展望

■ コンシューマ（筆記具、接着剤など）

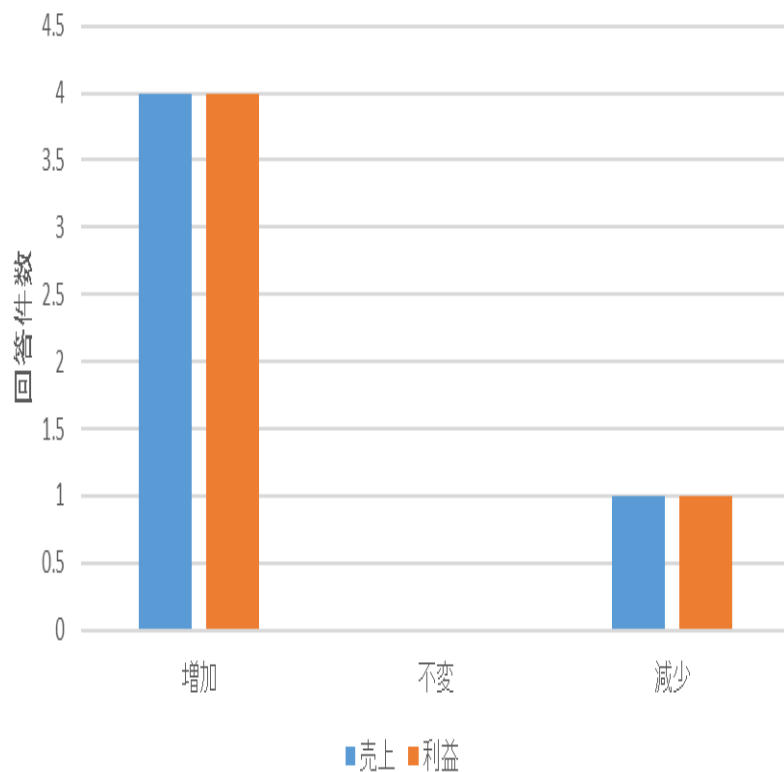
用途：筆記具、塗料、接着材、家庭用ボンドなど



ポジティブ

ネガティブ

2019年回顧（コンシューマ）



<市場>

- 前年からの景気ポジティブ基調
- 安価品の攻勢

<各企業の売上増減の要因>

- 高機能品の値上げ
- 新製品の投入
- 競争激化により新規採用も相殺されてしまい
販売減、利益減

2-d. 2019年の回顧と2020年の展望

■ コンシューマ（筆記具、接着剤など）

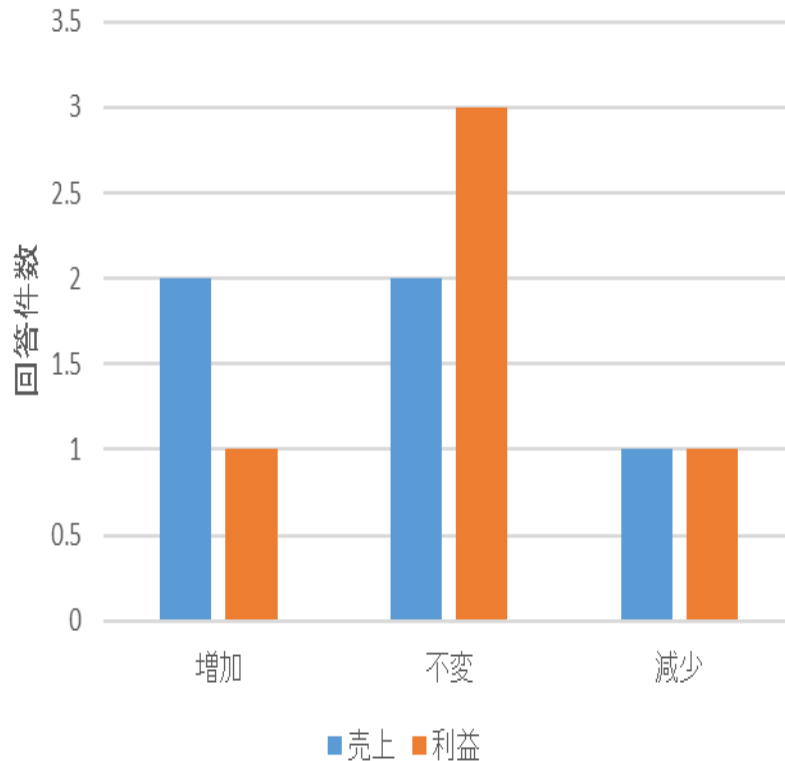
用途：筆記具、塗料、接着材、家庭用ボンドなど



ポジティブ

ネガティブ

2020年展望(コンシューマ)



<市場>

- 引続き、安価品の攻勢が続く
- 個人嗜好の変化
- 販売促進方法の多様化

<2020年対策>

- 販売促進の強化
- マーケティング強化（個人嗜好への対応など）
- 価格競争激化により減益への対応

2019年回顧

売上増加 25/52件 (48%)

- 国内景気はポジティブな印象
- 新製品の上市、新規顧客の開拓などの進展もあった
- 一方で、価格を含めた競争は厳しい状況が続いている
- 一部分野では、アルゼンチン経済の影響が見られる

2020年展望

売上増加 27/52件 (77%)

- 全体としては、売上増加あるいは不変へのシフトが見られる
- 高機能品へのシフト、新規顧客の開拓、新製品の上市などを積極的に進める
- 価格競争への対応が課題
- 新型肺炎の影響に注視(顧客の輸出先として、あるいは原料購入・コストへの影響など)

3. 副題： ビジネス環境改善に期待、いま為すべきこと

- 税制改革(簡素化、明瞭化等)に期待
- ANVISA等許認可プロセスの明確化・迅速化
- 移転価格税制の改善(OECDへの加盟など)
- 政治経済・治安の安定化(特に2019年の南米諸国での不安定化を念頭に)

2020年上期 業種別部会長シンポジウム

ご清聴ありがとうございました。

電機・情報通信部会

小渕 洋 部会長代理

**Departamento Equipamentos Elétricos
/ Informação e Comunicação**

Sub Presidente: Hiroshi Obuchi

電機・情報通信部会 2019年の回顧と2020年の展望

「ビジネス環境改善に期待、
いま為すべきこと」

2020年3月5日
電機・情報通信部会

目次

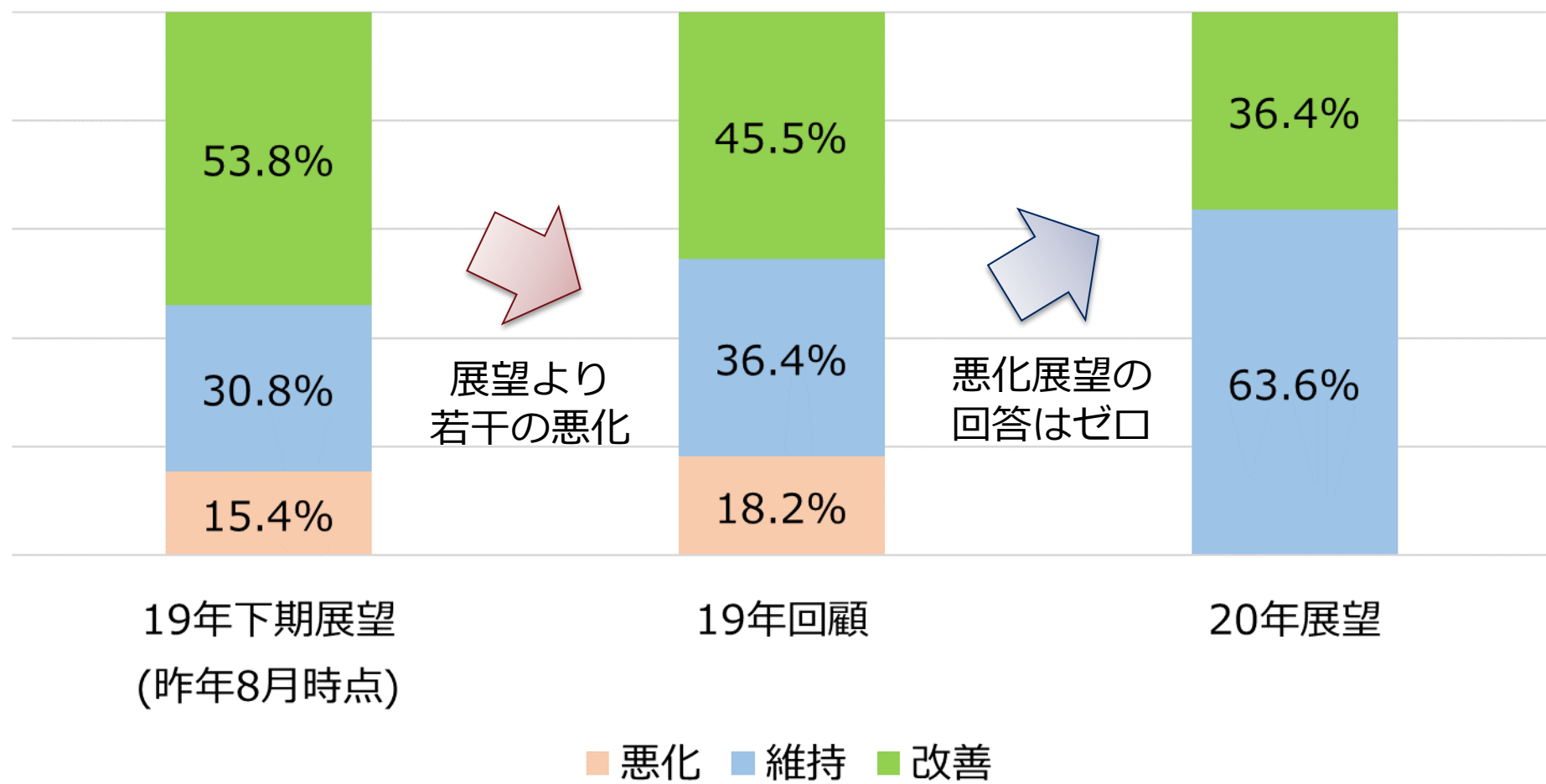
- ❖ アンケート結果
- ❖ 市場概況
- ❖ ビジネス環境の変化
- ❖ 最後に

アンケート結果

2019年の回顧と2020年の展望 会員アンケート結果

電機・情報通信部会各社の販売動向(対前年)

「維持」を対前年比100～109%として分類



2019年の回顧と2020年の展望 会員アンケート結果

2019年回顧

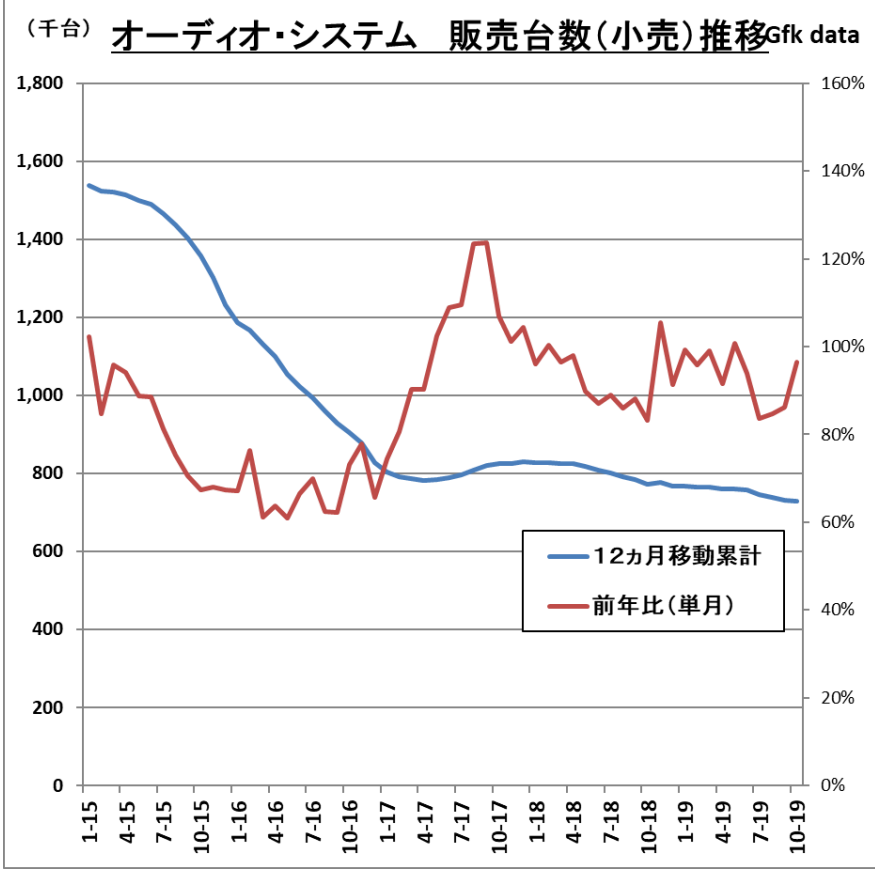
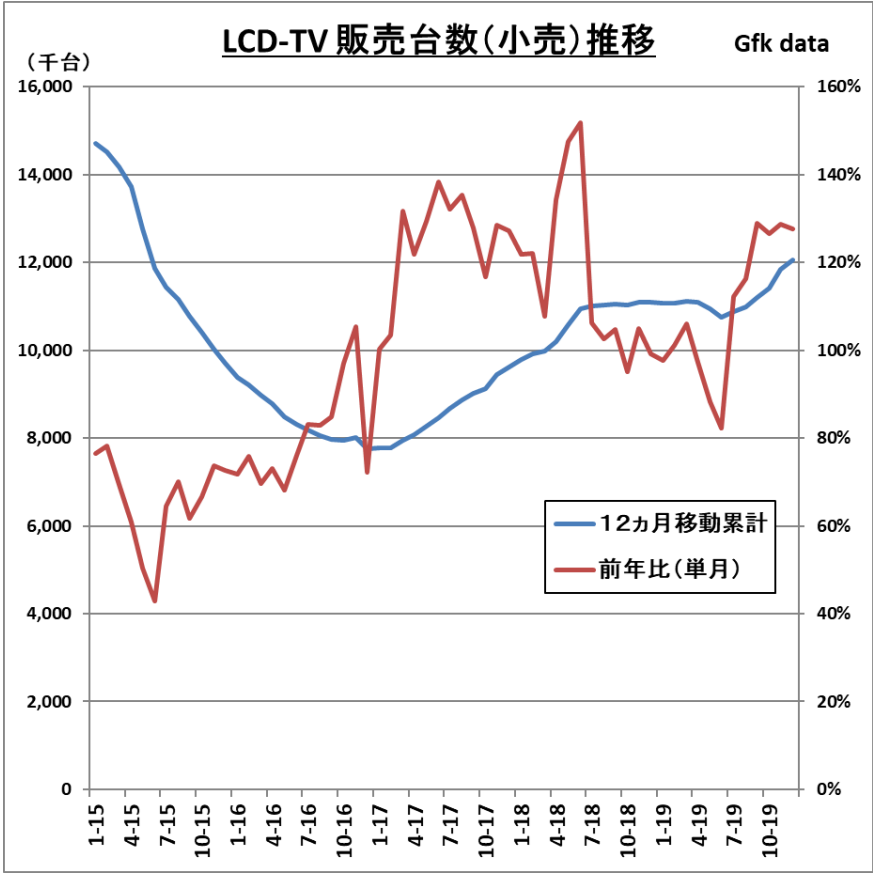
- ✓ 年間続いたレアル安傾向がビジネスに影響
- ✓ 隣国アルゼンチンの政治・経済状況が顧客ビジネスに影響
- ✓ ボルソナーロ政権の改革の未達・遅れがビジネスに影響
- ✓ 不景気を脱出できた感はある

2020年展望

- ✓ 既存顧客とのビジネスの維持・拡大、および新規顧客・商材の開拓を進める
- ✓ 公務員・税制改革の遂行、公共投資・案件の活性化に期待
- ✓ アルゼンチンの新政権の動向に注目
- ✓ 米中関係をはじめ、ブラジル国内外の政治・経済情勢が不透明

市場概況

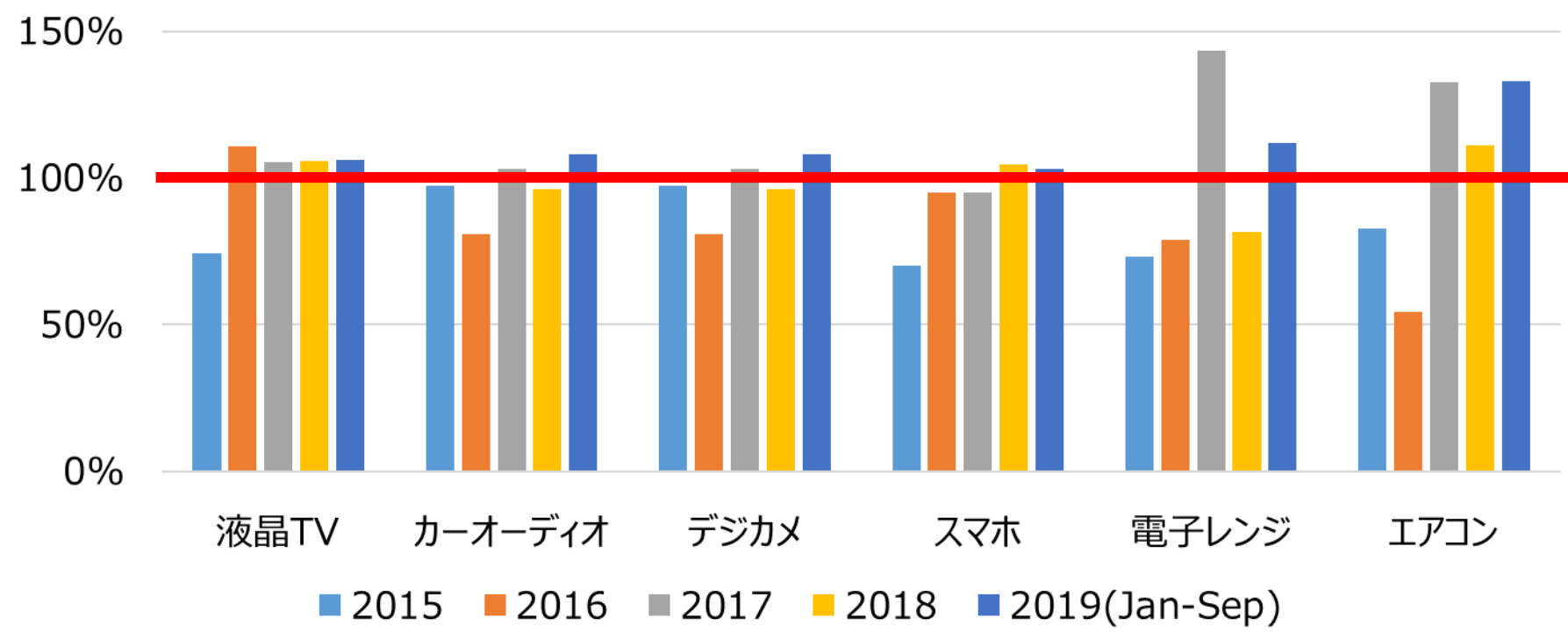
ブラジルの液晶TV、オーディオシステム販売台数(小売)の推移



- ✓ テレビは2018年のワールドカップ特需以降好調。対前年比もワールドカップ前のピーク時を除き、昨年以上の販売数を維持し好調をキープ。
- ✓ オーディオは2018年のワールドカップ後に市場が回復、中国勢などの参入も加速しつつも、その後減少傾向に転じる。

主要家電製品 マナウス生産数量推移

マナウス地域における生産数量の推移(対前年比)



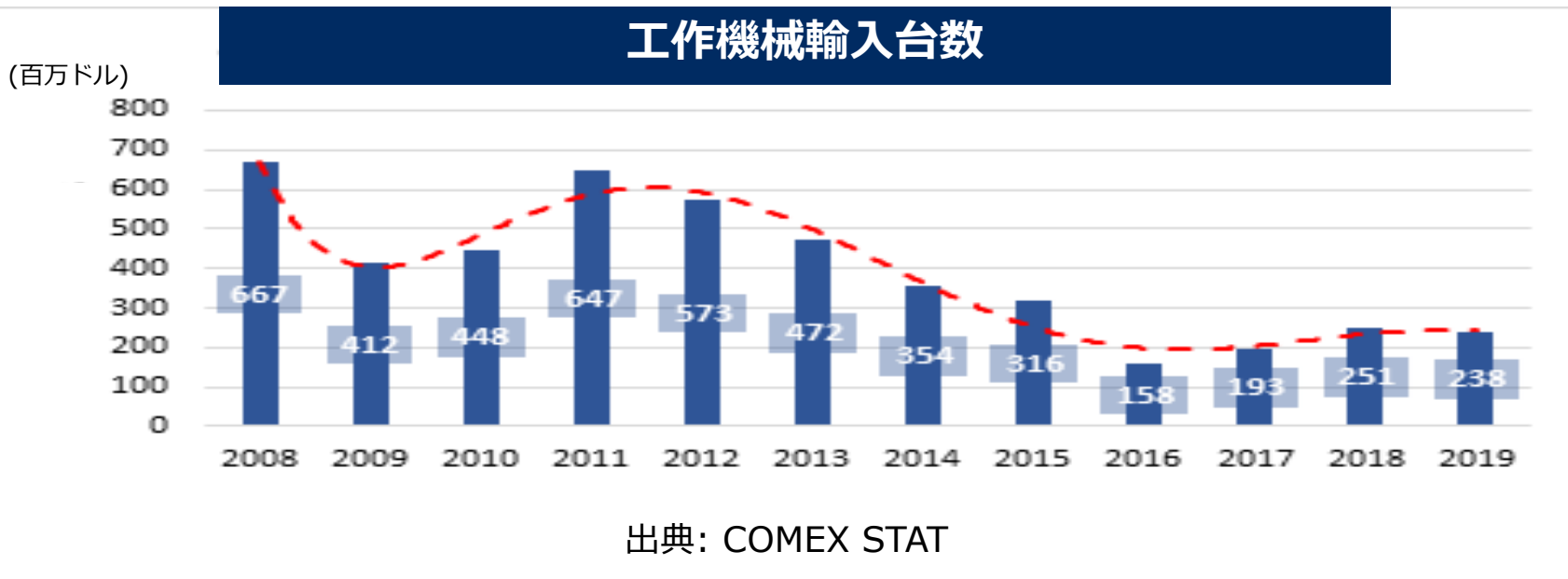
- ✓ ブラジル経済が回復基調にあることを背景に、マナウス工業団地全体の売上高も2016年を底に順調に回復・伸長。ただし世界経済が不透明な状況から先行き不安な状況も。
- ✓ マナウス工業団地における電気電子機器の売上高の占有率は約27%であるが、情報機器(同22%)の伸長、2輪(同15%)の回復などにより、年々僅かながら減少傾向にある。

ブラジルのインダストリアル部門及び工作機械輸入台数傾向

	2015	2016	2017	2018	2019	2020
GDP	-3.5%	-3.3%	1.3%	1.3%	1.1%	2.3%
インダストリアル部門	-5.8%	-4.6%	-0.5%	0.5%	0.7%	2.2%
自動車生産台数(千台)	2,429	2,157	2,699	2,880	2,945	3,160

出典: Associação Brasileira Indústria Eléctrica e Electrónica/MARKLINES

- ✓インダストリアル部門はようやく2018年からプラス成長に入り、ゆるやかに回復
- ✓自動車生産台数も2019年によりやく約300万台まで回復(2013年は370万台)



- ✓16年を底に17年、18年は緩やかに回復。
- ✓19年は横ばいなるも、20年からは更なる成長が見込まれる。

IT・クラウド市場

2019年



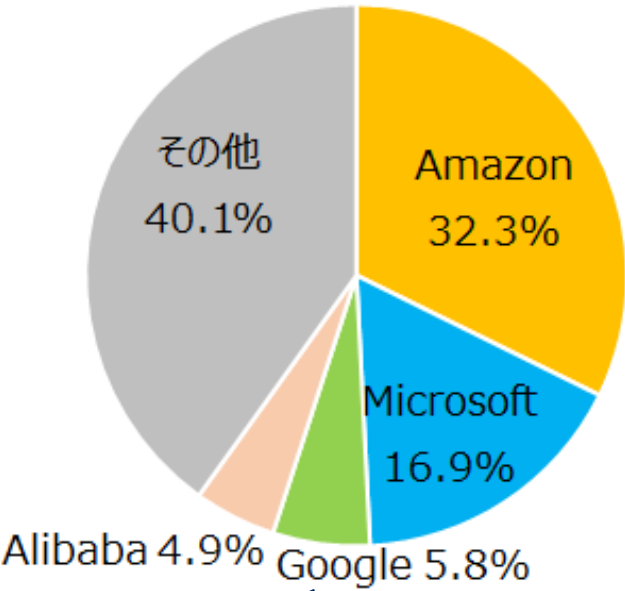
- ✓ Microsoft の Office365(クラウド)や、Web会議システム等の業務アプリなど、大容量コンテンツの利用増加に伴い広帯域・低遅延需要増。
- ✓ 企業の事業拡大やセキュリティ対策に伴うIT投資の増加など、景気回復の兆し。

2020年



- ✓ 引き続き業務アプリのクラウド化や大容量コンテンツの利用増加に伴い、高品質な通信回線の需要増。
- ✓ ITシステムの複雑化や高度化・巧妙化するサイバー攻撃対策として、セキュリティに特化したサービスの需要は継続して増加見込み。
- ✓ Amazonが約2億ドルをブラジルのクラウド事業に投資予定、引き続きクラウド市場は拡大見込み。

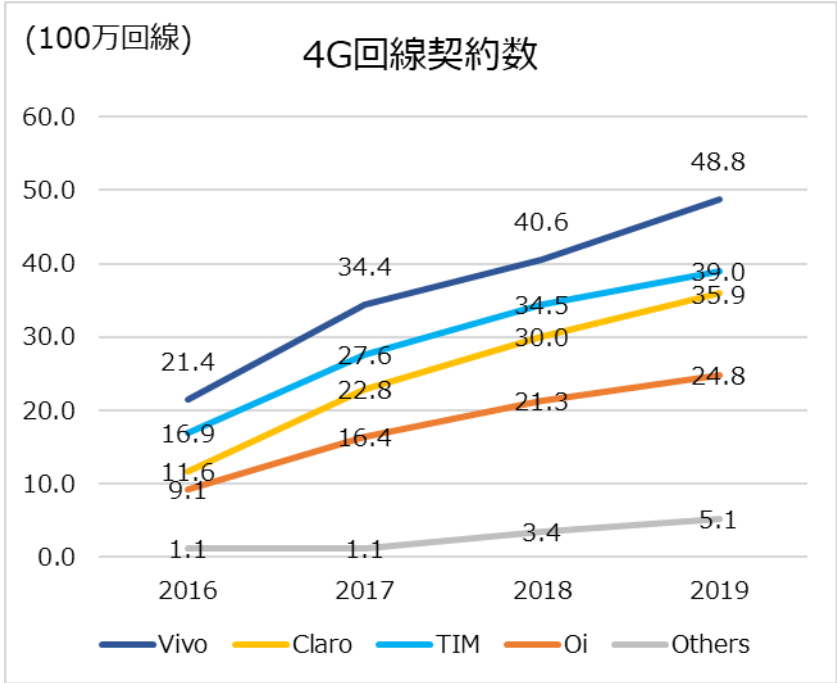
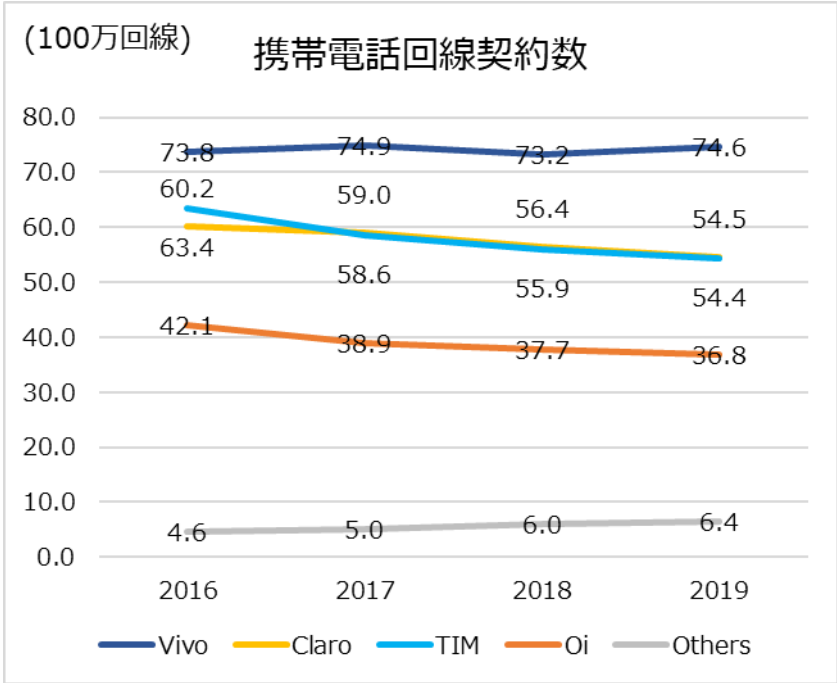
グローバルクラウド市場シェア(2019)



- ✓ 2019年の世界クラウド市場規模は11兆7600億円
- ✓ Amazonが圧倒的No.1も、Microsoftが企業から人気、首位を猛追
- ✓ Big2以外も大きく伸長、市場全体が拡大中

出典：<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2002/13/news117.html>

ブラジルの携帯電話回線契約数傾向

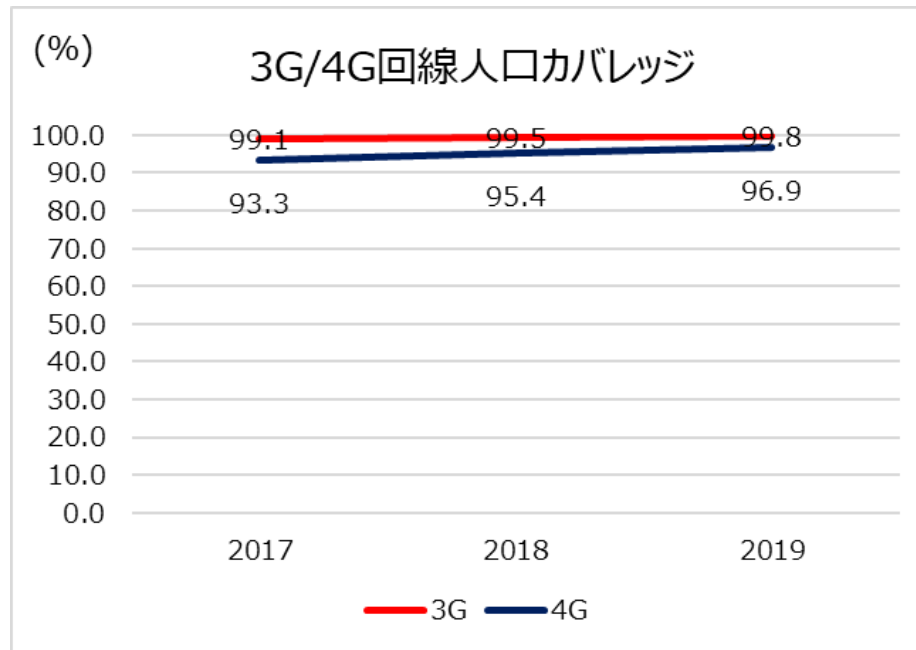


- ✓ 大手通信事業者の携帯回線契約数はVivoの一人勝ち傾向。
- ✓ 2G/3G契約のMigrationが進み各社の回線契約数の約2/3が4Gに移行済み。
- ✓ Vivoはブラジル初のPrivate LTE (4G) サービス契約をVale社と締結。鉱山での建設機械の自動運転用途で2020年上期にサービス開始予定。

項目	2019年12月 (100万回線)	前年末比
契約総数	226.7 (100%)	▲1%
4G(LTE)	153.7 (66%)	+18%
3G	34.0 (15%)	▲35%
2G	18.5 (8%)	▲26%
IoT	24.6 (11%)	+9%

出典：<https://www.teleco.com.br/>

ブラジルの携帯通信人口カバレッジ



No	国名	カバレッジエリア
1	韓国	97.5%
2	日本	96.3%
3	ノルウェー	95.5%
4	香港	94.1%
5	アメリカ	93.0%
6	オランダ	92.8%
7	台湾	92.8%
8	ハンガリー	91.4%
9	スウェーデン	91.1%
10	インド	90.9%
～		
69	ブラジル	72.0%







2019年のカバレッジエリア率ランキング
(OpenSignal社調べ)

- ✓ 3G人口カバレッジは99.8%、緩やかに拡大中。
- ✓ 4G人口カバレッジも堅実に拡大中、昨年96.9%到達。
- ✓ 4Gのエリアカバレッジは72%で世界第69位。国土の大きいブラジルでは、アマゾン地域を中心にまだ通信のないエリアが広大に残る。

出典：<https://www.teleco.com.br/>

主要国の5G(第5世代)開始状況

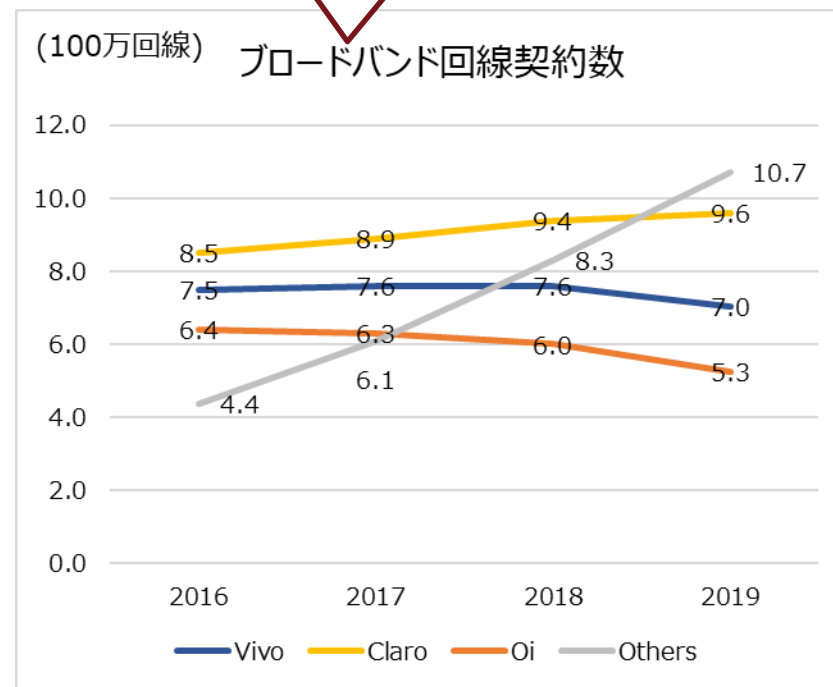
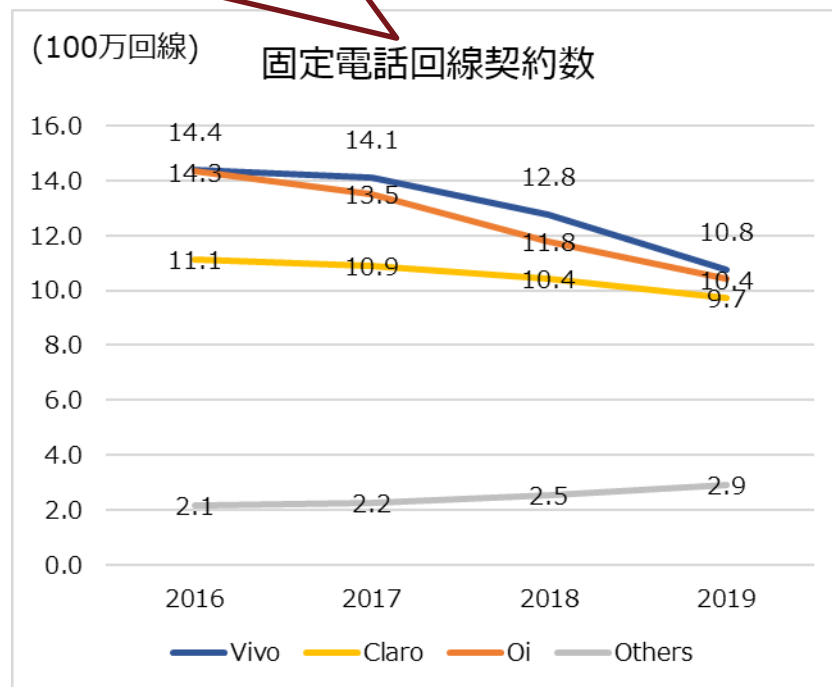
※いずれも段階的にサービススタート

国名	5Gサービス状況
 アメリカ	<ul style="list-style-type: none">✓ 2019年4月3日にVerizonが5Gサービスを開始、残る大手各社Sprint、AT&T、T-Mobileも2019年内に5Gサービス提供開始。
 韓国	<ul style="list-style-type: none">✓ 2019年4月3日にキャリア3社が5Gサービスを同時に開始。✓ 韓国は世界に先駆けて5Gサービスを開始。(上記アメリカVerizonより数時間早くサービス開始)
 欧州	<ul style="list-style-type: none">✓ スイス、英国など一部の国では2019年に5Gサービスを開始。✓ 多くの国では今年5Gサービスを開始する予定。
 中国	<ul style="list-style-type: none">✓ 既存キャリア3社+新規参入1社は2019年中に5Gサービスを提供開始。✓ 昨年8月より5G対応端末の発売も開始。
 日本	<ul style="list-style-type: none">✓ 今年7月に開幕する東京五輪までに大手キャリア4社が5Gサービスを開始予定。
 ブラジル	<ul style="list-style-type: none">✓ 今年2月に意見公募を開始、5G周波数割り当て入札は今年末か来年初頭に実施見込み。✓ ブラジルの巨大携帯市場には、米・中・欧が注目。(後述)

ブラジルの固定回線契約数傾向

ブラジルの固定電話回線契約数は、中国、米国、日本に次いで世界第4位。(2015年)

ブラジルの固定ブロードバンド回線契約数は世界第6位。(2018年。TOP3は中国、米国、日本。)



- ✓ 固定電話回線契約数は急速に減少傾向。
- ✓ 固定ブロードバンド回線契約数は増加傾向。家庭・中小企業向けに回線を提供している4000以上中小規模のプロバイダが牽引。

出典：<https://www.teleco.com.br/>

ビジネス環境の変化

マナウスフリーゾーン(ZFM)を取り巻く環境

他国・地域間FTA

- ✓ 韓国とメルコスール間のFTA交渉プロセスは今年半ばに完了予定。
- ✓ 昨年6月末にEUとメルコスールはFTAに合意したものの、EU側の一部の国が反対する動き、EU内の批准は難航する可能性あり。
- ✓ 他国・地域とのFTAを推進するブラジルに対し、アルゼンチンのフェルナンデス新大統領は反対する姿勢。

ZFM側の事情

- ✓ ZFMの発展・維持には税制恩典が不可欠。上記FTAによりZFMのメリットが無くなる上、高い国内ロジコストの分不利になる懸念あり。
- ✓ ボルソナーロ政権が推進する税制改革と、ZFMにおける税制恩典は共存できるか。

- 韓国勢に対抗するため、日本×メルコスール間EPAの迅速な締結に期待
- ブラジル政府もZFMとその税制恩典の重要性は認識、今後の政策に注目

中南米への米中関係の影響

中国企業への禁輸措置

- ✓ 昨年5月以降、米国政府はHuawei、ZTE等の中国のハイテク企業、およびそのグループ企業をエンティティリスト(禁輸措置対象)に追加、その後も対象中国企業は増加している。
- ✓ リスト入りした企業と取引のある機関・企業は対応策が必要になる可能性あり、関連市場に大きな影響を与えている。

ブラジル5Gへの影響

- ✓ 中国勢が有利と言われる現状が変わる時間稼ぎのため、5G携帯周波数割り当ての入札を遅らせるよう米国政府がブラジル政府に圧力。
- ✓ EU勢も情報漏洩の危険性のあるサプライヤーに制限をかけるようブラジル政府に勧告、対しブラジル政府も検討する姿勢。
- ✓ 中国勢はブラジル国内への5G機器製造工場設立を含む貢献にてブラジル政府にアプローチ中。
- ✓ 上記につきブラジル政府内でも意見が分かれている模様。

米中関係は変化・悪化しているが、多くの中南米諸国は両国と良好な関係にあり、各国の今後の対応に注目。

日本勢も今後の両国の関係・動きを見据えた活動が不可欠

コロナウィルスによるビジネスへの影響・懸念

ブラジル国内製造販売への影響

- ✓ 中国から輸入している部品に納期遅延が発生するリスクあり。

輸入への影響

- ✓ 中国以外の国から輸入している製品・部品でも、中国製のものが含まれている場合、納期遅延を起こすケースありモニタリング要。

国際展示会・イベントへの影響

- ✓ 国際展示会・イベントには世界各国から大勢の人が集まるため、イベント・企業によっては開催・参加を見送る事態に。

長期化するようだと在庫製品・部品が底をつき、ビジネスが停滞する等の問題が起きる可能性があり、影響を最小化ため状況把握・対策の実施が不可欠。

各国政府・機関で連携した対応策の検討・実行をお願いしたい

最後に

商工会議所、ブラジル政府、日本政府への要望

- ✓ 米中関係、アルゼンチンを始め、ブラジル国内外の政治・経済が不透明なため、世界情勢のモニタリング
- ✓ 日本×メルコスール間のEPA促進、 EU・韓国FTAに対する劣後の最小化
- ✓ ブラジル国内生産恩典の維持、 慎重な自由貿易促進対応
- ✓ 日本・ブラジル間で連携し、両国に資するインフラ・ビジネス環境整備の推進

ご清聴、ありがとうございました。

食品 部会

佐々木 達哉 部会長

Departamento de Gêneros Alimentícios

Presidente: Tatsuya Sasaki

2019年の回顧と2020年の展望

『ビジネス環境改善に期待、いま為すべきこと』

2020年3月5日(木)
食品部会

1. 食品部会会員企業

2. 市場及び会員企業状況

- (1) 食品業界全体動向
- (2) カテゴリー別動向及び会員企業状況
- (3) これからのキーワード

3. 副題『ビジネス環境改善に期待、いま為すべきこと』

- (1) 将来の環境変化への備え
- (2) 新たな市場トレンドや消費者インサイトを見据えた準備

1. 食品部会会員企業

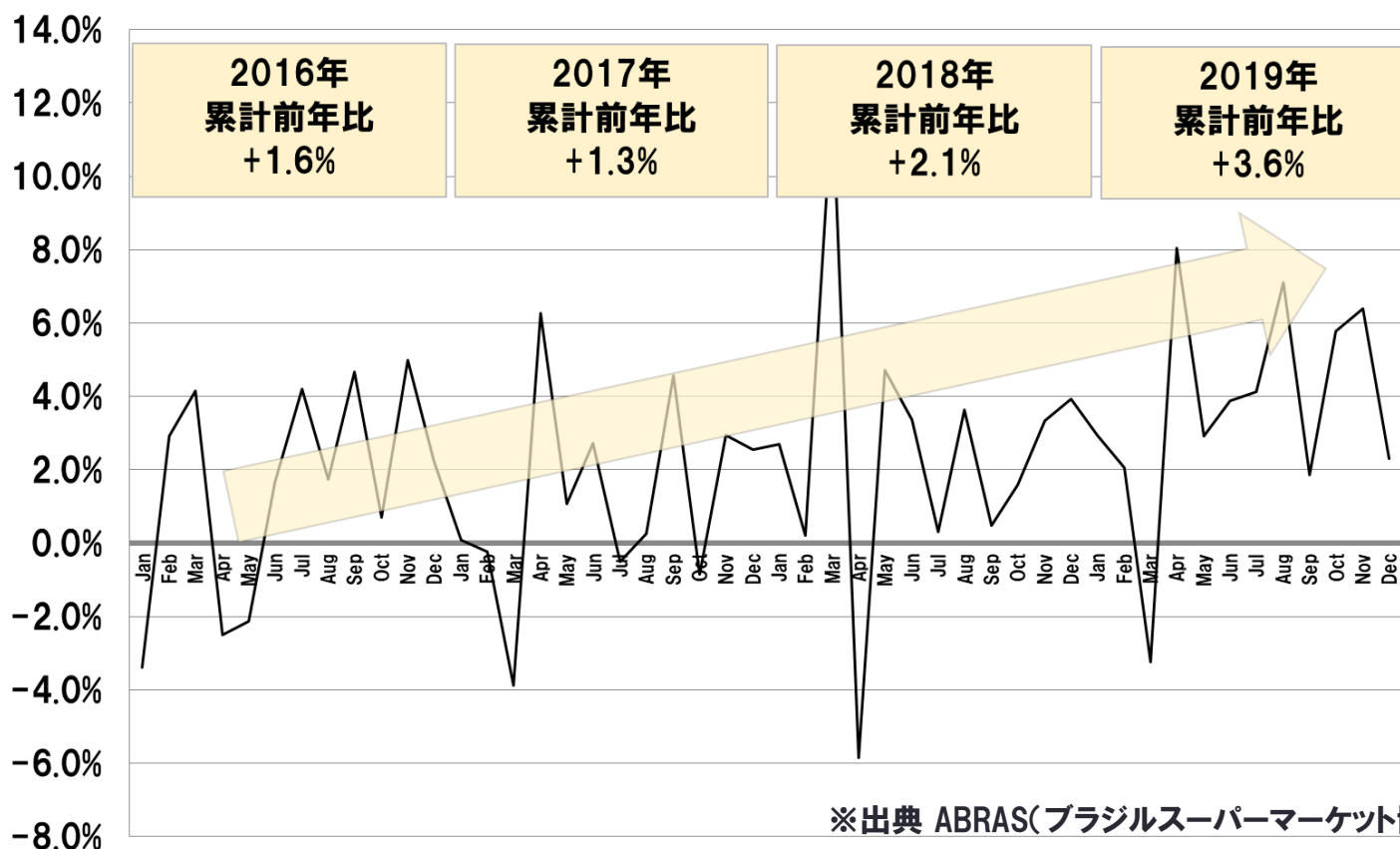
食品部会

会員企業（主登録 17社）	会員企業（サブ登録 44社）	
Ajinomoto do Brasil	Abe Giovanini Advogados	Macnica DHW
Azuma Kirin	A.C. Morad Sociedade de Advogados	Marcos Yassuishi Okada Auditoria e Consultoria
Companhia Iguaçu	Adeka Brasil	Marubeni Brasil
Harald Alimentos	Assessoria Técnica Atena (Newland Chase)	Matsuka Advogados
Tradbrás Importação e Exportação	Azbil do Brasil	Mitsubishi Corporation do Brasil
JTI Tabaco do Brasil	Banco Mizuho do Brasil	Mitsui Chemicals do Brasil
Kikkoman	Banco MUFG Brasil	Miura Boiler do Brasil
Maksoud Plaza (HM Hotéis)	Banco Sumitomo Mitsui Brasileiro	Nagase do Brasil
Mitsui Alimentos	BBBR Empresarial	Okaya do Brasil
MN Própolis	BDO RCS Auditores Independentes	PF - Akihiko Yahata
Niagro-Nichirei do Brasil	Comexport	P.Física - Wagner Shimabukuro
Nissin Foods do Brasil	Ebara Bombas América do Sul	Porto do Açú Operações
Supermercado Hirota	Fator Assessoria e Consultoria (Sato & Maia)	Roberto Walters Brasil
Takii do Brasil	Felsberg e Pedretti Advogados e Consultores	Saeki Advogados
Yakult	Gohara Negócios Imobiliários	Sandia do Brasil
Yamato Comercial	Honda Teixeira, Araújo, Rocha Advogados	Sato Auto-ID do Brasil
Zensho do Brasil	Itochu Brasil	Sociedade Coml. Toyota Tsusho
	Jetro, São Paulo	Souto Correa Advogados
	JICA (Escritório Anexo Consul.Japão)	Takasago Fragrâncias e Aromas
	Kanematsu América do Sul	Ueno Profit Assessoria
	Kisco do Brasil	United Airlines
	Lefosse Advogados	ZEN-NOH Grain Brasil Holdings

2. 市場及び会員企業状況（１）食品業界全体動向

- ＞ 小売市場全体では、2016年以降の回復基調が2019年も継続。
一般のスーパーは落ちているが、キャッシュ&キャリー(大型の業務用スーパー)が伸長(各社調査より)し、全体を押し上げている。
- ＞ 外食市場は安定して拡大傾向続く。*出典 ABIA; Associação Brasileira das Indústrias da Alimentação

スーパーマーケット売上高伸長率の推移:月次前年比・実質(除くインフレ率)



2. 市場及び会員企業状況（2）カテゴリー別動向及び会員企業状況

業種	2019年 市場動向	2019年 会員企業状況
調味料	家庭用全体微減の中、キャッシュ&キャリーは伸長、消費者の低価格志向継続。外食市場は伸長継続。	売上高前年比104%と伸長。
醤油	現地しょうゆメーカーの台頭もあり、輸入しょうゆは厳しい状況が継続。	輸入品販売に加え、現地加工の液体調味料の販売を強化、徐々に成果に繋がりつつある。
酒類	清酒市場は数%の成長と推測。特に第4Q頃から消費の回復基調が見られる。	ボリューム大きい低価格清酒市場に投入した改訂品の販売が好調。
コーヒー	原料生豆の豊作が続く、原料・製品共に相場は低推移。国内消費は伸長が鈍化し価格競争が激化。輸出品は国際競争力を維持。	高付加価値の製品ラインを強化し、商品ポートフォリオの進化を継続。
チョコレート	業務用市場は海外大手の参入もあり競争が激化。	為替、原料相場が変動も価格は据え置かれ、厳しい環境が継続。
即席麺	家庭用全体では横ばいも、キャッシュ&キャリーは伸長。Nestle社のMaggiブランド即席麺がブラジル市場から撤退。	数量、金額シェア共に過去最高値を更新。カップ麺の割合が伸びている。ラ米内他国への輸出も開始。

2. 市場及び会員企業状況（2）カテゴリー別動向及び会員企業状況

業種	2019年 市場動向	2019年 会員企業状況
乳酸菌飲料	消費者の低価格志向が継続。市場では安価な類似品や大容量品の販売が目立つ。	3本パックの投入による新規開拓は同品の販売増に貢献。ブラジル人への「プロバイオティクス」概念の普及活動も継続。
外食（ラーメン）	市場は全体として伸長。専門店も徐々にだが増えつつある。	ブラジル人に支持されるメニュー開発推進。製麺事業にも参入、更なる拡大を目指す。
農産加工（アセロラ）	欧米を中心に天然ビタミンC源としての需要が依然堅調。	これまでの作付面積増と天候にも恵まれ、十分な原料の調達を実現。
日本食材輸入	全体としてはほぼ前年並み。	現地酒類輸入卸会社との提携により、取扱品目が拡大、前年120%と伸長。
B to B 素材	健康志向やナチュラル志向に繋がる需要は堅調に推移。一方でコモデティーな素材は価格競争が激化。	新規代理店の起用、新規関係会社との提携によりサービス領域を拡大。ソリューション提案力の強化に繋げたい。
関連業種	産業機械)年の後半以降年末にかけて、需要が増加。 種子)ブラジル経済状況の緩やかな回復基調により、野菜および草花需要も徐々に回復。	産業機械)買収先の統合により製品ラインナップの補完を実現、サービスを強化。 種子)販売は前年比114%と伸長。管理費増や研究開発投資等で収益は減。

2. 市場及び会員企業状況（3）これからのキーワード

<市場の今後のポイント>

- 1) **新型コロナウイルス**発生以降、ドル高が急激に進んでおり、原料調達や輸出業及び国内の景況感に与える影響は**不透明**。
- 2) 加えて、**ボウソナロの政権運営**が国内市場に与える影響も**予測できず**、一時回復しつつあった景況感が継続するとは言い難い。

⇒ 企業として、これらの**変化への備え**は必須。

- 3) 一方で、ビジネス環境が改善される機に備え、**消費者ニーズ（インサイト）の変化**を見据えて準備しておくことが重要。

- ①新たな消費者ニーズ(インサイト)の探求
- ②健康志向(減塩・減糖・減脂)やナチュラル志向の強まり
- ③高付加価値志向と低価格志向の二極化

3. 副題『ビジネス環境改善に期待、いま為すべきこと』 食品部会

(1) 将来の環境変化への備え

<会員企業での事例>

1) 景況感の変化に対応できる基礎体力の強化

- ①現場の創意工夫による継続的な製造コストダウン
- ②資産の効率化と生産性の向上(アセットライト)
- ③企業提携・統合による組織力強化とサービス領域の拡大
(JFC⇔Tradbras、NAGASE⇔Prinova、EIMCO-THEBE)

2) 激しい為替変動への対応

- ⇒ 迅速に、正しい情報を収集し、対処
- ⇒ 為替感度を高め、状況を常に分析、臨機応変に対応
(適切な原材料買付や輸出事業のマネジメント等)

3. 副題 『ビジネス環境改善に期待、いま為すべきこと』 食品部会

(2) 新たな市場トレンドや消費者ニーズを見据えた準備

① 新たな消費者ニーズ(インサイト)の探求

**外食
(一幸舎)** 夏場対策のメニューを積極投入
日本の技術と現地化をブレンドさせながら、
夏場の新しいメニュー展開に意欲的に挑戦。
中でもつけ麺やカレー餃子等の販売が好調。



**醤油
(キッコーマン)** 「醤油ベース」だけにこだわらない
新しい液体調味料の発売(20年2月)
好評を得ている「ワサビマヨネーズソース」に加え、
「ハバネロマヨネーズソース」と「オレンジソース」を
新たに発売し、ラインナップを拡充する。
ブラジル人の新たな需要を開拓。



3. 副題 『ビジネス環境改善に期待、いま為すべきこと』

食品部会

①新たな消費者ニーズ(インサイト)の探求

即席麺
(日清食品)

カップヌードルの売上が好調
即席めん領域ではまだ袋麺が中心だが、
カップ麺の割合が伸長している。
昨年はカップヌードルカレーを発売。
ブラジル人のトライアルも獲得することで
定番化を目指す。



調味料
(味の素)

シュハスコ用「AJI-SAL」が好調
品質自体が高く評価されていることに加え、ブラジル消費者の
食習慣(マインド)を意識したコミュニケーションも奏功し、売上伸
長。



3. 副題『ビジネス環境改善に期待、いま為すべきこと』

食品部会

①新たな消費者ニーズ(インサイト)の探求

コーヒー
(イグアス) フリーズドライ商品の増産開始(20年8月)
より付加価値の高いフリーズドライ製品の
増産により、商品ポートフォリオの見直しを図る。
既存乾燥設備の入れ替えを実施中。

※右写真パッケージは顧客別に開発



3. 副題『ビジネス環境改善に期待、いま為すべきこと』 食品部会

②健康志向(減塩・減糖・減脂)やナチュラル志向の強まり

機能性糖質・酵素剤
(ナガセ)

現地需要に対するソリューションの創出
市場トレンドや現地顧客ニーズをいち早く捉え、
減糖やクリーンラベル等、食品領域における様々な
ソリューションを提案。多くの顧客で評価が進捗している。

乳酸菌飲料
(ヤクルト)

YouTube等を通じた正しい
「プロバイオティクス」概念の普及
取引先や消費者に対し、YouTubeに
健康関連のビデオを公開したり、また、
健康教室を実施することで、製品の効果や
品質について正しい理解を広めていく。

ブラジルヤクルト公式YouTubeチャンネル
<https://www.youtube.com/yakultbrasil>



3. 副題 『ビジネス環境改善に期待、いま為すべきこと』

食品部会

③高付加価値志向と低価格志向の二極化

酒類

(アズマキリン)

低価格帯清酒の大幅リニューアル

競合と同価格帯を維持しながら、圧倒的な
中身の品質差異を実現し、販売は大きく増加。
これまでの高価格帯と両輪で市場を開拓中。
(若年層向けの清酒SPARKLING等)

伝統の
パイオニア。
先駆者であれ。



“Team Japan”として

- ✓ 企業の垣根を越えた、積極的な交流や連携
(食品部会会員企業の工場見学、共通問題に関する情報交換会等)
- ✓ 互いの強みを生かした協業の可能性模索



事業を通じたブラジル社会・消費者への貢献
「変化に対応しながら、成長の機会に備え、チャレンジ！！」



食品部会



ブラジル社会・
消費者への貢献



TOKYO2020

規制変更

為替変動

コロナウィルス

Team Japan!!

ありがとうございました。

運輸サービス 部会

今安 毅 副部長

Departamento de Transportes e Serviços

Vice-Presidente: Tsuyoshi Imayasu



海運

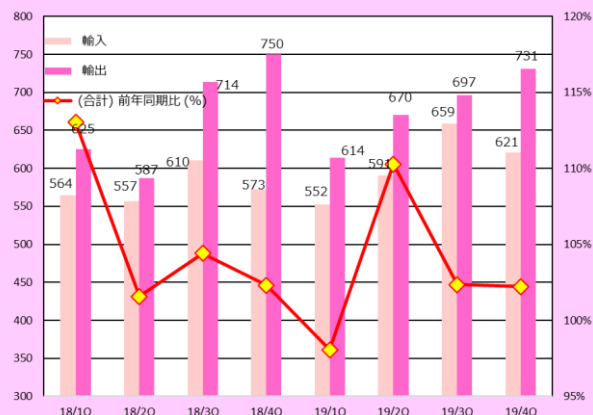
2019年回顧

- ◆ コンテナ輸送の市況は概ね安定的に推移。米中貿易戦争に伴うトレードパターンの変化、割安な為替、一次製品の生産量の増大を受けて、南米東岸からの輸出は旺盛であり、スペースには逼迫感が見られた。
- ◆ ブラジル国内の新車販売台数は279万台と前年を8.6%上回り、2014年に次ぐ高水準となったが、完成車輸出はアルゼンチン向け出荷が落ち込むなど、前年を32.1%下回った。
- ◆ ドライバルク(ばら積み)の輸出入は、特に1Qがヴァーレ社の鉱山ダム決壊によるブラジル鉄鉱石輸出の急減、中国に於ける豚コレラの大流行で飼料輸入が減少するなど、前年比▲6.5%の減少となった。

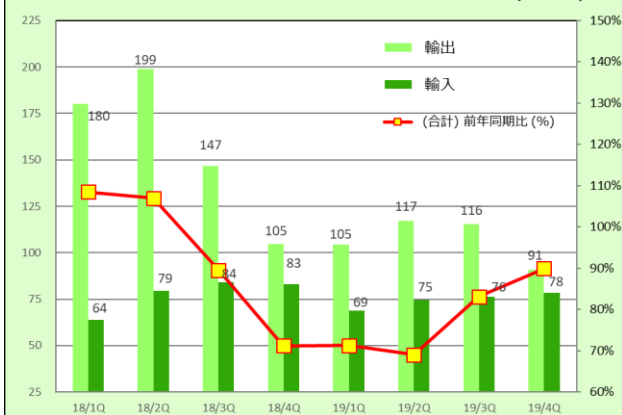
2020年展望

- ◆ コンテナ輸送の市況はブラジル経済は緩慢ながらも成長が続くことが予想され、貨物量も増大を見込む。
- ◆ 完成車輸送は、南米各国の経済成長に鑑み慎重ながら楽観的見方を示している。
- ◆ ドライバルク輸送は、ヴァーレ社の鉱山ダム決壊によって閉鎖していた鉱山の操業を順次再開しており、前年比での輸出量の増加が見込まれる。穀物に関しては前年並みに推移すると予測。砂糖は国際価格低迷などの影響を受けて、輸出量は横ばいで推移するものと見込まれる。
- ◆ 2020年1月より硫黄酸化物排出規制強化(世界規模)による低硫黄燃料への切り替えは、懸念された供給不足による大きな混乱も無く乗り越えることが出来た。割高な低硫黄燃料を使うことによるコストについても、概ね理解を得られている。
- ◆ 新型コロナウイルスの影響については現時点では限定的ながら、中国での工場の操業停止が長引けばブラジルでの生産業にも波及し、貨物輸送量に影響が出てくるものと思われる。

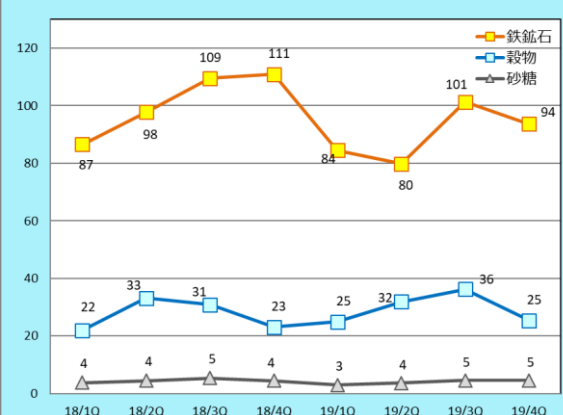
ブラジル外航コンテナ貨物輸送量推移 (単位: 千TEU)



ブラジル 完成車輸出入台数推移 (単位: 千台)



ブラジルばら積み主要貨物輸送量推移 (単位: 百万ト)

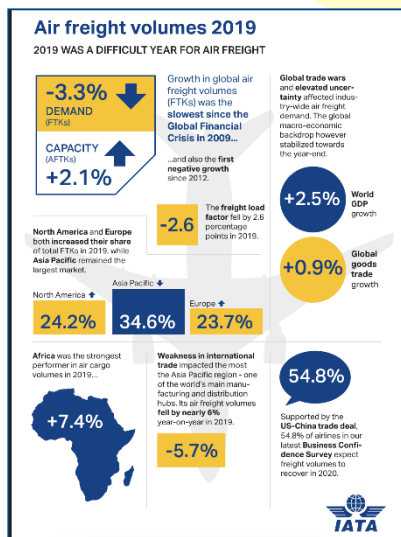




航空貨物

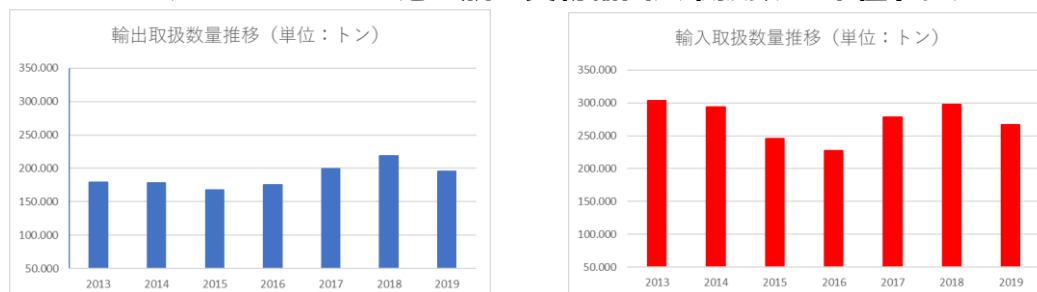
2019年回顧

- 世界の動向：業界全体のFTK（貨物トンキロ）は、3.3%減、2012年以来のマイナス成長（要因）米中貿易摩擦の影響
- 南米の動向：マイナス成長ではあるものの、貨物スペースが需要以上に減少、改善率はプラスに
- ブラジルの動向：
 - ブラジル主要空港（GRU、VCP）数量は、2017年、2018年何れも下回る結果
- 燃油費動向：石油とジェット燃料の価格は全体的に低調に推移



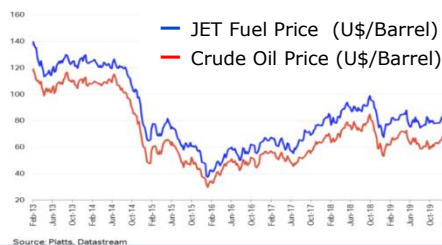
(数値出典元：IATA Statics)

<GRU & VCP空港 航空貨物輸出入取扱数量 単位トン>



(数値出典元：GRU AIRPORT CARGO, VCP AEROPORT, INFRAEAO CARGO)

<原油・ジェット燃料価格推移 2013-2020/2月>



2020年展望

- 航空貨物需要は低調に推移：プラス成長の見込み（全世界）
- 米中貿易摩擦の融和による貨物量復調の兆し
- 新型コロナウイルスによる影響
- 燃油費動向は安定
- デジタルトランスフォーメーションの波：デジタルフォワードの台頭



その他 物流関係

2019年回顧

- 新政権のもと、インフラ関係は大きな飛躍が見られた =>右表
- 燃油費の動向：中東情勢による原油価格の高騰が懸念されたものの原油価格は安定
- トラック運転手待遇改善は進まないものの、懸念された目立ったストライキなし
- 陸上輸送（トラック）業界は堅調。（トラック販売は2021年まで予約が埋まる）
- 税関システム（DU-IMP）の導入は2020年に延期
- 通関トラブル事例：パラグアイ発ブラジル向けメルコスル免税スキーム

2020年展望

- 新型コロナウイルスによる世界経済への影響に注視が必要
- 連邦政府は、新たに44のインフラ関連プロジェクトを予定 =>右表
- トラック運転手待遇改善実行を求めたストライキの懸念
- 待遇完全を求めるストライキ（税関、厚生省、農務省、港湾労働者等）懸念
- 税関システム（DU-IMP）の早期導入とその効果と影響
- 通販、e-Commerceは拡大基調で、倉庫需要増、小口配送網のインフラ整備が課題

“Avanço do comércio online faz de Cajamar a ‘Faria Lima dos galpões’”



2019年回顧



● 2019年1月～12月 航空旅客需要 *データソース:IATA 世界加盟航空会社集計

方面	RPK*	ASK*	L/F*	L/F前年比
アフリカ	+5.0%	+4.5%	71.3%	+0.3pt
アジア大洋州	+4.5%	+4.5%	71.3%	+0.3pt
欧州	+4.4%	+3.7%	85.6%	+0.3pt
北米	+3.9%	+2.2%	84.0%	+1.3pt
ラテンアメリカ	+3.0%	+1.6%	82.9%	+1.1pt
中東	+2.6%	+0.1%	76.3%	+1.8pt

国内RPK : ブラジル+1.6%、日本+1.8%、中国+3.7%、ロシア+3.0%、米+10.5%

* RPK : 有償旅客扣 = 有償旅客数×飛行距離 * ASK : 有効座席扣 = 座席数×飛行距離

* L/F(ロードファクター:マイル特典含まず) 有償座席利用率 = 利用座席数÷供給座席数×100

2020年期展望

新型コロナウイルス 発生

● 旅 客 航空業界影響予測 * IATA試算

- ・世界の航空会社全体の2020年損失額 : 293億米ドル／約3兆2807億円
- ・内アジア太平洋地域の " : 278億米ドル／約3兆1136億円
- ・中国国内のみの " : 128億米ドル／約1兆4336億円
- ・アジア太平洋の旅客需要 (RPK) : 元の予測値+4.8%、影響により▲13.0%、計▲8.2%
- ・IATA事務総長兼CEOは「2008年リーマン・ショック以来となるマイナス需要を引き起こす可能性がある」
- ・ANAは3月28日まで中国線165→81/週と半減、JALも3月28日まで中国+韓・台112→41便に減便

● 貨 物

- ・旅客便キャンセルは、その機体下部(ベリー)に積まれている貨物の物流(=経済)の停滞にも繋がる懸念
- ・JALでは日本→中国向けの貨物急増もスペースなく、他社貨物便での振替輸送、他社貨物便チャーター利用

- ブラジル市況(新規参入):3/29 VSのLHR、AZLのVCP=JFK、国内新航空会社等も、まだ影響小さい。

- 先行きは未だ不透明で見通しも立っていないが、各航空会社には厳しい年になることは間違いない。

旅行業界

2019年回顧

- 国内線発券枚数(*1) : +1.7% 売上額 : +14.0% *1データソース: ABRACORP
- 国際線発券枚数(*1) : -8.0% 売上額 : -0.9%*
- ホテルの使用率(*2) は+4.1% *2データソース: InFOHB
- 販売可能客室数あたりの客室売上 (RevPAR*2) は+10.9%
- インバウンド、アウトバウンド業務は相変わらず低迷

2020年展望

- ボウソナロ政権の経済政策の成果が表れ始め経済が上向くか？
- 新型コロナウイルスの影響は？
- 東京オリンピック・パラリンピックは予定通り開催できるのか？
- 100%外資の航空会社参入により国内線運賃が安くなる？

トピックス

- ブラジル政府の新型コロナウイルスへの対応
- LATAM航空がDELTA航空との提携を発表

**生活産業 部会
(建設不動産／繊維)**

今川尚彦 部会長

**Departamento de Bens Básicos
(Construção e Imobiliária/Têxtil)**

Presidente: Naohiko Imagawa

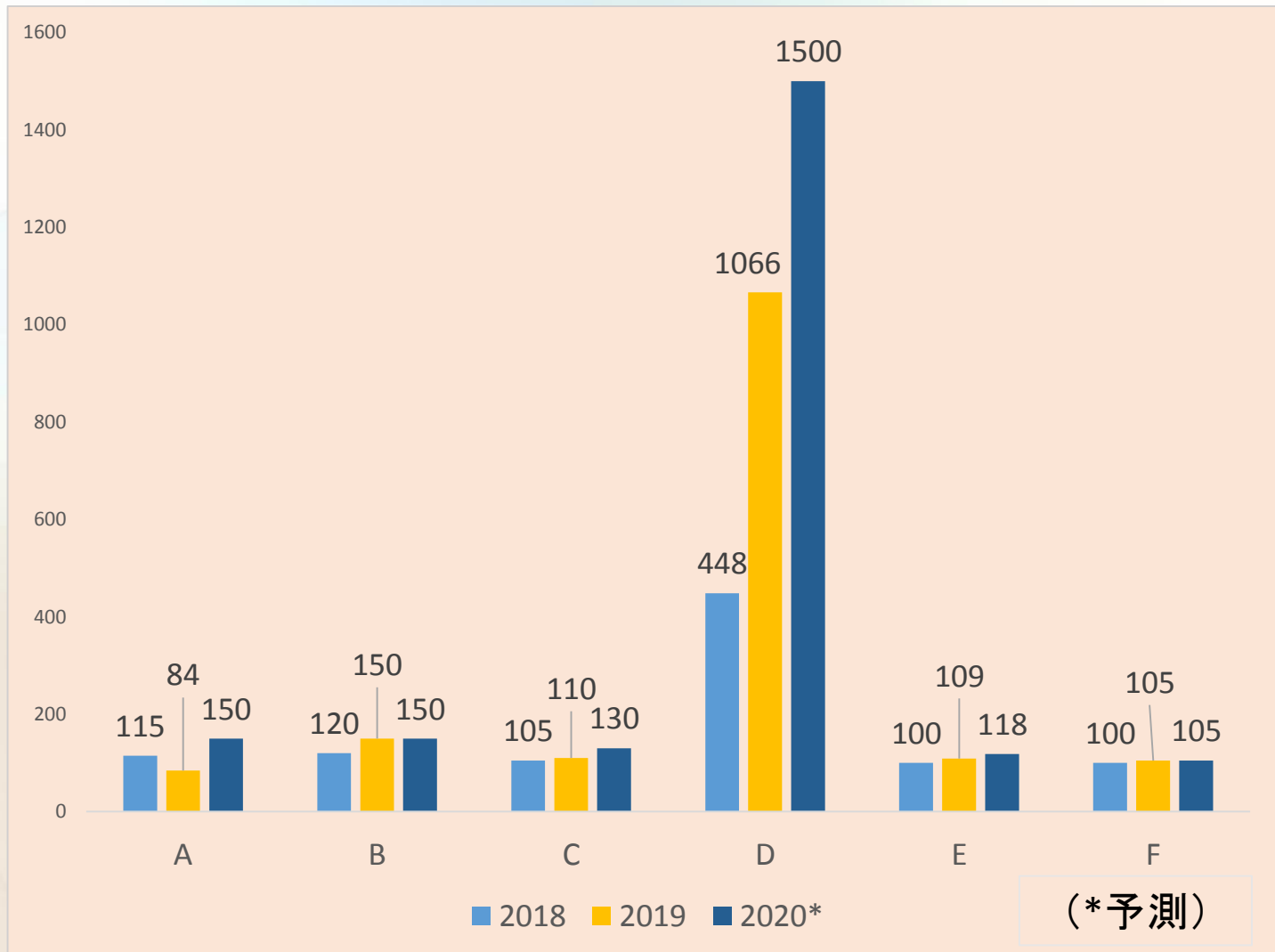
2019年の回顧と2020年の展望

ビジネス環境改善に期待、いま為すべきこと

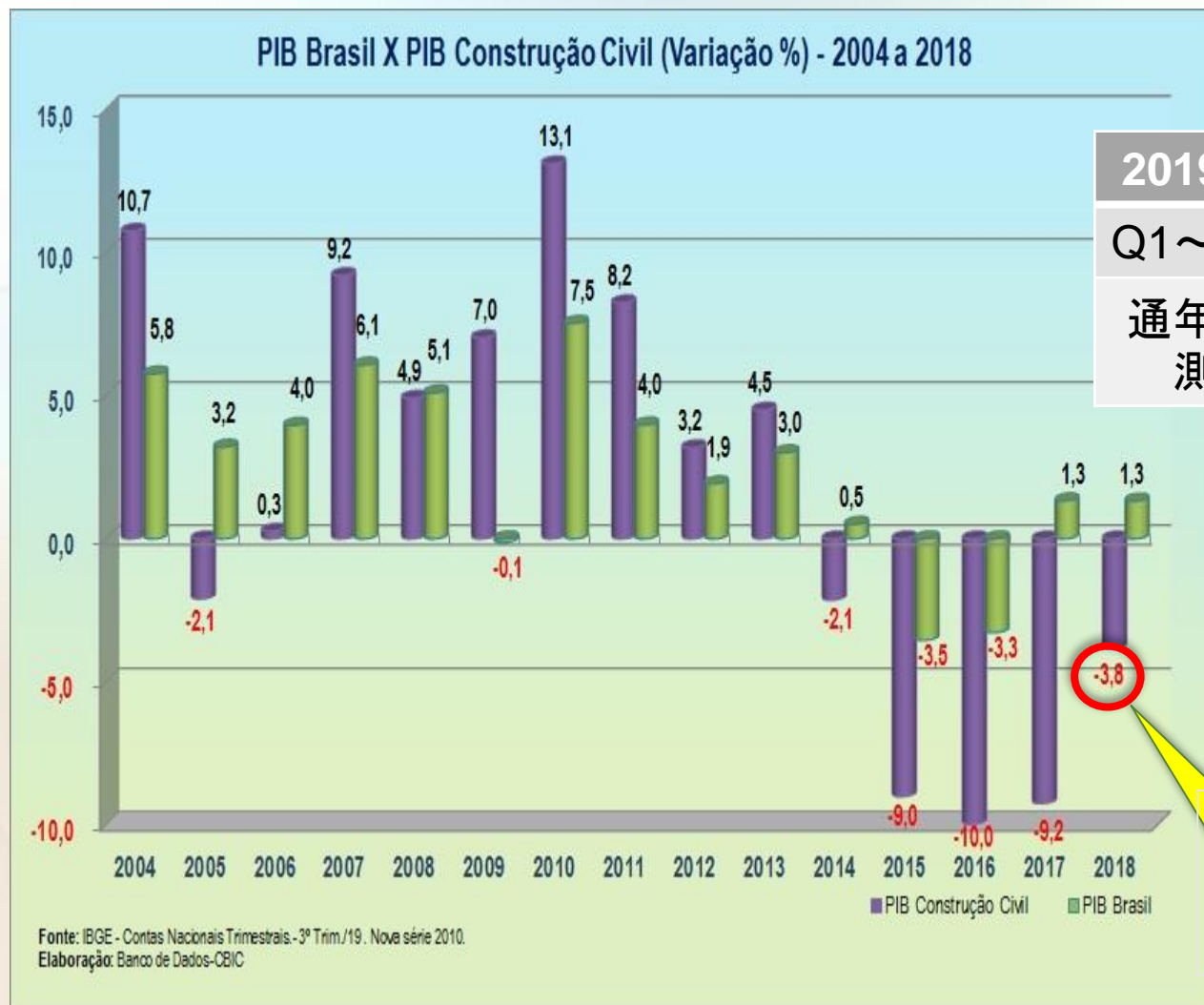
- 部会員の現状
- 業界の傾向
 - 建設
 - 不動産
- 旧・繊維部会より

2020年3月
生活産業部会

部会員の業績（2018～2020*）



建設業界



2019年	全体	建設
Q1～Q3	1.1%	1.7%
通年予測	1.17%	2%

住宅が牽引
2020年は3%予測も

2018年修正後
全体1.1%→1.3%
建設-2.5%→-3.8%

(出所 : CBIC)

建設業界

建設就業者数

2013～18年：－120万人



2019年：約205万人（全就業者数の5.3%）

雇用者数

2019年上期：＋6.5万人

2019通年：＋14.5万人

5年ぶり増
雇用者総数
の1/4



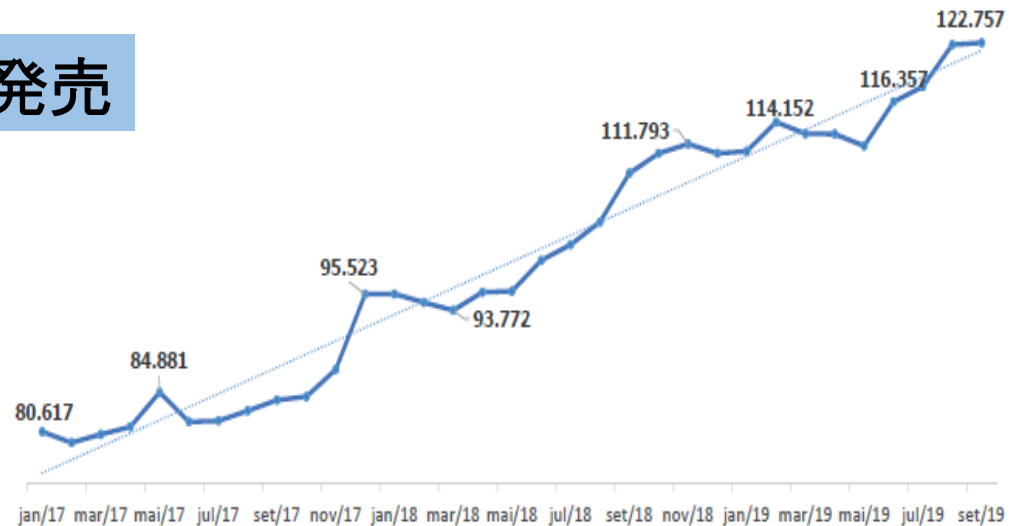
不動産業界

マンション市場

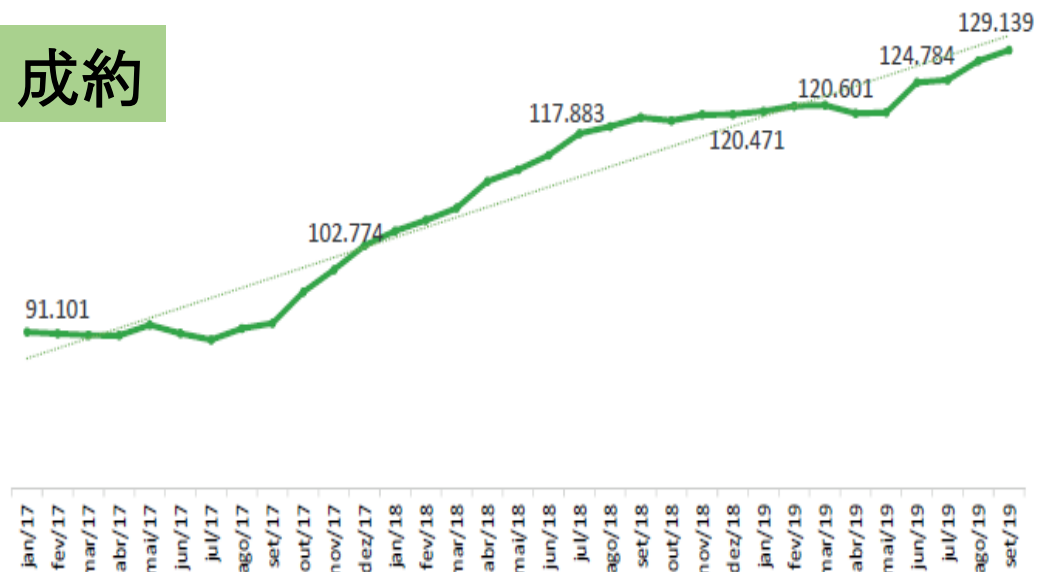
サンパウロ市
発売：55,000
成約：47,000

(出所：
CBIC)

発売

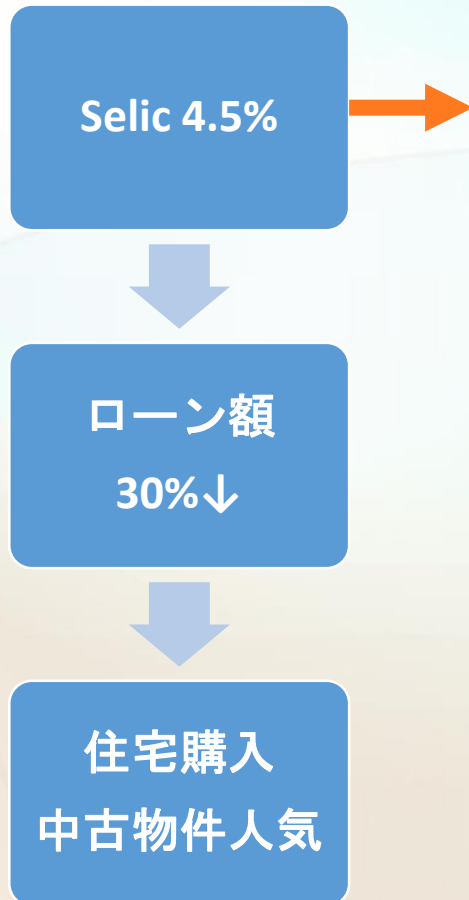


成約

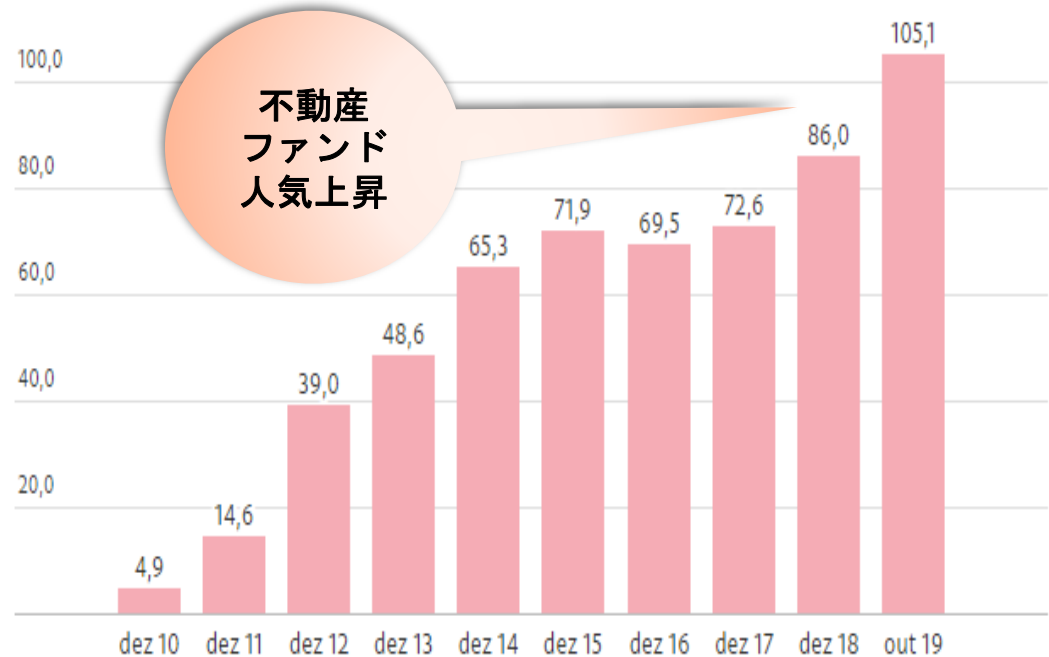


不動産業界

不動産ファンド純資産高



Em R\$ bilhões, referentes último dia útil do período

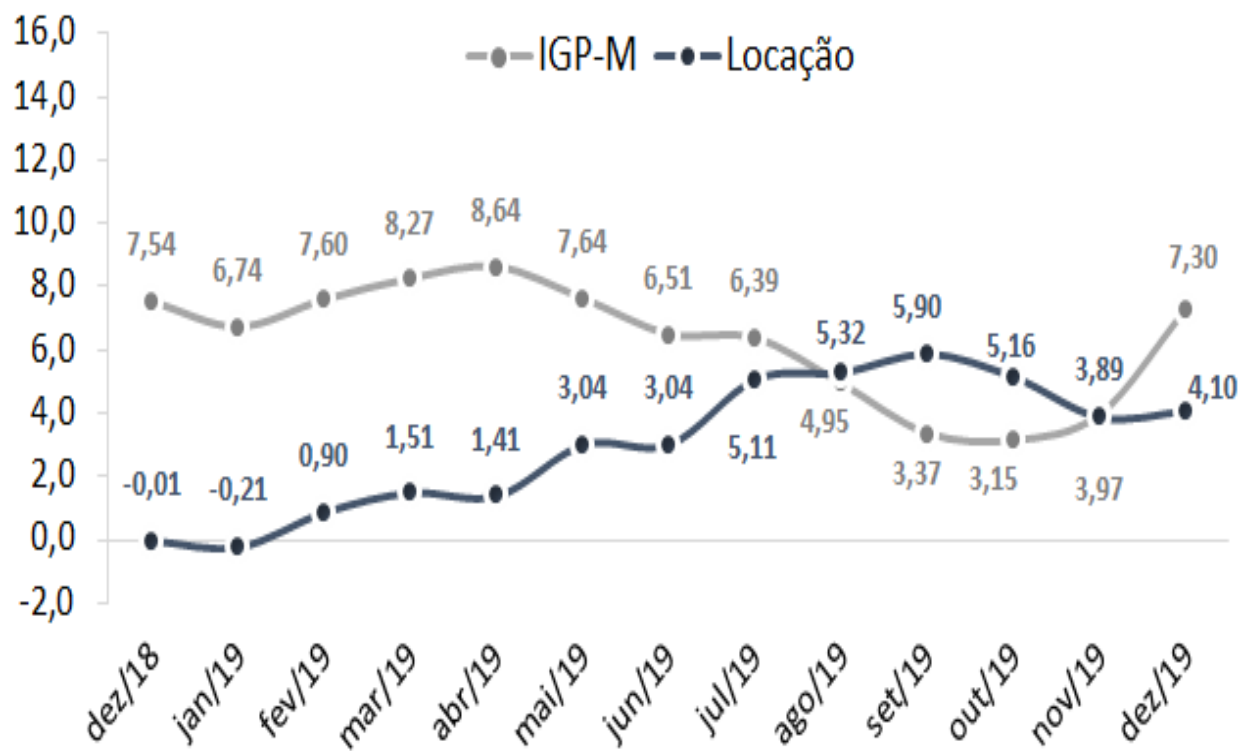


Fontes: Chic, Ambima, BC, Fed, banco central da Austrália e banco central do Chile

(出所 : Folha de São Paulo)

不動産業界

サンパウロ市マンション賃料



(出所 : Secovi-SP)

リビング関連の傾向

heimtextil



2020年1月 ドイツ/フランクフルト

Color Trends(色傾向)

heimtextil



Blue - Green



Earth Tones



Trichrome

青緑系＋アースカラー 全体的におとなしめ



因みに 去年はグリーンとピンク系でした...

SDGs

持続可能性

かなり強調されている



heimtextil



for a better tomorrow



Recycle / Sustainability (持続可能性)

heimtextil



講評

在サンパウロ日本国総領事/
ブラジル日本商工会議所名誉顧問

野口 泰

Avaliação do
Cônsul Geral do Japão em São Paulo/
Conselheiro de Honra da
Câmara de Com. e Ind. Japonesa do Brasil

Yasushi Noguchi

閉会の辞

讃井 慎一 総務委員長

APRESENTADOR

**Presidente da Comissão
de Coordenação Geral**

Shinichi Sanui